はなまき通検定

往来物（おうらいもの）

一般社団法人花巻観光協会

＝ は　じ　め　に ＝

『どなたも　どうか　お入りください。

決して　ご遠慮はありません。』

この往来物（テキスト）は、花巻市民の方々に花巻の歴史・文化・自然・先人などに関する知識を深め、花巻の良さを再認識していただくとともに、市民皆さんで観光客をおもてなしできるようにするために実施する「はなまき通検定」の参考書として作成したものである。

内容は、花巻に関する各分野の専門家に是非に知っておいた方がいいと思われる事柄を拾い集めていただいたものであるが、花巻の全てには、未完成の域を出ていないことを付け加えておく。

そのため、「なん～だ、こんなこと知ってる」から「エッ、これが花巻に？」というようなことがあるかも知れない。また、「なんか足りないのでは？」というところもあると思う。

皆さんに、楽しみながら学習する「楽習」気分で、花巻の知識度を高めていただきたいものである。

そして、気軽にこの検定に参加いただきたい。

平成２６年１２月１日
令和２年７月１６日改訂
令和２年１０月８日改訂
令和２年１０月１２日改訂
令和２年１１月４日改訂
令和２年１２月２日改訂
はなまき通検定「往来物」　発行元／花観堂

『だんなぁ、だんなぁ』　『おおぃ、おおぃ、ここだぞ、早く来ぃ。』

各個人の年表の年齢は、「満年齢」で表しているが、逝去時には満年齢に達していない場合は空欄となっている。

＝ 目　次 ＝

＜あなたは知ってるね？　花巻市の概要＞
こんにちは花巻市・・・・・・・・・・・　１
歴史　・・・・・・・・・・・　２
自然　・・・・・・・・・・・　５
景観　・・・・・・・・・・・　８
温泉　・・・・・・・・・・・　９
＜歴史を感じる文化財＞
神社仏閣　・・・・・・・・・・・１０
民俗芸能　・・・・・・・・・・・１３
祭　・・・・・・・・・・・１４
国指定文化財（国宝）　・・・・・・・・１６
＜技と味な特産品＞
南部杜氏　・・・・・・・・・・・１７
大迫のぶどうとワイン・・・・・・・・・１８
食　・・・・・・・・・・・１９
物産品　・・・・・・・・・・・２３
＜キラリと輝く先人達＞
宮沢賢治　・・・・・・・・・・・２４
高村光太郎　・・・・・・・・・・・３０
新渡戸氏と新渡戸稲造・・・・・・・・・３４
萬鉄五郎　・・・・・・・・・・・３８
多田等観　・・・・・・・・・・・４３
谷村貞治　・・・・・・・・・・・４５
佐藤昌介、島善鄰、淵澤能恵・・・・・４８
＜にぎわいイベント＞
SL 銀河　・・・・・・・・・・・５２
スポーツ　・・・・・・・・・・・５３
イベント　・・・・・・・・・・・５５
＜知ってソンのない？　雑学＞
方言　・・・・・・・・・・・５７
盛岡藩御焼物師　古舘家・・・・・・・６０
いわて花巻空港　・・・・・・・・・・・６１
岩手軽便鉄道　・・・・・・・・・・・６４
花巻電鉄　・・・・・・・・・・・６５

こんにちは花巻市

〇概要

花巻市は平成 18 年 1 月 1 日、旧花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の 1 市 3 町の合併により誕生した。

人口は９３，３０６人(令和２年６月１日現在)、面積は 908.3 ㎢で、岩手県のほぼ中央、西側に奥羽山脈、東側に北上高地の山並みが連なる北上平野に位置している。

市内には北から南へ北上川が流れ、早池峰国定公園や花巻温泉郷県立自然公園など県を代表する豊かな自然環境が広がると共に、豊富な温泉群を有する。

また、宮沢賢治や萬鉄五郎を始めとした著名な先人を輩出するほか、早池峰神楽や鹿踊などの郷土芸能、南部杜氏の伝統技術など、多彩な文化が色濃く伝えられている。

なお、市の花はハヤチネウスユキソウ、市の鳥はフクロウ、市の木はコブシで、平成 19 年 3 月 1 日に制定されました。また、花巻青年会議所と市内の学生たちにより考案された「フラワーロールちゃん」が、平成 21 年 4 月に花巻市の公認キャラクターとなっています。

〇市名の由来

花巻の地名の起源についての定説はありません。

むかし瑞興寺(ずいこうじ)の近くを北上川が渦を巻いて流れておりましたが、春になると多くの桜の花びらが舞い散って美しい花の渦巻になったことから花巻と呼ぶようになったという説です。

アイヌ語で、このあたりを「パナマッケ（川の下に開けた場所）」と呼んだことから出たという説。このほか、かつてこの辺にあった「花の牧」という牧場からとったという説、平安時代にこの地に置かれたと考えられる「磐基(ハンキ)駅」から訛ってハナマキとなり、花巻の漢字を当てたという説もあります。

現在の「花巻」という文字に固定されたのは、江戸時代の初期です。

〇交通

市内にいわて花巻空港、東北新幹線、東北自動車道、東北横断自動車道を有し、県内の高速交通網の拠点となっています。東京からの距離はちょうど 500km で、500km ポイントを示す標柱が東北本線花巻駅と国道 4 号線銀河大橋上にあります。

鉄道駅は、東北新幹線の新花巻駅、東北本線の花巻駅・花巻空港駅・石鳥谷駅、釜石線には東北本線の花巻駅から似内駅・新花巻駅（東北新幹線接続）・小山田駅・土沢駅・晴山駅があります。

東北自動車道には花巻 IC・花巻南 IC の 2 か所があり、間にある花巻 JCT から東へ向かう釜石自動車にも花巻空港 IC・東和 IC の 2 か所があります。平成 24 年 11 月には東和 IC から宮守 IC 間が、平成 27 年 12 月には宮守 IC から遠野 IC、平成 31 年 3 月には遠野 IC から釜石 JCT までの全線が開通しています。

また国道 4 号線沿いに「石鳥谷道の駅」、県道 43 号線に「はやちね道の駅」、県道 39 号線には「とうわ道の駅」があります。また令和２年８月には県道 13 号線沿いに「道の駅はなまき西南」がオープンしました。

歴史

○歴史の概要

花巻市には、古代からの生活の場であったことを示す縄文時代の遺跡が数多くあります。

弘仁２年（811）の「日本後紀」に「陸奥国に和我、稗縫、斯波の三郡を置く」と記述されており、しばらくしてこの地方は、律令制度の下で安倍氏、藤原四代の統治を受けることとなりました。

その後、約４００年にわたって稗貫氏、和賀氏などの治世下となり、稗貫氏は旧花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町（一部）にまたがった地域を、また、稗貫氏と婚姻をなす和賀氏は、現在の北上地方をはじめ旧東和町の大部分を治めていました。

江戸時代には、本地域を南部氏が統治しました。この地方は、盛岡藩の南端に位置し、軍事上の重要な拠点、穀倉地帯として、陸運・船運も発達し栄えてきました。

廃藩置県が行われた後は、明治２２年（１８８９）の町村制施行、昭和２９年（１９５４）前後の町村合併などを経て、花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が誕生し、それぞれ特徴を生かしながら発展を続け、平成の大合併においては、平成１８年１月１日、１市３町による新設合併が実現した。以下に、各時代の概要を紹介します。

○熊堂古墳群（飛鳥時代～平安時代）

熊堂古墳群は、豊沢川北岸に広がる群集墳。大正時代は「蝦夷塚」「四十八塚」とも呼ばれていた。江戸時代（天保年間）の開墾の際に玉類や刀剣類が大量に出土したと伝えられ、豊富な副葬品を出す古墳として、古くから存在が知られていました。

熊堂古墳群からの出土品には、律令国家側との交流によって入手した位を表す革帯や貨幣（和同開珎）、刀剣類（方頭大刀）などがある。玉類も豊富で、勾玉、管玉、切子玉、丸玉などの種類があり、瑪瑙、碧玉、翡翠などの美しい石やガラスで作られてます。

○花巻の町づくり・城づくり（江戸時代）

豊臣秀吉の奥州仕置によって、南の仙台藩との藩境を守り、稗貫・和賀二郡内の行政を行うところとして、花巻は重要な拠点となっています。南部氏は重臣を花巻城代に任命して、城を中心とした花巻の町づくりを進めました。

江戸時代初期、花巻の町づくりに大きな功績を残した人物が、北信愛（松斎）と南部政直の二人であった。

花巻城最初の城代は、南部氏の重臣であった北秀愛（在職 1591～98）だったが、若くして病死。この後を継いだのが、戦乱の世を戦い抜き南部氏の存続に尽力した父の信愛（在職 1598～1613）であります。信愛は、16 年間に亘って城代を務め、城の修復と城下町の整備にその手腕を発揮した。

天正 18 年（1590）と慶長５年（1600）の２度に亘り、旧領主の家臣団による一揆を受けた花巻城の修復は、堀や土塁の整備など防御力の整備に重点が置かれた。

花巻城は外堀にあたる濁り御堀・上御堀・下御堀、内堀の薬研堀、亀御堀等によって３つの郭が区画され、各郭の出入り口（虎口）には、城門が設置された。

城門のうち、追手門、中御門、円城寺門、西御門、早坂御門の５ヶ所は上部に物見台が付く「櫓門」、東御門、馬場御門、台所御門は切妻屋根がのる「高麗門」だった。

○花巻城

天正１９年（１５９１）九戸政実の乱の平定後、稗貫・和賀・志和の三郡は南部氏の所領となり、

鳥谷ケ崎城は伊達領と境を接する要地であったことから、鳥谷ケ崎城を整備して花巻城と改め、南部家の重臣・北秀愛を城代として八千石を与えられました。

花巻城は、戦乱を生き抜いた藩主にとって、他国からの侵略を防ぎ、領国の平和を保つ上で、最も重要な盛岡藩南端の一大拠点でした。

城と城下町の整備は、近世花巻地方ばかりではなく、領内の繁栄を占う大事業であり、時代と地整及び人心を読み、大胆にして緻密な計画に基づいて展開されました。そして花巻城は、戦乱期から藩政期の激しい時代を経て、花巻の今を育んだ貴重な遺産となっています。

【近年の発掘調査の成果では、花巻城は１６世紀末から１７世紀初頭にかけて石垣の構築、土塁・掘割の強化など、城に大幅な改修が加えられたことがわかっています。】

＊花巻城の構造

南北に約５００m、東西で最大７００m、総面積２０万㎡

奥羽山脈から東に延びる段丘の突出部を利用した城で、下位の段丘面との比高は１２m ほどあります。西側は平坦な面が続くため、広く深い堀を巡らしていました。また、城の周辺は、北上川、瀬川、猿ケ石川、豊沢川が囲む自然の要害であり、水運の要所ともなっていました。

城は本丸、二の丸、三の丸の三郭からなっていました。本丸には天守閣は造られず、藩主は宿泊する御殿と城代以下の役人が詰める御用の間がありました。

二の丸には、年貢米を収納する土蔵が造られ、総石高８万石で、藩全体では２６万石でしたので、藩内でも屈指の穀倉地帯でありました。

三の丸には、武家屋敷が軒を連ねていました。盛岡藩は南の仙台藩と藩境を接しているため、花巻城が警備のための駐屯基地の役割を担っていました。

〇新堀城

新堀城址は、稗貫・紫波両郡を一望できる稗貫郡東端の要衝で、稗貫氏一族の新堀氏が、斯波氏監視のために居城したと伝えられています。

天正１９年（１５９１）の奥羽仕置の後、南部氏家臣の江刺氏が城主となりました。頂上の主郭から北西に二つ郭・三つ郭、北東に四の郭を細長く配置して周囲に深い空堀や土塁を配置した山城で、階段状の構築が残っています。主郭北側の「跡石」という方形の巨岩は、新仙寺境内の稲荷神社がかつて祀られていた場所と伝えられています。

〇土沢城

土沢城は、伊達藩との藩境守備のため花巻城と鍋倉城（遠野城）の中間に置かれた城で、慶長１７年（１６１２）に新堀城から移った江刺氏が城主となりました。丘陵地と沢を利用して、本館、中館、西館、東館などの郭と土塁・空堀が構築され、各郭間の堀には川から水が引かれました。城の南側の城内小路付近に侍屋敷・足軽屋敷、その外側に町民屋敷などが整備されて土沢町を形成しました。二度の火災で焼失後、寛文１０年（１６７０）に廃城となりました。

〇毒沢城

毒沢城は、猿ケ石川の約４km 南に位置する標高２５４m の山頂にある山城で、中心部の規模は東西１００m・南北７０m。この北側の山頂にも郭と見られる平坦地が確認されています。和賀氏の家臣・毒沢氏の居城と推定されていますが、毒沢氏に関係する資料がほとんど失われており、詳しいことは不明であります。なお、和賀氏滅亡後に伊達氏に召し換えられた毒沢氏の娘は、正宗の側室として伊達宗勝（後の一関城主）を産んでいます。【浮田地区コミュニティ会議案内板より＝毒沢城は和賀政義の三男盛義が１３６６（貞治５）年に毒沢氏を名乗り、境界守備のために築城した

といわれています。】

○倉沢城

倉沢城は猿ケ石川から約５．５km 南、江刺郡境の約１．５km 北側に位置する山城で、中心部は東西１４０m・南北６０m の規模があります。山頂と斜面の平坦部を利用して郭を配置し、周囲に空堀と土塁が築かれています。和賀・江刺両郡の交通の要衝であり、江刺郡の監視のために和賀氏が築城したと考えられています。和賀氏家臣である安俵小原氏の初代義郷から三代が、安俵に移住する応永７年（１４００）まで居城したと伝えられています。

○参勤交代と花巻（江戸時代）

参勤交代は、徳川幕府が全国の大名を統率するため、一定の期間江戸での勤務を命じ、国元と江戸を往復させた制度。寛永 12 年（1635）「武家諸法度」により制度化され、軍役をして各大名が用意するべき武器や人数が定められています。藩主の日程はあらかじめ幕府に届出て、決まった日までに江戸到着することが義務付けられています。

10 万石（後に 20 万石）の外様大名であった盛岡藩の場合、行列の規模は江戸時代初期は 800 人余りだったが、次第に減少し 500～600 人程度になり、文化５年（1808）には藩財政の窮迫により 300 人程度に縮小された。

盛岡藩の記録によると、盛岡から江戸までの行程約560kmは13泊14日の例が多く見られます。

○庶民の学問（江戸時代）

江戸時代中期、庶民教育の中心的役割を担ったのは「寺子屋」だった。寺子屋では「読み」「書き」を中心に「そろばん」や世間の風習などを教え、庶民の日常生活に必要で役に立つ知識と技能の習得に力が置かれていた。

寺子屋では「往来物（おうらいもの）」と呼ばれる木版印刷の本を教科書として使うことが一般的だった。「往来物」には書簡型式のものや単語・短句集的なもの、地理教育的なもの、各職業で必要な最小限度の基本知識を集めた職業教育的なものがあった。

○揆奮場（きふんじょう）の創立（江戸時代）

江戸時代末期になると、盛岡藩内では文武教育の振興のために、藩校に倣（なら）って各地に郷校（ごうこう）が開設されるようになった。花巻では御給人（ごきゅうにん）松川滋安（まつかわじあん）が私塾を開いて生徒に教授していたが、花巻地方の文武が振るわないことを嘆き、学校を設立する志を立てた。

松川滋安は、妻と共に魚問屋の副業を営みながら資金を蓄え、安政２年（1855）花巻城三の丸に文学教場と武芸道場を備えた施設を建設した。万延（まんえん）元年（1860）、この施設は「揆奮場」と名づけられ盛岡藩に献納された。揆奮場は、東西約 60間（けん）（108m）、南北約 30 間（54m）の敷地に文学教場と武芸道場が備えられてあった。文学教場では国学・漢学・数学・軍学等が教授されたが、教科書となる書籍は高価で、持っている者も非常に少ない状況だった。そのため、揆奮場では花巻御給人の堀内純平（ほりうちじゅんぺい）、三九郎（さんくろう）兄弟に木版活字を作らせ、備え付けの教科書として印刷した。

○交通の近代化と花巻（明治～大正時代）

明治 23 年（1890）11 月、上野～盛岡間に鉄道が開通し花巻駅が開業した。これにより、それまでの北上川の舟運から鉄道運輸に切り替わり、商業取引の範囲が広がると共に、大量運送が可能になった。しかし、太平洋沿岸部との連絡は北上高地が大きな障害となっていた。明治 43 年（1910）、地域間の連絡と開発を目的とした軽便（けいべん）鉄道法が施行され、岩手県では翌 44 年に花巻を基点として遠野経由で釜石と結ぶ岩手軽便鉄道株式会社（資本金 100 万円）が創設された。４年後には、花巻ー仙人峠間が開通し、峠越えのケーブルを介して釜石鉱山鉄道と繋がった。

自然

○地形

花巻市は西に奥羽山脈、東に北上高地の山並みが連なり、間に肥沃な北上平野が広がっています。平野部には北から南に北上川が流れ、ここに奥羽山脈から葛丸川・耳取川・滝沢川・瀬川・豊沢川などが注ぎ、北上高地からは稗貫川・添市川・猿ヶ石川などが注いでいます。上流には早池峰ダム（稗貫川上流）・葛丸ダム（葛丸川）・豊沢ダム（豊沢川）・田瀬ダム（猿ケ石川）があります。

以下に代表的なものからいくつかを取り上げ、詳細を紹介します。

○早池峰山と薬師岳

早池峰山(1917m)は、５～４億年以上前の古生代オルドビス紀～シルル紀の日本最古級の地層が眠っているとされ、現在のような山容になるまでには、大きな移動や隆起、浸食などを繰り返したと考えられています。しかし、陸地化してからは一度も海中に沈むことはなく、氷河時代の激しい寒暖の差によって形成された岩塊は、早池峰山独特の景観を形成することになった。

早池峰山は、日本の山の規模としては高さも広さも極めて小さいが、固有種であるハヤチネウスユキソウ、ミヤマヤマブキショウマ、ナンブトラノオ、ナンブトウウチソウ、ヒメコザクラをはじめとする、数多くの高山植物が生育している点で学術上極めて貴重な山であります。その要因としては、早池峰山が形成された年代が極めて古く、他の高山にはみられない古い起源の植物が生育していることや、超塩基性の蛇紋岩からなる地質が他の植物の進入を防いだことによります。

一方、早池峰山の南に対峙する薬師岳（1645m）は、その山体が花崗岩からなり、独特の森林植物帯を構成しています。このことにより、早池峰山と薬師岳は近接しながらも、植物群に明瞭な違いが認められることから、「早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落」として国の特別天然記念物に指定され、一帯は国定公園として保護されています。

○花輪堤ハナショウブ群落

「花輪堤ハナショウブ群落」は、花巻市宮野目の宮野目小・中学校の北、JR 東北本線のすぐ東側の平地に所在しています。指定地域は約 16,700 ㎡に及び、ノハナショウブ自生地としては本州北限といわれています。周辺は、「花輪堤 花菖蒲ふれあい公園」となっており、市民の憩いの場として利用されており、「花輪堤ハナショウブ群落」のノハナショウブの花の色は、淡い赤紫色や青みがかった紫色などさまざまで、開花の季節（６月下旬から７月中旬）には色彩あざやかな可憐な花を観察することができます。堤の中は天然記念物の指定地域であるため立入禁止となっていますが、公園内南東側の土手上から咲いている花々を見ることができます。

○カズクリ自生地

カズクリは東和町の石鳩岡に所在しています。本来クリは雌雄同株で、普通のものは花序の基部に1～2 個の雌花をつけ、他はすべて雄花を着生します。カズクリの場合は、花序に着生する花はすべて雌花で、雄花は全く生じないという着花習性の異常型で突然変異の所産であります。

八房栗とも呼ばれる通り、実がなる頃になると大小無数のイガが長く連なって１５～２４cm になり、ブドウの房や哺乳類の尾のように見えます。イガのうち完全な果実となるのは基部のものだけで、中央部から先端にかけてはイガのみになり。基部の果実は 1 個のイガの中に 3～4 個の種子が入り、ちょっと小粒。日本の中では、長野県の和田峠にもあったが、大正の頃に枯死し、この地域にのみ現存が確認されている珍木であります。

○葛丸川渓流

石鳥谷町にある6km にわたる渓流。バードウォッチング、渓流釣りに最適で、紅葉の名所としても有名。葛丸ダム、一ノ滝のほか、毎年測定会が行われるたろし滝もあります。

また、宮沢賢治の童話「楢ノ木大学士の野宿」の舞台にもなっています。初期形では「青木大学士の野宿」といい、賢治が葛丸川流域の土性調査の下調べのため、野宿をしながら踏査した時の事柄が童話となった。作品中、４人兄弟の山々の親に当たるのが青ノ木森で、ダム周辺に実在する山であります。葛丸川周辺にはこのほか高狸山、塚瀬森などがそびえています。

葛丸川上流にある葛丸ダムは農林省により建設された農業専用のダムで、紫波町の山王海ダムと２本のトンネルで結ばれた日本初の親子ダムであり、湖畔には展望台や宮沢賢治の歌碑（「葛丸」）などが整備され、散策にも適しています。

たろし滝はとげし森から葛丸川にそそぐ沢水が山の中腹で凍ってできる大氷柱。「たろし」とはつららの意味で、古語の「垂氷」がなまったもの。出来る氷柱の形が滝に似ていることからこの名がついたとされ、昔から大瀬川地区(古くは畑地区)では、氷柱の太さでその年の作柄を占ったとされています。氷柱の高さは 13mあり、太さは記録が残っているものでは大豊作となった昭和 53 年の８m が最高。毎年２月 11 日に測定会が行われています。

○大空滝

規模　高さ＝８３m、幅＝６m。滝は７層になっています。

位置　花巻西方に、花巻市と雫石町の境にある標高８６０m の「なめとこ山」付近に位置しています。

銀河なめとこライン（主要地方道花巻大曲線）を西に進み県道花巻雫石線との分岐点より車で３分、中山１号トンネルを出たところ右手に大空滝散策路の登り口があり、そこから徒歩約３．４km 片道７０分を要し滝に到着します。

大空滝周辺一帯は、今なおブナの自然林が多く茂っており、樹齢百年以上の巨木も堂々と立っており、その姿には感動を覚えるほどだ。滝への散策路、さらに中山峠までの道を歩いて、そんなブナ林に出会うのもいい。（さらに3km 片道６０分延長）

まるで大空から滝が降ってくるように見えることから、この名前が付いたと言われています。

【宮沢賢治作童話「なめとこ山の熊」より】

> 中山街道はこのごろ誰も歩かないから蕗(ふき)やいたどりがいっぱいに生えたり（中略）そこをがさがさ三里ばかり行くと向こうの方で風が山の頂を通っているような音がする。気をつけてそっちを見ると何だかわけのわからない白い細長いものが山をうごいて落ちてけむりを立てているのがわかる。それがなめとこ山の大空滝だ。

○胡四王山

胡四王山は、市街地の東部・北上川の東に位置する標高１８３m の小高い山であり、宮沢賢治は、「雨ニモマケズ」を記した手帳に「経埋ムベキ山」と題された岩手県内の３２の山々の名前が記されており、この山はその２番目に書かれた最もゆかりの深い山であります。

このことから、この山には宮沢賢治記念館やイーハトーブ館が建てられ、賢治の文語詩未定稿「丘」でもこの山をとりあげています。

また、胡四王山一帯は、岩手県の環境緑地保全地域に指定され、植物の種類に富み、薬草・山菜は無論のこと、小鳥や昆虫の種類も多いです。

山頂付近にある胡四王神社へ通じる参道の中腹には、「化女石」といわれる石がありますが、昔女

人禁制で、女がこの山に登ることが禁じられていたが、その定めを破って山に登った女人が石と化したものと伝えられている。このほかにも、触れると愛が生まれるといわれる珍木「愛染杉」や北側に位置する三峰神社「岩谷不動の胎内くぐり」などがあり、多くの市民の憩いの場や散策エリアとなっています。

＊市指定天然記念物（動物）「胡四王山のヒメギフチョウ群生地」

ヒメギフチョウは、「いわてレッドデータブック」ではＣランク（存在基盤のき弱な種）とされ、県内に広く分布しているが環境の悪化により生息数は減少しています。

＊市指定有形文化財構造物「胡四王神社拝殿と本殿」

坂上田村麻呂が薬師如来を祀った場所で、当初は天台宗の薬師堂だったと伝えられています。拝殿は慶応３年（1867）、本殿は大正元年（1912）の建築で「大和流」の彫刻が各部に飾られています。

○早池峰山

標高１９１７m、北上山地の最高峰で、山肌のいたるところに巨岩、巨石が露出し、そのはざまは氷河期の厳しい自然に耐えて生き残った、可憐な高山植物が咲き誇っています。（山頂は、花巻市、遠野市、宮古市の３つの市の境界となっています。）３つある登山コースのうち、一般的なのが河原の坊コースと小田越コース。（河原の坊コースは登山道の崩落により平成２８年5月２８日から通行止め。）急斜面ですが、初心者でも３時間で山頂へたどり着けます。高山植物で有名な早池峰山は、樹林帯の紅葉も美しい。蛇紋岩で構成される早池峰山のすそ野に鮮やかな紅葉が広がる様は、麓から見上げる眺めの素晴らしさはもちろんのこと、５合目付近から見下ろすパノラマは正に絶景であります。

「山開き」　毎年６月第２日曜日

◆早池峰山固有種

＊ハヤチネウスユキソウ（キク科）＝早池峰山の象徴ともいうべき本山固有種。花期は７月～８月で高山帯中腹付近から現れ始めます。白毛で白く見える葉を薄く積もった雪にたとえて「薄雪草」と名付けられました。

＊ナンブトラノオ（タデ科）＝花期は７月～８月。遅いものでは９月に入って咲くものもあります。高山帯下部から山頂付近の広範囲で草地や礫地に自生。草丈は２０センチほどで、先端に「虎の尾」の由来となったピンクの小花を多数つけます。

＊ナンブトウウチソウ（バラ科）＝花期は７月～８月。高山帯南斜面の草地や礫地で多く見受けられ、美しい淡紅紫色の花を穂状密集。「トウウチ（唐打）」とは昔中国から渡米した打紐のことで、花穂の形状がそれに似ていることから名づけられました。

＊ヒメコザクラ＝日本産のサクラソウの仲間では一番小さく、花径は１センチ程度。６月初旬から中旬に見ごろを迎えます。

◆早池峰山の保護と指定

＊早池峰国定公園＝昭和５７年（１９８２）、特別天然記念物をはじめ、天然記念物・自然環境保全地域が国定公園の指定を受けました。

＊自然環境保全地域＝昭和５０年（１９７５）から、早池峰北山麓のうち、西よりの約１３７０ha が指定されました。

＊早池峰鳥獣保護区＝鳥獣保護区として６１１８ha が指定されており、このうち２４２２ha は鳥獣特別保護地区となっています。

＊特別天然記念物「早池峰山高山植物帯」＝昭和３２年（１９５７）、河原の坊コース上部約４０ha が国の天然記念物に指定。昭和３２年（１９５７）、同区域が特別天然記念物に昇格。昭和４９年（１９７４）、指定区域が標高１３００m 以高の早池峰連山全域に拡張されました。

＊天然記念物「アカエゾマツ自生南限地」＝昭和５０年（１９７５）、早池峰北斜面の６．９２ha 部分が国の天然記念物に指定されました。

＊保安林＝早池峰地域の一帯は、保安林（水源かん養保安林、土砂流出防備保安林）の指定を受けています。

あなたは知ってるね？花巻市の概要

景観

○国指定名勝　イーハトーブの風景地

宮沢賢治の文学的景観として国の名勝に指定された「イーハトーブの風景地」には、花巻から「釜淵の滝」「五輪峠」（平成 17 年３月指定）「イギリス海岸」（平成 18 年７月指定）が選ばれています。

釜淵の滝は、花巻温泉・佳松園の近くにある滝で、瀬川の上流でさらに支流となる台川の峡谷にあります。丸く盛り上がる岩床の表面を舐めるように水が洗っている美しい滝で、宮沢賢治の文学作品「台川」に登場します。作品「台川」は、宮沢賢治が稗貫(花巻)農学校の野外授業で生徒たちを引率し、台川沿いを遡って釜淵の滝に至った際の経験をもとに書かれたようであります。

五輪峠は、花巻市・奥州市・遠野市の３市の境界が接する北上山地の中、標高５５６m の場所に位置しており、峠の道脇に五輪塔が建っていることから、「五輪峠」と名付けられています。五輪塔は、５つの石を積み上げて造られており、一番下の四角いものから順に、地・水・火・風・空を表しています。全体の高さは約２４０cm。そのとなりに立つ石碑には、賢治の五輪峠の詩がきざまれています。

五輪峠と名づけしは　地輪水輪また火風
（巌のむらと雪の松）　峠五つの故ならず
ひかりうづまく黒の雲　ほそぼそめぐる風のみち
苔蒸す塔のかなたにて　大野青々みぞれしぬ

イギリス海岸は、北上川と支流猿ケ石川の合流点から南にかけての北上川西岸に、イギリスのドーバー海峡に面した白亜の海岸を連想させる泥岩層が露出することにちなみ、宮沢賢治が「イギリス海岸」と名付けた。作品「イギリス海岸」は、稗貫(花巻)農学校の夏休みの農場実習の合間に、宮沢賢治が生徒たちを引率して町の人たちの水浴場となっていた「イギリス海岸」を訪れ、北上川で泳いだり、動物の足跡や炭化した胡桃の化石を発見した際の経験をもとに書かれたようであります。

○花巻八景

合併前の旧花巻市で、平成 16 年に市民の公募で選定された、旧花巻市を代表する風景地。

円万寺観音山散居風景・釜淵の滝・大沢の曲り橋風景・高村山荘・清水寺・平良木の立岩・大空滝とブナ林・イギリス海岸の８つです。

○東和ミステリースポット

東和町ではミステリースポットとして丹内山神社、カズクリ、ミステリー坂、七つ鉢の４つを紹介しています。（丹内山神社とカズクリは別項参照。）

ミステリー坂は東和町東晴山にある石岡山スロープ。缶や水、ギアをニュートラルにいれた車など

が坂を登って行くように見えます。目の錯覚と言われていますが、詳しい理由は判っていません。

「七つ鉢」は七つ滝のおう穴（甌穴）のことで、市の天然記念物にも指定されています。おう穴とは岩盤のくぼみに入った小石が流れで回転して岩石を削ってできる円筒形の穴のこと。この七つ滝では、穴を七つの鉢に見立てて、「七つ鉢」と言います。「水をかき混ぜると雨が降る」という言い伝えは、干害に苦労してきた地域の歴史を思わせています。

あなたは知ってるね？花巻市の概要

温泉

○花巻の温泉

日本中に宿泊施設を伴う温泉地が 3085 か所（2014 年）あるといわれているが、花巻には 12 カ所もあり、全国でも珍しい温泉天国であります。

台温泉を始め鉛、大沢、志戸平の各温泉は、湯元が発見された年代について様々な説がありますが、300 年～400 年前と云われています。

市内の温泉の泉質は、いくつかの異なる温泉もありますが、概ね炭酸水素塩泉（アルカリ泉）であります。（皮膚病（湿疹・アトピー皮膚炎）、飲泉で胃潰瘍、痛風に効果あり）

台温泉は花巻で最も早く発見され、南部藩お抱えの歴史ある温泉として栄えた。平地の少ない湯の沢川（台川支流）沿いの谷底に位置していたため、更なる温泉街の拡充は困難であった。そこで同温泉からお湯を引いて新しいスパリゾート開発をしようとの構想が生まれ、現在の花巻温泉に至ります。台温泉の泉質・効能はそれぞれの旅館によって異なる特徴を持っており、源泉数 11 本を数えます。

花巻温泉は、兵庫県宝塚新温泉にならって電車を走らせ、且つ遊園地や動物園、スポーツ施設等も兼ね備えた北日本初のスパリゾート『台遊園地新温泉』として大正 12 年（1923）華々しく開業した。中でもナイタースキー場が日本初であったことはあまり知られていません。

また北上川の東側では温泉が出ないという説を見事に覆した東和温泉、温泉を医療施設用にとボウリングした松倉温泉（現悠の湯風の季）・ひまわり温泉（今はいずれも目的変更）、新鉛温泉は豊沢ダム建設工事の技術と人材を活かしてできた温泉と云って良いです。

渡り温泉は女性客をターゲットに、鉛温泉は宮沢賢治の作品に、大沢温泉は光太郎・賢治ゆかりの温泉でもあります。

温泉名	開業年	歴　　史	収容人員	泉質
花巻温泉	1923 年 (大正 12)	台温泉より温泉を引き込み、電車・遊園地・スポーツ施設等備えた北日本初のスパリゾートとして開発された。	2182	単純温泉 (佳松園はﾅﾄﾘｳﾑ泉)
台温泉	不　　詳 (1673 年以前?)	湯壺 1387 年頃の発見との説あり。 南部藩お抱えの歴史ある温泉として栄えた。	432	旅館により異なる。弱ｱﾙｶﾘ・硫黄・Na・硫酸塩泉など。
金矢温泉	1980 年 (昭和 55)	厚生年金事業団保養施設として開業。現在は民営となっている。	70	アルカリ性単純温泉
悠の湯（旧松倉温泉)	1965 年 (昭和 40)	もともと医療保養施設用としてボウリングした温泉。	180	アルカリ高温泉
志戸平温泉	1830 年	大沢温泉創業の久保田一族が木賃宿として開業。温	922	ﾅﾄﾘｳﾑ-硫酸塩・塩化物

	(天保元)	泉は 1639 年頃発見。		泉、単純温泉
渡り温泉	1990 年 (平成 2)	高弥建設グループとして、女性客を意識して創業。	528	単純泉
大沢温泉	1791 年 (寛政 3)	1630 年代志戸平と前後して村人により発見。秋田の久保田城から湯口に落ち延びた久保田一族が開業した。	527	アルカリ性単純泉
山の神温泉	2005 年 (平成 17)	水沢の丸伊工業が主として日帰り入浴施設だった山ノ神温泉をリゾート開発した。	340	アルカリ単純高温泉
鉛温泉	1789 年 (寛政元)	村人藤井三右エ門によって源泉発見(1763 年)。子息が湯壺整備。賢治作品に登場する(鹿踊りのはじまり、なめとこ山の熊)	187	アルカリ性単純高温泉
新鉛温泉	1962 年 (昭和 37)	温泉峡の最奥部の温泉。高齢者に人気が高い。 ※鉛と新鉛の中間に「西鉛温泉(秀清館)」があった。(1919～1952)	564	ﾅﾄﾘｳﾑ・ｶﾙｼｳﾑ-硫酸塩泉、ﾅﾄﾘｳﾑ-硫酸・炭酸水素塩泉
東和温泉	1996 年 (平成 8)	旧東和町がふるさと創生事業の一環として開業。JR「フォルクローロいわて東和」を隣接している。	82	弱ｱﾙｶﾘ単純温泉
花巻北温泉	1997 年 (平成 9)	もともと医療用としてボウリング。日帰り「ぎんがの湯」に隣接して宿泊施設「健考館」がある。	26	アルカリ高温泉

歴史を感じる文化財

神社仏閣

○鳥谷崎神社

鳥谷崎神社の創建は、その年代は定かではないが、前九年の役康平年中（1060）源頼朝・義家父子によって、現在の吹張町の地に勧請（かんじょう）したと伝えられる八幡神社を、正和２年（1313）稗貫氏が鳥谷崎城に奉還した。更に天文５年（1536）城内にそれぞれ鎮座せる鳥谷崎神社・稲荷神社の三社を合祀（ごうし）し、社号を「鳥谷崎座三柱神社」と改称した。その後、当地方を取り巻く状況は、時の流れとともに移り変わってきたが、現在の神社の姿は、明治の末年になり更に町内の三社を合祀し六祭社とし、社名を「鳥谷崎神社」に改称したことによります。

神社境内には、宮沢賢治歌碑と高村光太郎詩碑が建立されている。

◆藍革威胴丸（あいかわおどしどうまる）１領　兜、大袖、小具足付（南部義政公甲冑）

【県指定有形文化財・工芸品】

胴丸は中世の鎧の形式の一つであり、室町時代に全盛期を迎えた。この資料は、南部家１４代義政が着用したと伝えられるもので、江戸時代初期に修理復元されており室町時代当時の面影をよく留めています。

◆円城寺門（えんじょうじもん）【市指定有形文化財・建造物】

この門は、慶長１９年（1614）の花巻城築城整備にあたり、和賀氏の本城であった飛勢城（とばせじょう）（二子城）大手門の部材を主として建築されたもので、三の丸搦手の円城寺坂に建てられたため円城寺

門と呼ばれた。戦後、現在地・鳥谷崎神社に移転復元され、花巻城唯一の貴重な遺構として保存されています。

◆南部利剛夫人乗物（なんぶとしひさふじんのりもの・駕籠）１乗【市指定有形文化財・工芸品】

南部家４０代利剛は、徳川斉昭の三女を夫人としているが、この駕籠はその輿入れの際に使用された。総黒漆に金蒔絵で徳川家の家紋が入り、透戸付きで内部に彩色絵飾りがある。南部家から鳥谷崎神社に寄進されたもので、当時の美術工芸品として貴重なものであります。

○熊野神社（通称三熊野神社）

東和町北成島の熊野神社は、国指定有形文化財である毘沙門堂と同じ境内にあります。この神社は、征夷大将軍坂上田村麻呂がエミシ征伐の時、この地で紀伊の熊野三山に戦勝祈願をしたところ難なく平定することができたことから、熊野の三神を勧請して熊野神社を建立したと伝えられています。康平５年（1062）には源義家が安倍貞任を追撃してここに立ち寄った時、熊野神社に鏑矢を納めて戦勝祈願をしたところ、安倍氏を破り奥羽を平定する事ができたとも伝えられています。

中世には、和賀領主より社領７０石を寄進され、元和４年（1618）に南部利直公より社領２３石をいただいています。岩手県内では数少ない、中世に成立した建築様式をもつ建造物であることから、昭和５４年に県指定文化財になっています。

境内では、５月と９月に「泣き相撲」が開催されます。９月の神社例大祭に開催される「十二番角力式泣き相撲」は市指定無形民俗文化財となっています。(詳細別項)

○毘沙門堂

東和町北成島にある毘沙門堂は、宝形造で鉄板葺のやや大型の三間堂で、廻り縁と向拝がついています。堂内にあった木造毘沙門天立像は、近くに建設された耐火構造の保存施設に安置されています。毘沙門堂は延宝元年（1673）に修理をしていますが、各部の仕上げや建築手法などから、室町時代後期に建立されたものと言われています。県内に残る数少ない中世建造物であり、平成２年に国指定重要有形文化財となっています。

○毘沙門天立像

毘沙門天立像は、平安時代に朝廷が東北地方を平定したときに、四天王の一つである北方世界の守護神である毘沙門天（別名：多聞天）を作って奉納したものといわれています。岩手県内で最も大きな仏像の一つで、全体の高さは４７３cm であります。

毘沙門天立像の体は１本の欅の木を彫り込んだ「一木造」で、像全体に鮮やかな彩色がほどこされています。毘沙門天の足下では、地天女が両手で支えており、毘沙門天立像１体と二鬼坐像（藍婆と毘藍婆）を一組として、国指定重要有形文化財となっています。

伝吉祥天立像は、高さ１７５cm の一木造りで、豊かな体つき、右足を軽く曲げ、腰をひねった姿、衣の襞の表現などの特徴から、平安時代初期に作られたと考えられている。県内にある一木造の仏像の中で最も優れた美しい仏像といわれており、やはり国指定重要文化財となっている。

○丹内山神社

東和町谷内の丹内山神社は、創建時期は不明だが、平泉藤原氏の時代に社堂や仏像、土地などが寄進されたと伝えられています。そのことを裏付けるように丹内山神社の裏山からは、平泉藤原氏時代のものと考えられる経塚から、白磁の影青四耳壺や古鏡、中国古銭などが出土しており、この時代を知る貴重な資料として経塚及び出土品は県指定文化財となっています。

丹内山神社本殿は、文化７年（1810）に建立され、棟札により棟梁の名前や年代なども確認できることから、平成２年に県指定文化財となっている。この時に建物内部にある「厨子」も一緒に指定

されており、これは調度品・書画・経典などを納めるためのもの。本殿の特長は、千葉八重郎の作と言われている外壁・脇障子・正面格子扉などに「竹林の七賢人」「菅原道真」「紫式部」といった彫刻が施され、大変美しい建造物となっています。

そのほかにも丹内山神社所縁の文化財は多く、県指定文化財の木造十一面観音立像、市指定文化財の一ノ鳥居、不動明王立像、擬宝珠などのほか、付属する社風神楽、雅楽なども市指定となっています。また、根元周りが１２ｍもあるじい杉の根は、大正２年に火災に遭って根元だけになってしまったが、神社のシンボルとして市の天然記念物に指定されています。

○清水寺

花巻市太田の清水寺は大同２年（807）に坂上田村麻呂が勧請したと伝えられていて、京都の清水寺、兵庫の清水寺とともに日本三清水として知られた古刹。奥羽（当国）三十三観音札所の第一番札所としても知られています。

江戸時代までは本山修験宗に属し、京都聖護院の末寺となっていたが、明治の神仏分離令によって修験宗寺院は廃寺に追い込まれたため、清水寺は天台寺門宗に改宗して近江の三井寺に属し、現在に至っています。

本堂には、像高８cm、鋳銅製の薬師如来懸仏が伝わっており、鏡板は欠失しているが、作風から南北朝から室町時代初期にかけてのものと思われ、市指定文化財となっている。

境内にある昭和２年（1927）に建立された山門は、壮麗であり、二階には三十三観音の写し霊場があり、一階には阿形・吽形の仁王像が祀られている。また、千体薬師堂には、地区民から奉納された薬師如来など 1001 体を安置している。

○円万寺観音山

花巻市円万寺にある円万寺観音山には、円万寺観音堂と八坂神社が並んで建ち、かつて神仏混淆が盛んであった時代の姿を彷彿させる。観音山の麓には、古代から中世にかけて奥州の南北を結ぶ古街道が通っていたといわれ、山頂には空堀や土塁が残っていて、街道を守るための館（山城）が築かれていたことがわかる。

境内には市内で最も古い年号をもつ南北朝時代の正慶元年（1332）の石碑や、異様な形に見える祖母杉などが見られる。祖母杉は、大同３年（808）に坂上田村麻呂が「戦いの勝利の後、観音様をお迎えしよう」といってそのしるしに植えたといわれる杉の木で、天保年間の火災により主幹部分が焼失し、現在も樹皮だけの幹で、枝の重さをささえながら生き続けている。

この他、境内の一角には、戦時中に花巻に疎開していた多田等観のために村人が建てた「一燈庵」という草庵がある。

また、円万寺観音堂には「忍び駒」という民芸品が伝わっている。稲藁を材料にした素朴な馬人形で、縁結びや子孫繁栄、五穀豊穣などの祈願として、人目を忍んで藁馬を供え、その成就後には持ち帰って美しく色布、鈴などで飾り、お礼参りをしたという。昭和４１年には、郵政省の記念切手としても採用され、それを記念して境内に石碑が建立されている。

館跡があったほか、観音堂や八坂神社が並んで建っているこの地からは、眼下に散居風景が一望できるほか、遠くには早池峰山の雄姿を見ることもでき「花巻八景」にも選ばれている。

民俗芸能

○早池峰神楽

早池峰神楽は、花巻市大迫町内川目地区に伝承されている神楽で、岳集落に伝わる岳神楽と、大償集落に伝わる大償神楽の二つの神楽座の総称。神楽の由来は定かではないが、早池峰山を修験道場としていた山伏たちによって代々舞い継がれてきたといわれ、山伏神楽とも呼ばれている。岳地区にある早池峰神社には「文禄四年(1595)」銘の獅子頭が残されており、少なくとも４００年以上前には伝えられていたことがわかる。舞いの至るところに「能」大成以前の古い民間芸能の要素を残していることから、中世の香りを伝える希有な神楽として、昭和５１年に国の重要無形民俗文化財第１号に指定され、平成２１年９月にはユネスコ無形文化遺産に登録された。

両神楽の関係・相違については多くの意見があるが、一般的に岳神楽は五拍子でテンポが速く「勇壮」、大償神楽は七拍子でテンポがゆるやかなので「優雅」と評される。また、大償神楽の山の神面が口を開けた「阿」形であるのに対し、岳神楽の面は口を閉じた「吽」形であることから、「阿吽」の神楽とか、兄弟神楽とか言われることもある。

戦前までは、農閑期の 11 月ごろから翌年２月頃まで、権現様と呼ばれる獅子頭を奉持して、稗貫郡や和賀郡、紫波郡などを廻村巡業していた。「通り神楽」とか「廻り神楽」とか呼ばれたこの巡業形態も、戦後には途絶えてしまい、現在では神社の祭礼や、歳祝・新築祝い・結婚式等の祝事で招かれたり、各種イベント等に呼ばれて公演することが多くなった。

○鹿踊（鹿子踊、獅子踊、獅子躍）

岩手県内には二つの系統の鹿踊が伝わっている。一つは県南地方の旧仙台藩領を中心に伝わっている、腰につけた太鼓をたたきながら踊る「太鼓踊系鹿踊」といわれるもの。もう一つは、遠野地方を南限として旧盛岡藩領に伝わる、太鼓をつけずに衣装の幕を持って踊る「幕踊系鹿踊（別名・カンナガラ鹿踊）」である。衣装等は異なっているが、どちらも一人立ちで八人一組となるのが基本。市内には両系統の鹿踊が伝わっており、仙台藩と境を接していた地域の特徴を表している。

太鼓踊系鹿踊には、行山流・金津流・春日流などさまざまな流派がある。この中でも、春日流は東和地区で始まったといわれ、花巻地方に伝わる太鼓踊系の鹿踊の主流を占めている。東和町の春日流落合鹿踊は県指定文化財、その流れを汲む上ノ山鹿踊、湯本鹿踊、鍋倉鹿踊、八幡鹿踊、八日市鹿踊の５団体は市指定文化財となっている。

幕踊系鹿踊は、主に大迫町や東和町に伝わっており、とくに大迫町外川目に伝わる竪沢鹿踊は、踊りの中に念仏踊風の形式が取り入れられていて、一種独特の雰囲気を醸し出している。

○倉沢人形歌舞伎（県指定無形民俗文化財）

指定年月日　平成７年９月１日、保持団体名＝倉沢人形歌舞伎保存会

明治２０年（１８８７）、倉沢の福蔵寺で旧江刺郡福岡村（現北上市）の水押人形芝居が公演を行いました。これを見た倉沢の菅野常次郎は、水押人形芝居の座員となった。その後、人形などの道具類を全て自作して、明治２７年（１８９４）から始められたのが倉沢人形歌舞伎である。水押人形芝居を初め、多くの人形芝居が昭和初期に衰退・消滅する中、倉沢人形歌舞伎は活動を継続しており、常次郎の製作した人形類も多く現役として使用されている。

祭

○蘇民祭（胡四王蘇民祭、五大尊蘇民祭 - 市指定無形民俗文化財）

蘇民祭は、蘇民将来の説話にもとづき、人々の無病息災や五穀豊穣を祈って行われる岩手県を中心とする伝統行事。有名な奥州市の黒石寺蘇民祭をはじめとして、１月から３月まで県内７か所で開催されるが、市内では、花巻市矢沢の胡四王神社、石鳥谷町五大堂の五大尊、大迫町内川目の早池峰神社の３か所で行われている。無病息災、五穀豊穣を祈願した後、裸の男たちが勇猛果敢に一つの蘇民袋をめぐって奪い合いを繰り広げる「蘇民袋争奪戦」が祭りのハイライトとなっている。

○三大蘇民祭

■胡四王蘇民祭（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成７年 11 月 22 日

蘇民祭は、新年に寺社で五穀豊穣・無病息災を願って行われる祭りであり、岩手県内陸部の稗貫郡から南に伝えられており、多くは、親札と呼ばれるお札と「コマ木」と呼ばれる十二支や「蘇民将来」などの文字が書かれた小さな札が入った蘇民袋を、裸の男性たちが争奪するという祭りである。この胡四王蘇民祭は、原因不明の難病が流行したために、疫病退散・家内安全・五穀豊穣・村内安全を祈願して、慶応元年（1865）に始められたと伝えられている。

■光勝寺五大尊蘇民祭（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成 13 年１月 15 日

光勝寺は、奥州南部氏の始祖・南部光行に由来する牛馬守護信仰の寺として知られ、かつては新年に多数の騎馬が押し寄せて鞭で堂を叩く「堂叩き」が行われたと言われている。護摩祈祷を受けた「護摩餅」の配付は、明治以降も続けられたが、参詣者の増加による争奪が激しくなったため、明治２７年（1894）から蘇民袋を祭りの中心とする形に改められた。袋の中には五大尊の名と跳ね馬の焼き印が入る「駒札」と五大尊の親札が納められている。

祭日　１月下旬（旧暦正月７日）

■早池峰神社蘇民祭

蘇民袋の中には十二支の焼き印のある３６５個の駒札。男たちが押し合いながら参道を下り、激しい袋の争奪戦が繰り広げられる。最後に袋の口を押えている人に駒が与えられる。

祭日　３月１７日

○泣き相撲（十二番角力式 - 市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成５年４月 15 日

東和町北成島にある熊野神社の境内で、５月と９月に開催される。坂上田村麻呂が部下に相撲を取らせたのが起源と伝えられている。現在は、数え２歳の幼児の成長を祈願する祭りであり、泣いた方が負けというユニークな相撲となっている。

毎年９月の神社例大祭に開催される「十二番角力式泣き相撲」は、成島地区に所縁のある長男１２名しか出場できない儀式的な行事で、市指定文化財となっている。一方、昭和６３年からゴールデンウィークに開催されている「全国泣き相撲大会」は、性別や出身地に関係なく参加できるため、毎年全国各地から 1000 名を超える豆力士で大いに賑わっている。

○あんどんまつり

花巻市大迫町に伝わる「あんどんまつり」は、江戸時代の天明年間（1781～88）、天保年間（1830～43）と相次いだ大飢饉で餓死した人々を供養するために始まった盆行事と言われている。当時は、盆の諸行事を一つにまとめた「盆祭り」だったと推察されるが、明治時代に大八車に大きな「あんどん」を乗せて運行するようになってからは、現在のような山車中心の祭りになったと思われる。

当初は、四角い形のあんどんを乗せて、四隅を棒や紐でゆれを押さえながら町内を練り歩き、あんどんの絵柄は盆の３日間毎日別の出し物を描いて出していたという。昭和のころになると、青森のねぶた祭りなどの影響により形が立体的になり、制作が難しくなったことから、８月１４日と１６日の２日間になっている。ただ、この２日間は今でも出し物を代えて運行をしている。

○花巻まつり

４００年以上前から連綿と続けられている、花巻を代表する秋まつり。その始まりは、花巻城三の丸下にあった観音寺の祭礼であったといわれているが、花巻城代として花巻の町づくりに尽力した北松斎公の遺徳をしのぶ祭りとしての性格が強くなっている。

優雅な「花巻ばやし」の音色の中、絢爛豪華な風流山車、150 基にもおよぶ勇壮な神輿、岩手を代表する郷土芸能の鹿踊や権現舞などが披露される。花巻ばやしは京都祇園囃子の流れを汲むもので、南部囃子、日高囃子とともに県内における祭囃子の代表的様式とされており、市指定文化財となっている。伝承の起源については不明であるが江戸時代の中頃には行われていたと考えられており、横笛、三味線による旋律と、交互に打たれる大太鼓、小太鼓の調子が「行進囃子（こうしんばやし）」「停車囃子（裏囃子）」と呼ばれる二つの囃子を奏で、花巻まつりの風流山車を華麗に彩っている。

○土沢まつり（市指定無形民俗文化財）指定年月日平成１４年１１月２１日

正徳元年（1711）に鏑八幡神社が再建された時に、神輿を出して祝ったことが起源と伝えられている祭り。山車の製作は明治３０年代に始まったとされ、山車の運行と共に演奏されるお囃子「土沢ばやし」は曲が伴うもので、岩手県内の祭囃子としては、花巻まつりの「花巻ばやし」と同じ県南型。このお囃子に含まれる、太鼓のバチを交差させる・ひねるといった所作は、江戸時代から続く祭囃子という性格を示すと考えられている。

約３００年の歴史を誇る祭りで、現在は豪華絢爛な山車を筆頭に、鏑八幡神社の神輿渡御、神楽権現舞、鹿踊の群舞などが繰り広げられている。祭りの主役というべき山車は、大きな人形を中心に据えた盛岡流の流れをくんでいるが、飾り付けや運行作法は花巻まつりの山車に似ている。

○石鳥谷まつり（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成１７年１２月２６日

明治３０年代に始められ、南部流風流山車としては南限となっている。山車中央の前後に歌舞伎の名場面や歴史上の人物を主題とした人形が置かれ、上に松・桜・藤・楓、周囲に波・しぶきの飾りが付く。山車の前側に小太鼓、後側（見返し）に大太鼓を乗せ、これらを打ち鳴らしながら運行するものであり、祭りでは、熊野神社の神輿渡御の後、御神楽や鹿踊などの行列に続き、町内の各組の製作による華やかな山車が見られる。

○おおはさま宿場の雛まつり

開催日　２月中旬～３月３日ごろ

大迫町は、かつて三陸と盛岡を結ぶ街道の宿場町として栄え、江戸時代の享保雛や次郎左衛門雛、古今雛など代々受け継がれた貴重な雛人形が数多く残されている。

昔「おひなさん、おみせってくなんせ」と言って子供たちが家々の雛人形を見て歩いたそうだが、そんな風習を今に復活させたのが「宿場の雛まつり」である。

大迫交流活性化センターをメイン会場とし、町内の商店などに歴史雛から現代雛までいろいろなお雛様が飾られている。

○上郷（かみごう）虫追い祭り

昔は、梅雨時になると全国どこの村でも、村民総出で虫追い祭りを行った。当日は、稲藁で作った

藁人形に悪神・悪霊・害虫払いの祈願をこめ、のぼりを立て、笛や太鼓で囃したり踊ったりしながら村中を歩き回る。最後に村はずれでこの人形に火を付けてのぼり共々焼き払い、あるいは川に流したりして、悪神・悪霊・害虫を村外に追い出すことによって五穀豊穣、無病息災を祈願する行事である。この行事も、農薬や医療の発達などで次第に廃れてしまった。

石鳥谷町新堀の上郷地区では、旧暦６月１５日ごろに「農休日」を兼ねて行われ、戦後は昭和３５年（1960）ごろまで青年会を中心に続けられていた。一時中断したが、昭和４８年（1973）に復活し、「五穀豊穣」「交通安全」などと書いたのぼりや笹竹、わら人形などを手に太鼓や鉦、笛の音を響かせながら行われている。

かつては、石鳥谷町各地でこの行事がみられたが、現在ではほとんど消滅してしまった中で、新堀（にいぼり）の上郷地区に残されている貴重な民俗習慣であり、市指定無形民俗文化財となっている。

歴史を感じる文化財

国指定文化財（国宝）

くにしていぶんかざい　こくほう

○花巻市の国指定文化財

花巻市には、国・県・市が指定する指定文化財がある。これらの文化遺産は、すべて市民の財産であり、県民・国民的財産でもある。私たちはこれらを保護し、後世へ伝えていく必要がある。

文化財の種別は次のとおり「文化財保護法」第２条の分類に基づき、市内にある『国指定文化財』を紹介する。

種　別		名　称	所在地	指定年月
有形文化財	建造物	旧小原家住宅	市内東和町谷内	昭和 44 年 12 月
		伊藤家住宅	市内東和町田瀬	昭和 51 年２月
		毘沙門堂	市内東和町北成島	平成２年９月
	美術工芸品（彫刻）	木造毘沙門天立像	市内東和町北成島	大正９年８月
		木造伝吉祥天立像	市内東和町北成島	大正９年８月
		木造阿弥陀如来坐像	市内鍛治町	昭和４年４月
民俗文化財	有形民俗文化財	南部杜氏の酒造用具	石鳥谷歴史民俗資料館	昭和 57 年４月
	無形民俗文化財	早池峰神楽 岳神楽 大償神楽	市内大迫町内川目岳 市内大迫町内川目大償	昭和 51 年５月 【ユネスコ無形文化遺産登録 平成 21 年９月】
記念物	名勝	イーハトーブの風景地 釜淵の滝 イギリス海岸 五輪峠	市内湯本地内台川 市内似内、小舟渡 市内東和町田瀬	平成１７年３月 平成１８年７月 平成１７年３月
	天然記念物	カズクリ自生地	市内東和町石鳩岡	昭和２年４月
		花輪堤ハナショウブ群落	市内西宮野目	昭和１０年４月

	特別天然記念物	早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落	市内大迫町、遠野市、宮古市	昭和３年２月

■旧小原家住宅

南部曲屋の農家で、１８世紀中ごろの建築と推定されている。直屋から曲屋に改造したもので、普通の曲屋よりも小さく突き出した「うまや」の形から、曲屋の発生過程を知る重要な建築物と考えられている。盛岡藩（南部藩）で推奨された馬飼育のための住宅形態である。

■伊藤家住宅

直屋の農家で、１８世紀前半の建築と推定されている。１９世紀中ごろに「うまや」が加えられて南部曲屋の形となった。最も小規模な曲屋で、盛岡藩最南端の地域にある農家としても貴重な建築物であり、指定後に当初の直屋形式として復元された。

■木造阿弥陀如来坐像

元禄年間（1688～1704）、商人の清水甚兵衛・佐兵衛父子が発願して京都から請来した仏像で勝行院如来堂の本尊である。鎌倉時代の作だが、台座と光背は後補のもの。江戸時代、西念という僧が現在の場所に念仏堂を開いたのが勝行院の始まりといわれている。

技と味な特産品

南部杜氏

○南部の酒造事始め

陸奥のこの地でいつのころから酒造りがおこなわれるようになったのか、その発する所は遠く稲作文化の伝来にまでさかのぼらなければならない。

平安朝期の陸奥の田植唄の中には、「白き酒、黒き酒、麦の酒」の歌章は見えるが、酒が産業的、商業的に生産されだしたのは、確かな記録として史上に登場してくるのは盛岡南部藩政時代に入ってからである。

○近江商人　小野（村井）権兵衛

1599 年（慶長４年）南部氏が盛岡城を築いて三戸から移ってきたとき、盛岡城下町にいち早く近江商人が進出してきた。その中の一人に近江の国、高嶋郡出身の小野権兵衛がいた。

小野権兵衛は志和村（紫波町）に酒造業を営み、当時としては珍しい澄み酒の製造販売にあたった。濁り酒の味しか知らなかった南部の人たちにとって、関西流仕込み澄酒は美酒であった。小野権兵衛はその後、盛岡、郡山（日詰）に分家を出した。この系列が石鳥谷にも進出し、現在の石鳥谷町酒造りの根源になった。

○南部杜氏の先駆け

小野権兵衛が最初に志和で酒造りを始めた延宝６年当時は、摂津の池田（現・大阪府池田市）から杜氏を招いている。全国第一の酒の産地で、その酒は江戸へ移出され、「池田酒」の名で全国に知られており、酒造技術は池田流と云われるものであった。

このようにして南部領内に上方流の先進技術が導入されたのだが、やがて年月の経過とともに、外来杜氏に代わって地元杜氏が酒造蔵を総括するようになった。

一方これとは別系統の地元杜氏もあった。やはり近江屋を中核としているが「引酒屋（下請酒屋）」の杜氏達である。この引酒屋はもともと農家であり、近江屋の委託を受けて農業の副業として２，３

石程度の酒造りをしていた。従って自家労働が主体であり、主人が杜氏を兼ねることになるが、近江屋としては品質を統一する必要から、同家専属の杜氏に巡回指導をさせたようである。こうして紫波・稗貫の近江屋周辺の農村にも、上方流の澄酒醸造技術が広まって、副業的家内産業という性格上、この技術は子弟に及ぶようになり、これが出稼ぎ杜氏の先駆をなし、やがて「南部杜氏」として発展していったのである。

○藩公御膳酒　石鳥谷より運上

1681 年（天和元年）南部領内の造り酒屋は 189 軒、うち石鳥谷は２軒だけであったが、造り高は多かった。

また、南部領内の多くの酒屋の中から、この石鳥谷の杜氏が選ばれて「酒司」となり、藩公の御膳酒を献上するようになった。（明治初年まで続いた。）

○酒司　稲村徳助翁

「酒司」とは藩庁公認の杜氏であり、藩公の御膳酒や格式の高い神社などに供える特選酒を吟醸する人であった。その酒司の中で、近代南部杜氏の祖といわれているのが稲村徳助（文政２年、石鳥谷町大瀬川の生まれ）である。徳助は研究熱心で、南部流酒造技術を完成させ、さらに数多くの弟子を養成して、南部杜氏の名を全国に高めたのである。

現在南部杜氏は 700 人を数え、越後杜氏、丹波杜氏と並ぶ日本三大杜氏の筆頭に数えられている。

○南部杜氏の酒造用具(国指定重要有形民俗文化財)

石鳥谷町には、多くの酒造用具が残されている。とくに、石鳥谷歴史民俗資料館に収蔵されている南部杜氏の酒造用具は、酒造りの過程で使用されていた数々の道具を集成したもので、米研ぎ・蒸し・麹つくり・仕込み等の関連用具をはじめ、酒造関係の出荷用具・信仰儀礼用具・仕事着など 1788 点が国指定の重要有形民俗文化財として保存されている。

技と味な特産品

大迫のぶどうとワイン

○歴史

戦前より、大迫町内では数名がりんごやぶどう（キャンベル、ナイアガラ、ブライトン等）の栽培を行っていた記録がある。

終戦後、昭和 22 年のアイオン、昭和 23 年のカザリンの２つの巨大台風により、大迫地方も甚大な被害を被った。時の岩手県知事、国分謙吉はいち早くこの地の災害調査に訪れ、参集した地区関係者にぶどう栽培の必要性を説いた。翌 24 年には県議会において「ぶどう村」計画が通過。220ha が植栽された。

昭和 37 年、キャンベル種を原料としたワイン工場「岩手ぶどう酒造合資会社」が設立され、同 38 年 12 月より「エーデルワイン」という商品名で販売された。これはハヤチネウスユキソウと同種の「エーデルワイス」にちなんだものである。

当初キャンベル種の赤ワインは、寿屋（現在のサントリー）へも出荷された。サントリー社からは醸造技術、販売におけるマーケティングなどの強力なバックアップがあった。原料供給の点でも、当初サントリー社「赤玉ポートワイン」の空瓶を利用していた。

創立 50 周年を迎えた平成 24 年の生産量は４００KL、45 万本が全国に向けて出荷されるまでに成長。今後も岩手の原料 100%にこだわり、生産者と共に高品質なワインづくりを目指している。

○商品

甘口の手ごろで飲みやすいワインから、国際的なコンクールで金賞を受賞した本格的なワインまで様々ある。

なかでも「五月長根葡萄園」は、「リースリング・リオン」のみで醸造したもの。この種はワイン工場の裏手にある「五月長根葡萄園」3ha に初めて植栽された醸造用白ワイン専用種で、山梨サントリーの圃場において長年の交配の研究により生み出された、ドイツ種リースリングと在来種甲州三尺の交配種である。昭和 61 年６月より販売されている。

○受賞

エーデルワインは平成 10 年より国内外の主要なコンクールに積極的に参加し、数々の賞を受賞している。

平成 23 年、オーストリア・ウィーンで開催された世界最大級のワインコンクールにて、ハヤチネゼーレ「ツバイゲルトレーベ樽熟成 2007」が国内初の金賞を受賞。そして 24 年、山梨で行われた第 10 回国産ワインコンクールにおいて「シルバーツバイゲルトレーベ 2009」が東北初の金賞に輝いた。

○イベント

ワイン愛好者に向け、年間を通じて様々なイベントが行われている。

なかでも３月と６月に「ぶどう生産者と共にワインを楽しむタベ」、９月のワインまつり、10 月「五月長根葡萄園収穫仕込み体験」などが好評。

また、首都圏や名古屋・大阪の百貨店で岩手の観光と物産展にも参加している。

技と味な特産品

食

○伝統食

花巻には素朴な伝統食が数多く残されている。わんこそばや金婚漬などは現在では家庭で作られることは少ないが、食事処やお土産として人気がある。

「ひっつみ」はいわゆる「すいとん」で、小麦粉を練った生地を「ひっつまんで」投げ入れるという調理法そのままで呼ばれている汁物。市内の食事処でも食べられる。

「こびり（おやつ）」の定番としては、「きりせんしょ」や「がんづき」がある。きりせんしょはうるち粉に砂糖や醤油、ゴマやクルミなどを入れて蒸したもの。雛祭りにお供えする地域もある。がんづきは黒砂糖やゴマ、クルミを使用した蒸しパンのようなもの。いずれも家庭によって少しずつ違いがあり、産直やスーパーなどでも手に入る。

○わんこそば

わんこそばの歴史は花巻城と共に古く、４００有余年の昔にさかのぼる。

南部家第 27 世利直公が江戸に上る途中花巻に立ち寄ったおり、旅のつれづれをなぐさめようと郷土名産のそばを差し上げた。利直公はその風味を大変お気に召され、何度もおかわりをされた。この時そばを椀に盛って差し上げたことから「わんこそば」と称されるようになったと言われている。

「わんこそば」はお客様のお椀に次々に給仕する一口そばを、お好みの薬味を加えて召し上がって頂くもので、お客様がお椀にふたをするまで続けられる。

毎年 2 月 11 日には「わんこそば全日本大会」も開催され、市内でわんこそばが体験できる店は

嘉司屋（かじや）、やぶ屋、金婚亭、山猫軒（新花巻駅前店）の４か所。いずれも要予約。

○わんこそば全日本大会

第１回大会は、昭和３２年１２月、わんこそばの「嘉司屋（かじや）」の２階で開催された。嘉司屋の宣伝・販売促進とともに、わんこそばを花巻名物として広めようとの企画で始めた。ただの大食い大会ではつまらないからと趣向をこらし、当時の農閑期の楽しみだった相撲になぞらえて、大会の名称を「わんこそば相撲冬場所」と名付けた。相撲ならば行司も必要だと行司衣装まで用意し、食べる選手は力士ならぬ「食士」と呼び、しこ名として「満腹山」などと書いた前掛けをかけさせるなどの凝りようで、そのアイデアの甲斐あって初回からたくさんの参加者があり大成功だった。

当時は制限時間が１５分と長く、食べる方も主催する方も大変だった。このため、第１１回大会から５分に短縮し現在に至っている。また、「わんこそば相撲冬場所」として始まった大会ですが、第２回大会は「岩手県名物花巻ワンコそば大会」と名を変え、その後も「花巻わんこそば大会」、「花巻わんこそば早食大会」などの名称を経て、現在の名称になったのは昭和５１年の第１８回からである。第２２回（昭和５５年）からは、開催日を毎年２月１１日（建国記念の日）に固定し、広く全国から食士を募集した。会場も何度か変更されたが、第３０回記念大会（昭和６３年）から花巻市文化会館で開催している。第４０回記念大会の年は、両国国技館において東京場所、千葉県市川市において市川場所を開催している。

わんこそば記念日

いわて花巻名物わんこそば、そしてわんこそば全日本大会の長い歴史と実績が認められ、２０１５年に「２月１１日・わんこそば記念日」として日本記念日協会に認定されている。

○金婚漬

青瓜をくりぬき、ニンジン・ごぼう・しその葉を昆布で巻いて詰め、自家製の味噌桶の底に並べて漬け込んでいたもの。味が浸み込むまで半年から１年ほどかかり、さらに長く漬け込むほど味が深くまろやかになったことから、歳月を重ねた夫婦にみたて「金婚」の名がつけられた。大変手のかかるもので、花巻人の「おもてなしの心」を表す食文化といえる。

○雑穀

花巻市は雑穀の生産量が日本一である。生産は平成５年の大冷害を契機に本格化し、連作障害への対応や健康志向による需要の高まりを踏まえ、農家と関係機関が連携して生産に取り組んできた。また雑穀料理の開発や提供もさかんに行われている。最近では稗を加工したカレールーが開発され、市内の飲食店でこれを使用したメニューが提供される「花巻ひえカレー麺プロジェクト」が実施されている。

○雑穀日本一

雑穀とは、米、麦以外の穀物の総称で、ヒエ、アワを始めとした様々な穀類をまとめて呼んでいる。雑穀は寒さに強く、栽培期間も米より短く、種類によっては条件の悪い土地でも栽培できることが特徴であり、雑穀は、ビタミン・ミネラル・食物繊維などの栄養価が豊富に含まれていることから、健康や美容に良いと注目されている。

岩手県で生産されている雑穀は９３６トン（平成２１年）で、全国の６割以上を占めている。花巻市では岩手県の６割以上雑穀を生産しており、花巻市は日本一雑穀を栽培している地域です。

花巻市で栽培している雑穀は、ヒエ、キビ、アワ、アマランサス、ハトムギ、モロコシ（タカキビ）、黒米、赤米などです。中でも、ヒエ（１９８ha）、ハトムギ（１９８ha）、イナキビ（７２ha）の栽培

が特に多い。

毎日食べるごはんと一緒に炊き込むだけで、白米では摂取できない、不足しがちな栄養分も手軽に補給でき、食事のバランスをとることができる。最近では食物アレルギーの方への影響が少ないことや、滋養強壮や血行促進をはじめとした様々な効果があることが報告されており、ますます期待が高まっている。

○白金豚（はっきんとん）（プラチナポーク）

高源精麦が、飼育配合から出荷まで一貫体制で生産しているブランド豚。宮沢賢治の作品「フランドン農学校の豚」から命名された。やわらかくまろやかな肉味で、テレビで紹介されるなど全国から注目され、東京方面にも出荷されている。

白金豚は市内のレストランなどで味わうことができる。また、ふりかけや肉味噌など加工品も販売されている。

○黒ぶだう牛

「花巻黒ぶだう牛研究会」（ブランド牛確立をめざし花巻市内畜産農家７人、平成２４年発足）

当研究会は、エーデルワイン醸造の過程で生じるぶどうの搾りかすを和牛に給与して肉質向上を図り「花巻黒ぶだう牛」の名で売り込もうと取り組む花巻市の畜産農家グループ。（年間生産頭数約 100 頭）賛助会員で、この牛肉の提供を受けている市内のホテルや飲食店では、「花巻黒ぶだう牛」の普及に向けたキャンペーンを展開し新ブランドの設立を目指している。

○ほろほろ鳥

ヨーロッパでは「食鳥の女王」と呼ばれているキジ目の鳥で、肉質や食感等の評価が高く、低コレステロールで栄養価も高い。石黒農場が日本で唯一の専用農家として飼育から加工まで一貫して製造し、全国に出荷している。

熱帯地方に生息し、寒さに弱くとても臆病なほろほろ鳥は、日本での飼育は難しいとされていたが、石黒農場では湧き出る温泉を利用するなど試行錯誤の末飼育に成功。市内のレストランなどで味わう事ができ、土産店では燻製も販売されている。

○焼きプリン大福

ふわふわの大福の中に焼きプリンと生クリームが入っている人気のお菓子。季節によっていちご大福や、かぼちゃ大福などもある。産直「案山子（かかし）」で販売されている。

○ソフトクリーム、ジェラート

テレビで紹介され、全国的に有名になったのが全長約 24 センチのマルカンソフトクリーム。10 段巻で、地元の人が箸で食べることでも知られる。２３０円という安さも魅力。

大迫のミルク工房ボン・ディアでは、スイス原産「ブラウン・スイス種」の生乳を 100%使用した「ボンディア・ソフト」を始め、ワインをミックスした「ワインソフト」や濃厚な「ミルクソフト」がある。ボンディア・ソフトは産直「だぁすこ」内食堂でも食べられる。

この他、変わり種として酒匠館の「酒ジェラート」、金婚亭の「漬物ソフト」、花巻温泉バラ園の「バラジェラート（期間限定）」、道の駅とうわの「味噌ソフト」なども人気がある。

○世界にも通用する究極のお土産１０選

２０１５年、復興庁が主催する食を発掘するコンテスト「世界にも通用する究極のお土産１０選」が開催され、東北６県から４９６品（岩手県からは８７品）の応募であった。大手小売企業のバイヤーらによる一次審査、全国に流通販路を持つプロ１０人による最終審査を通過し、１０品が選定され、その選定された１０品の中に、花巻市内の企業が製造する３品が選ばれた。

・佐々長醸造「老舗の味つゆ」
じっくりと時間をかけてとった「だし」の旨味が際立つ味つゆ。
・ブルージュプリュス「平泉黄金バーム」
平泉産無農薬の米、雑穀、卵で作ったバーム。平泉藤原三代の黄金に込めた祈りをバームクーヘンの色と形で表現した一品。
・佐藤ぶどう園「Amulet of the　Sun」
「一枝一房」というこだわりを守り、栽培されたぶどうを原料とした生レーズン。

○三酒(さんしゅ)の人氣(じんぎ)

花巻産の日本酒とワイン、そして焼酎「稗造君(ひえぞうくん)」の３つをまとめて「三酒の人氣」と呼ぶ。稗造君は花巻産の雑穀（ヒエ）を原料にした、全国でも珍しい焼酎。控えめな香りと甘くクセがないのが特徴で、多くの方に好評を得ている。

○お菓子・お土産品など

・賢治最中(賢治最中本舗)昭和 30 年に生まれた。白あんとあずきが入った最中は直径 14 センチほどの大きさで、「雨ニモマケズ　風ニモマケズ」の文字が刻まれている。
・やさい王国、芽麩久もち（芽吹き屋）
・岩手早池峰のむヨーグルト(ミルク工房ボン・ディア)
・ワイン羊羹・ワインゼリー（大迫菓子センター、高鉱菓子舗）
・わんこそばまんじゅう・峰の山河(高鉱菓子舗)
・酒ケーキ(砂田屋)
・天使のスフレ・自然卵ぷりん(パティスリーアンジュ)
・アーモンドクッキー稲穂(タカハシ菓子工房)
・味噌くるみ饅頭（佐々長醸造)
・はなまきロール・月夜のフクロウ(ケーキハウスシェルブール)
・羽山まんじゅう(MOMO 大丸屋)
・南部せんべい(花巻せんべい工房)
・とうわ焼き(佐藤製菓)
・南部鬼ぐるみ(喜平堂)
・黄金餅・酒まんじゅう(菓匠丸文)
・ぶどうジュース(佐々木新二)
・平泉黄金バーム（ブルージュプリュス）
・花巻温泉あんぱん(花巻温泉ベーカリー)　　等

○漬物

・こめっこべらし、金婚漬(道奥)
・金婚漬、大根味噌漬、鬼南蛮(丸一食品工業)
・賢治のトランク（漬物の詰合せ）(ハコショウ食品工業)　　等

○その他

・早池峰霊水、味噌・醤油、老舗の味つゆ(佐々長醸造)
・Amulet of the Sun 太陽の恵み生レーズン（佐藤ぶどう園）
・味噌(松坂みそ店)
・七味にんにく、にんにく醤油(早池峰自然科学興業)　　等

物産品

〇焼物

- 「台焼（だいやき）」万寿山の陶石から生まれた東北では珍しい磁器。民芸調に厚手に挽き、米ぬかを釉薬とした糠青磁も日用の器として親しまれてきた。
- 「瀬山焼（せざんやき）」台焼創始者の孫。呉須（ごす）（青の釉薬）と竹べらを繊細に使った櫛目波紋が特徴で、「銀河鉄道の夜」をイメージしたオリジナルの作品が人気。
- 「鍛冶丁焼（かじちょうやき）」２００年前に開窯し、南部藩御用窯としての歴史をもつ。一時途絶えたものの、益子で修業した先代が戦後に復興。素朴で雅趣を感じさせる焼き物である。
- 「野立窯（香泥庵（こうでいあん））」陶土や釉薬すべて地元のものにこだわって作られ、小品からオブジェまで心のままの造形で個性あふれる作品群を創造。

　他にランプシェードで人気の「早池峰焼」、自作の釉薬で普段使いの陶器を制作している「つづら陶房」などがある。

〇花巻人形

　江戸時代享保年間に鍛冶町の太田善四郎が作り出した土人形で、「からげびな」と呼ばれ親しまれた。天保年間が全盛で、複数の店が多くの職人を使って大量に制作し、主として３月と５月の節句を目当てに四方に売り広めたと伝えられている。時代の変遷の中で次々と姿を消し、昭和の時代に一時途絶えたが、現在は「平賀工芸社」が復元、制作を受け継いでいる。題材は内裏びなや干支をはじめ、天神や大黒などの縁起物、昔話物、風俗物など広範囲にわたり、いずれも梅、桜、牡丹など春の花々が描かれている。

〇花巻系こけし（南部系こけし）

　花巻のこけしは、木肌が白く固いコサンバラ（アオハダ）と言う良材を使う。首がはめこみで頭がくらくらと動く、全国的にも南部系だけの特徴を持つ。赤ん坊の「おしゃぶり」から始まったとされ、昔は「キックラボッコ」（木繰這子（きくりほうこ））、現在は「キナキナ」と表現される。最近は、エンジュ、桜、ケヤキ等の有色材を使い変化を求めている。また、宮沢賢治のシルエットを模した「デクノボーこけし」も制作され人気を呼んでいる。

〇忍び駒（しのびごま）

　稲わらで編まれた馬人形で、里人が円万寺観音堂に祈願する際に供えられた。現在は「小田島民芸所」で制作されている。（詳細別項）

〇ホームスパン

　羊毛を手織りしたイギリス生まれの織物。東和町「日本ホームスパン」が制作しており、軽く柔らかな風合いが人気。その優れた技術力等が認められ、有名ブランド「シャネル」に布地が採用された。

〇染物

　伝統的な藍染は「たきうら」「伊藤染工場」で、洋服から小物まで様々な製品が作成されている。せがわ京染店では賢治童話をモチーフにした「銀河夢小紋ハンカチ」を作成。江戸時代創業の「小彌太」では選挙用品を中心に幅広く制作している。

〇さき織り

　古い布を裂いて糸状に細くし、その糸で織った織物をさき織りという。布を大切にする知恵から生まれたもので、不規則な模様が味わい深い。制作は「夢つむぎ」「花織の会」「さき織工房はたや」「さ

き織伝承館」で、さき織伝承館では体験もできる。

○花巻傘

享和年間（1801～1803）の頃から伝わる和傘。藩政時代士族の内職として始まったものが、明治維新後は本職となり、大正８～９年頃には年産 25 万本ほども生産する花巻物産の一つとなった。仲町で多く製造されていたが終戦後から少なくなり、現在では「滝田工芸」でのみ制作されている。“蛇の目傘”の美しさや大振りの“番傘”は目を引く。最近では装飾用としてミニ傘も人気が高い。

○成島和紙

300 年以上の歴史があり、東和町地区に生育する「コウゾ」の皮を原料に「ノリウツギ」の糊を混ぜて作った和紙。大量生産では味わえない素朴な風合いが魅力。「成島和紙工芸館」で手漉き体験ができる。

キラリと輝く先人達

宮沢賢治

○子供のころ

賢治は、父政次郎、母イチの長男として、1896 年（明治 29 年）いまの豊沢町で生まれた。

この年東北地方は冷害と大雨に見舞われ、多くの家や作物が流された。また賢治が生まれてまもなく、沢内村が大地震に襲われ、多くの犠牲者を出した。この時母イチは、赤ん坊の賢治に覆いかぶさって、一生懸命念仏を唱えたという。

父は熱心な仏教信者であった。大沢温泉に名僧といわれる人を呼んで、毎年勉強会を開いた。子供の賢治も真面目に聞き、先生のそばをいつまでも離れなかったといわれている。

さらに、賢治の周りには熱心なクリスチャンが何人かいて、正しく本当のものを求めてやまない空気が満ちていた。

賢治は、鉱物や植物の勉強にも熱中した。様々な色の石や化石を集め、植物の押し葉を作り、箱などに入れて楽しんだ。あまりにも石に熱心だったので、家族から「石コ賢さん」と呼ばれたほどである。

虫にも興味を持った。色々な虫を集め、大切に飼いながらよく調べ、虫が死ぬと丁寧にお墓を作っておがんだりもした。

○中学校のころ

1909 年（明治 42 年）4 月、賢治は盛岡中学校に入学した。家族から離れての生活が始まった。多くの先生や友達とまじわりながら、ある時は反抗したり、ある時は心の底から感動したりしながら、自由な空気にひたった。

賢治の鉱物好きは、ますます強くなって行く。遠足や散歩の時は、きまって金づちが腰にはさまれていた。盛岡あたりの山や丘から、この金づちを使って石の標本を集めるのである。机の中や押し入れの中まで、いたるところ石であふれていたという。

この頃、賢治の興味に、星が加わった。星座に夢中になり、ある夕方などは、屋根に上ったままいつまでもおりてこなかったという。

子供のころから勉強した仏教を、中学校でもどんどん学んだ。寄宿舎を出ていくつかのお寺に下宿し、お経を読み、仏の教えを一生懸命聞いた。

○本との出会い

中学校を卒業した賢治は、その後１年間家の仕事を手伝っていたが、両親は、賢治には商売は向かないと考え、受験勉強をすすめた。あきらめかけていた進学の夢がかなえられることを賢治はおおいに喜び、さかんに勉強した。

そしてこの夏、賢治の一生を考える時、とても大切な本とめぐり合う。

父が友人からおくられて持っていた妙法蓮華経の本を読んだ賢治は、感動のあまり体が震えて止まらなかった。これ以後、賢治のかたわらにはいつもこの本が置かれ、毎日心をこめて読んでいく。いままで寂しそうにしていた賢治は見違えるように明るくなって、元気を取り戻した。周りの人々は、みんな驚いた。

○農林学校のころ

全力を尽くして勉強したかいがあって、1915 年（大正 4 年）、賢治は盛岡高等農林学校に入学した。一番の成績であった。

頭で考えるだけの勉強ではなく、地質や化学の実験に目を光らせながら、生き生きとして励んだ。難しい勉強にも、進んで取り組んだ。

今までにないほど親しい友達もできた。全国から集まっていることも珍しく、楽しかった。みんな文章を書くのが大好きで、『アザリア』という本を作り、お互いに意見を出し合い、励ましあった。

ところが、仲間の一人が学校をやめなければならない事件が起きた。芸術や宗教について心を開いて語り合っていた友人だけに、賢治は強いショックを受けた。友人が自分から去っていくという寂しさばかりではなく、賢治自身、これからどのように生きたらよいか、という大切な問題であった。

○農林学校を卒業してから

賢治が童話「蜘蛛となめくじと狸」や「双子の星」を書き上げたのは、農林学校を卒業した夏である。

「双子の星」は、チュンセとポウセの双子のお星さまの美しい話だ。このお話を、賢治はまず家族に読んで聞かせた。なにしろ初めての童話なので、賢治はうれしくてたまらず、赤黒く日に焼けた顔を輝かせ、目をキラキラさせながら、得意そうであった。

1921 年（大正 10 年）、賢治は突然東京に向かう。自分が信じる宗教で家族みんなを幸せにしたいという願いと、しかしなかなかかなえられないという苦しみを胸にしての上京であった。

東京では印刷関係の仕事をしながら勉強を続け、大変ないきおいで童話を書いた。この時の様子を、

「人間の力には限りがあります。仕事をするのには時間がいります。どうせ、まもなく死ぬのだから、早く書きたいものを書いてしまおうとわたしは思いました。１か月の間に、３千枚も書きました。そしたら、おしまいのころになると、原稿の中から１字１字飛び出してきて、わたしにおじぎするのです。」

と、小学校時代の先生に話している。

東京での７か月間に書いた童話の原稿はいっぱいになった。まもなく、妹トシが病気になったため、賢治は急いで花巻に帰ってくる。原稿をトランクいっぱいに入れ、重たそうにして駅に降りた。

○農学校の先生として

花巻に戻った賢治は、トシの看病や家の手伝いをしながら、次々と童話を書き続けていく。「月夜のでんしんばしら」「鹿踊りのはじまり」「どんぐりと山猫」「注文の多い料理店」、そして「雪渡り」などが生まれた。

しかし、賢治が決まった職業につかないでいることを、父はとても心配していた。健康のためにも

何か仕事をした方が良いという考えである。外に出て、もっと明るく生きてほしい、という願いもあったにちがいない。

そんな時、花巻農学校の先生にならないか、という話があった。

そのころの農学校はあまり大きくなく、先生も生徒も多くなかった。しかし蚕(かいこ)や農作物の勉強を教える、花巻地方ではとても大切な学校であった。賢治は、迷うことなく引き受けた。

この学校でひとりの音楽の先生に出会った賢治は、その先生と一緒に音楽の勉強に励んだ。まだ西洋の音楽を聴く人は多くない時代だったが、賢治は次から次へとレコードを注文し、難しい曲でも何回も繰り返し聞いた。ベートーベン、チャイコフスキー、そしてショパンに夢中になった。音の素晴らしさばかりでなく、人間の生き方をも学び取るのであった。

東京のあるレコード会社が、花巻のレコード屋さんではずいぶん売れ行きが多いし、難しい曲ばかり出るので不思議に思って調べたところ、その店からはほとんど賢治が注文し買っているのだと分かり、驚いてしまったという。

「花巻農学校精神歌(せいしんか)」ができたのもこの頃である。

日ハ君臨(くんりん)シ　カガヤキハ　　白金(はくきん)ノアメ　ソソギタリ

ではじまるこの曲は、いま花巻に、朝の７時をチャイムで知らせてくれる。

1922 年(大正 11 年)11 月 27 日、かねてから病気で寝ていたトシの容体が急変した。みぞれの降る寒い日であった。医師の手当てのかいもなく、夜の８時半ごろトシの呼吸は止まり、脈も打たなくなった。賢治はおののきながらトシの名を何べんも呼んだが、トシは家族に見守られながら安らかに息を引き取った。

賢治は押し入れの中に頭を入れて激しく激しく泣いた。そして自分の膝の上にトシの頭をやさしく乗せ、いたわるように髪をすいてやった。

トシはどこへ行こうとするのか。この問題を、賢治はこれから胸に抱いて旅をすることになる。

トシの死から半年もの間、賢治は一切詩を書かなかった。今までなかったことである。

それから２年後、賢治は初めての詩集『春と修羅』と、童話集『注文の多い料理店』を出した。トシの死の悲しみを乗り越えての作品であった。

『注文の多い料理店』の広告で、賢治は

「けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません」と書いている。

農学校での賢治は、教室の中での授業ばかりでなく、学校劇の発表にも熱心であった。

劇に出る人物の服装や舞台で使う道具などを生徒たちと一緒に作って、「植物医師」や「ポランの広場」などを発表した。劇が終わると舞台道具を校庭で燃やし、そのまわりをみんな一緒に輪になって囲み、「ゆかい、ゆかい」と踊り続けた。

このように、生徒たちと一緒の毎日はとても楽しそうであったが、しかし賢治には大きな苦しみがあった。

私たちは毎日生きている、あるいは生かされている。でも私たちが生きるためには、どうしても食事しなければならない。魚や肉を食べ、野菜や果物もとらなければ生きていけない。

しかし、私たちの食べるこれらのほとんどは生命を持っている。私たちはその生命を奪っているのだ。そうしなければ生きていけないのが人間なのだろうか。賢治は悩み、苦しんだ。

童話「よだかの星」は、このような悩みの中で書かれた。

○羅須地人協会(らすちじんきょうかい)のころ

1926 年(大正 15 年)３月、賢治は農学校の先生をやめる。４年４か月の生活は実にゆかいだったが、自分はこのままではいけないと思った。

「生徒には農村に帰って立派な農民になれと教えていながら、自分はのんびりとして月給をもらっているのは心苦しい。自分も、口であれこれ言うのではなく、農民と一緒に土地を耕そう」

そう考えた賢治は、下根子(しもねこ)・桜(さくら)の二階建ての家に住みながら、荒れた土地を切り開くことから始めた。顔は真っ黒に焼け、腕は蚊に刺された黒い点がいっぱいだった。疲れ切って引きずる足。靴下が破れ、大きな切り傷もできた。

「最初の日はやっと２坪ばかり。その次の日も２坪とちょっとばかり。なにせ、竹やぶでね。夕方には、腕がジンジン痛む。しかし、今では 10 坪ぐらいは平気ですよ。体も慣れてなんともない」と話す。

ここでの生活は、作物を作ることだけではなかった。

農民はただがむしゃらに働くばかりではだめだ。もっと広く、大きな生き方をしなければならない。そのためには、音楽や宗教、科学や文学を学ばなければいけない。そして、すばらしい農民芸術を作り出していこう。

賢治の決意は固かった。昼はくたくたになるまで働き、夜は近くの人々を集めて一緒に勉強する毎日であった。毎週火曜日は、農民楽団の練習。賢治はオルガンとセロ。土曜日は子供たちを集めて童話を読んで聞かせた。

ここに集まる人々は、木炭を担いで来たり、餅を持って来たりした。賢治に迷惑をかけまいとしたのである。丸い木の椅子やみかん箱などに腰など掛けて、みんなが持ち寄ったお弁当を食べながら、いつまでも楽しく話し合った。

賢治は人々に、雪道は大変だったでしょう、と言ってりんごやするめをご馳走し、オルガンを弾いて聞かせるのであった。

農民の苦しみを、自分も苦しまなければならないと考えた賢治は、食事も粗末なものしか食べようとしない。

夏は、３日分くらいのご飯に梅干を入れて井戸につるしておいて食べたり、冬は、すっかり凍って固くなったご飯に塩をかけて食べたりした。

漬物があれば漬物だけ。何もないときは、ご飯にしょうゆをかけてすます。

激しい労働と粗末な食事。賢治の体は弱りに弱って、ついに病床についてしまう。

1931 年(昭和６年)、賢治は東北砕石工場(とうほくさいせきこうじょう)の技師となった。工場で作る肥料を農家に安く回せるし、工場でも注文が少なくて困っているというので、喜んで引き受けた。

秋になって、タイルの見本をトランクに詰めて東京に出た。まだ病気もよく治っていないのに、重いものを持って旅行するのはとても危ないから、と家族は心配だった。

でもどうしても行かなければならない、と言って出かけた。そして、東京の宿で、激しい熱を出してしまったのである。

花巻に戻って来た時は、かなり病気が進んでいた。苦しくないふりをしていたが、家に着くとすぐ病床に伏してしまった。

〇晩年

花巻に戻ってからの２年間は、病気の体を励ましながら詩や童話をたくさん書いた。もうあんまり時間がないというようであった。

「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」「セロ弾きのゴーシュ」「グスコーブドリの伝記」が次々に書かれた。

童話を書きながらも、農民の生活を忘れることはなかった。何としてでもいい作物をたくさん取らせたい、そう願いながら肥料の設計をした。

1933年(昭和８年)９月、花巻地方は豊作に沸いた。心から喜んでお祭りができる、人々はそう思った。祭りの最後の夜、賢治も門のところまで出て、みこしを拝んだ。

家に入った賢治のところに、その日も農家の人がやって来て、長い時間肥料の相談をした。そのためか、賢治はまた熱を出してしまった。

心配のあまり一緒に休むことにした弟の清六に、

「今夜の電灯は暗いなあ。」

と言ったり、

「この原稿はみなお前にやるから、もし小さな本屋からでも、出したいところがあったら発表してもいい。」

と言った。清六は悲しくてたまらなかった。

21日、お昼ごろになって、２階の賢治の部屋からお経を唱える声が聞こえてきた。家族みんなが２階に上がると、賢治は口から血を出し、青ざめていた。それなのに、一生懸命お経を唱えていた。

父は、

「言い残すことはないか。」

と聞いた。賢治は、

「国訳妙法蓮華経を１千部お作りください。その後ろには、『私の生涯の仕事は、この経をあなたのお手元に届け、そして、その中にある仏意にふれて、あなたが無上道に入られますことを。』ということを書いて、知り合いの方々にあげてください。」

と言った。

「お前もたいした偉いものだ。あとは何も言うことはないか。」

と父が聞くと、賢治は

「あとはまた起きて書きます。」

と言った。「また起きて」という言葉は、「また生まれ変わって」という意味なのだと、自然な気持ちで清六は思った。賢治は清六たちの方を向いて、

「おれもとうとう父さんにほめられた。」

と嬉しそうに笑う。

しばらくしてから水を少し飲み、オキシフルを付けた脱脂綿で体をきれいに拭き、その綿をぽろりと落とした時には、もう息を引き取っていた。

１９３３年(昭和８年)９月２１日、午後１時３０分であった。

（花巻市教育委員会「小学生のための宮沢賢治」より抜粋）

○宮沢賢治　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　業　績
1896年 (明治29年)	0	８月27日、岩手県稗貫郡里川口町（今の花巻市豊沢町）に生まれる。
1903年 (明治36年)	7	花巻川口町立花巻川口尋常高等小学校に入学。
1905年 (明治38年)	9	受け持ちの八木先生からお話を聞き、童話・民話の本を読む。

1907 年 (明治 40 年)	10	星を見て星座表を作り、美しい石を集めて標本を作る。 夏休みには、父政次郎が中心で行った仏教の講習会に出る。
1909 年 (明治 42 年)	13	尋常小学校を卒業し、岩手県立盛岡中学校に入学、寄宿舎に入る。鉱石と植物の採集に熱中する。
1910 年 (明治 43 年)	14	６月に植物採集岩手登山隊に加わり、初めて岩手山に登る。岩手山にはその後もたびたび登るようになる。
1911 年 (明治 44 年)	15	短歌を作り始める。
1912 年 (明治 45 年)	16	５月、修学旅行で石巻・松島へ行き、初めて見る海に感動する。
1913 年 (大正２年)	17	３月、寄宿舎の生徒みんなと騒いで追い出され、盛岡のお寺へ下宿する。
1914 年 (大正３年)	18	３月、盛岡中学校を卒業する。４月より６月まで、蓄膿症手術のため入院。 この秋「妙法蓮華経」を読んで感動したと言われている。
1915 年 (大正４年)	19	４月、盛岡高等農林学校農学課第二部(農芸化学科)に入学し、寄宿舎に入る。
1916 年 (大正５年)	20	３月、修学旅行で東京・京都・奈良・大阪へ行く。 ４月、特待生となる。
1917 年 (大正６年)	21	友人と、同人誌「アザリア」を発行し、歌や散文を発表する。
1918 年 (大正７年)	22	３月、盛岡高等農林学校本科を卒業。ひきつづき研究生になり、関豊太郎教授指導の下に稗貫郡の土性調査をする。 ５月、童話「くもとなめくじと狸」「雙子の星」などを書く。 １２月、日本女子大在学中の妹トシが病気入院したので、看病のため母とともに上京。
1919 年 (大正８年)	23	２月、病気の良くなった妹とともに帰郷。
1920 年 (大正９年)	24	５月、研究科を終えて家に帰り、家業を手伝う。童話「貝の火」を書く。日蓮宗の信仰団体国柱会に入り、父と信仰のことで争う。
1921 年 (大正 10 年)	25	１月、父に黙って上京し、国柱会の手伝いをする一方、小さな謄写版刷りの印刷所のアルバイトをし、原稿を書く。 ９月、妹トシの病気を知らされ帰郷。 12 月、岩手県稗貫郡立稗貫農学校（後の花巻農学校）の先生となる。
1922 年 (大正 11 年)	26	11 月、妹トシが亡くなり、悲嘆にくれる。
1923 年 (大正 12 年)	27	８月、北海道・樺太へ旅行。
1924 年 (大正 13 年)	28	４月、詩集「春と修羅」を出版。 12 月、童話集「注文の多い料理店」を出版。
1926 年	30	３月、農学校を辞職。下根子の別宅へ一人住まい、崖下の荒地を開墾し、農

(大正 15 年)		民となる。この家で農学校卒業生や農民たちに農業化学を教え、音楽の合奏を行う。羅須地人協会と名付けた。
1928 年 (昭和 3 年)	32	8 月、質素な生活と疲労のため肋膜炎になり、家に戻って療養する。
1931 年 (昭和 6 年)	35	2 月、病気が治ったかに見え、東北砕石工場の技師となる。岩手県を始め秋田・宮城・東京などを回り、9 月、東京で発熱する。家に帰って病床に就く。11 月 3 日、「雨ニモマケズ」を書く。
1932 年 (昭和 7 年)	36	3 月、『児童文学』に「グスコーブドリの伝記」を発表。
1933 年 (昭和 8 年)	37	9 月 20 日夜、農民から肥料の相談を受けて疲れ、21 日午後 1 時 30 分、顔や首・胸をオキシフルで拭き清め、亡くなる。

キラリと輝く先人達

高村光太郎

○高村光太郎の生涯

1883（明治 16）年、東京市下谷区西町（現在の台東区東上野）で仏師・木彫師高村光雲の長男として出生。２姉４弟２妹があり、弟高村豊周は重要無形文化財保持者（人間国宝）の鋳金家。

木彫師の長男として当然のこととして少年時代から父に技術を教えられた光太郎は、1898（明治 31）年、東京美術学校（現在の東京芸術大学）彫刻科に入学。木彫を専攻するが、翌年彫刻科の中に塑造科が設けられ、その影響で木彫の写生にも洋風の粘土が使われるようになり、木彫の枠を超えた新しい塑造芸術に開眼する。

この前後より文学にも興味を持ち、回覧雑誌に随想や紀行文などを寄稿、鴎村の俳号で俳句を新聞・雑誌に投稿、与謝野鉄幹の新詩社に加わり、雑誌「明星」に短歌を寄せるなど主要メンバーとなる。

1902（明治 35）年卒業。卒業制作は日蓮上人の姿を写した「獅子吼」。

1904（明治 37）年、雑誌「ステュディオ」でロダンの「考える人」の写真を見て激しい衝動を受ける。

1905（明治 38）年洋画科に再入学し、洋画を学ぶかたわら戯曲を自作主演するなど彫刻以外に活動の分野を広げ、芸術全般についての考察を深めようとし、広く世界の芸術理解を目的に欧米留学を決意する。

1906（明治 39）年ニューヨークでアカデミー・オブ・デザイン夜学に通うかたわら、彫刻家ポーグラムの通勤助手となる。

1907（明治 40）年ロンドンに渡り、寸暇を惜しんで美術館・図書館を巡り、バーナート・リーチと親交を結ぶ。この頃東京美術学校の彫刻科教授になっていた父光雲の計らいにより、農商務省海外実業練習生の資格を与えられた。

1908（明治 41）年パリに移り、ロダンを初めとする多数の西欧の彫刻・絵画に直接触れ、更にフランス近代文学にも強く惹かれ、ヴェルレーヌ、ボードレール、ロマン・ロランを熟読する。この頃、これら西欧芸術がもつ人間性と日本古来の偏狭の落差を強く感じ、日本人としての自負は崩れ劣等感にさいなまれる。

1909（明治 42）年、帰国した光太郎を待っていたのは、芸術性の追求はさておいて、根付など商品としての木彫を量産する二代目光雲としての期待であった。この風潮に猛烈に反撥した光太郎は、父を象徴とする職人芸術的美術界に対する挑戦とも云うべき運動を開始する。ロダン、ロートレック、マチス、ゴーギャン、ボードレール、ドビッシー、ロマン・ロランなどを精力的に紹介し、当時洋画界の異端児であった萬鐵五郎とも交わることとなる。

1910（明治 43）年、新芸術の拠点として日本で最初の画廊「琅玕洞」を開く。雑誌「スバル」に評論「緑色の太陽」を発表し、日本における今後の芸術のあり方に一石を投ずる。

1911（明治 44）年「スバル」に発表した「失われたるモナリザ」「根付の国」などの一連の詩群は、「真に詩を書く心を得た」と回想する光太郎の詩人としての出発点となった。

1914（大正 3）年詩集「道程」刊行。これは昭和 17 年芸術院賞を受賞。

1915（大正 4）年～1919（大正 8）年、彫刻に専念し詩作はないが、翌年より再び精力的に詩作を始める。また、翻訳にも注力した。

1924（大正 13）年より数年に亘って作られた猛獣（実在の、或いは空想の）をモチーフにした 40～50 篇の詩群は俗に「猛獣篇」と呼ばれ、幾度か出版の予告が出されたが、生前遂に出版されることなく、うち 16 篇のみが昭和 37 年草野心平のガリ切りによる謄写版印刷として出版された。

昭和に入って以降智恵子夫人との闘病生活や生活を支えるための木彫小品などの制作はあるものの、積極的な芸術活動は一時的に途絶える。

1934（昭和 9）年、父光雲 83 歳で逝去。

1942（昭和 17）年、言論統制ますます厳しく、政府主導のもとに戦争肯定戦意高揚の文学が推奨され、日本文学報国会が発足、光太郎は詩部会長に就任する。この時期戦意高揚・文学報国をテーマにした詩作は、戦後光太郎の心を苦しめることとなり、花巻における高村山荘での謂わば蟄居ともいえる質素な生活を自分に強いるもとになった。

○智恵子夫人のこと

福島県安達郡油井村の造酒家長沼家の長女として 1886（明治 19）年出生。福島県立高等女学校を経て、日本女子大学家政学科を卒業。テニス・自転車などのスポーツを得意とし、絵画の才能にも優れ、太平洋画会の研究生として勉強のかたわら、日本最初の女流挿絵画家として台頭した。

1911(明治 44)年、女性人権運動家平塚らいてふ女史らによる女性雑誌「青鞜」が発刊され、その創刊号から表紙絵を智恵子が受け持った。新しい女性像を求めて絵画・文学など芸術活動に目ざめた彼女は、大学の先輩を通じて光太郎に紹介され、共に今後の日本の芸術のあり方について認識を共有してゆくことになる。結婚という形式にとらわれず、人間の解放と新しい芸術を目指す二人は、1914（大正 3）年、本郷駒込林町のアトリエで同棲を始めた。しかし経済的困窮の中での人間としての葛藤は、二人の生活にも厳しい影を落とし、芸術上の行きづまりなど、或いは加えて実家長沼家が 1929（昭和 4）年、破産したことなどを契機に、彼女の精神状態は不安定になり、光太郎の必死の支えもむなしく、精神分裂症として自己を失う。1935（昭和 10）年、智恵子は南品川ゼームス坂病院に入院、1938（昭和 13）年 10 月 5 日肺結核で逝去するまでの間、千数百点におよぶ紙絵を作った。これらは戦災による消失を懸念した光太郎により、花巻など三ヶ所に疎開され、その一部を現在花巻高村記念館で見ることができる。智恵子との同棲を二人は「同棲同類」と表現し、形式にとらわれずに人間として苦楽・目標を一にするカップルとして生き、その中で紡ぎだされた智恵子に対する思慕や二人の生き方の希望などを表現した明治 45 年～昭和 16 年の詩 29 篇・短歌 6 首・散文 3 篇は、昭和 16 年「智恵子抄」のタイトルで出版された。なお、光太郎は各々の死後の

法的措置を慮(おもんぱか)ったのであろうか、昭和８年婚姻届を出している。

○高村光太郎と宮沢賢治

宮沢賢治は大正 13 年詩集「春と修羅」・童話集「注文の多い料理店」を出版した。偶々(たまたま)「春と修羅」を入手した草野心平はこれを非常に高く評価し、同人誌「銅鑼(どら)」に取りあげた。心平から同人に誘われた賢治は加入こそしなかったものの折に触れ詩を寄稿していた。すでに同人であった光太郎は、この同人誌を通じて賢治の詩に触れ、心平同様これを高く評価していた。

大正 15 年 12 月偶々上京中の賢治は、駒込林町の光太郎のアトリエを訪れ、挨拶を交わしたと伝えられる。

賢治没の翌昭和９年、草野心平が東京新宿で賢治追悼会を行った。この席上、賢治の弟宮沢清六氏が、自宅に賢治の原稿二千五百枚余があり、兄の遺志をついで出版の希望を披歴した。これに対し光太郎は編集と出版社の紹介を約束し、早速花巻から筆写して送られてくる賢治の原稿を編集し、更に自身で装丁して全 10 巻の宮沢賢治全集が完成した。これが賢治文学が世に出た最初であり、宮沢家をはじめ花巻の関係者は高村光太郎に非常に恩義を感じ、のち光太郎を花巻に誘う遠因ともなった。

1936（昭和 11）年、現花巻市桜町の羅須地人協会跡地に、賢治文学碑の第一号となった記念碑を建立するに際し、「雨ニモマケズ・・・」の後半の部分が選ばれ、高村光太郎にその揮毫を依頼した。光太郎はこれを快諾、碑が建立されたが、結果的に誤字脱字の存在が判明し、光太郎が花巻に疎開してきた翌昭和 21 年、光太郎自ら碑面に追記し直ちに追刻された経緯がある。

○花巻における光太郎

1945（昭和 20）年４月 13 日、駒込のアトリエ空襲により炎上、前年よりすでに花巻の佐藤隆房氏から花巻への疎開を打診されていた光太郎は、花巻からの再度の誘いを受けて花巻への移住を決意し、５月 15 日に上野を発つ。翌日花巻駅着、宮沢賢治の実家に入り、８月 10 日空襲により宮沢家が焼失するまで寄宿する。のち、佐藤昌氏宅、佐藤隆房氏宅と寄宿先を変えた。

光太郎は戦争中文学報国会活動を通じ戦争遂行に協力し、結果的に光太郎文学の読者に戦争肯定を訴えたことなどの反省から、戦後の日本にあるべき姿の芸術を模索したい希望などから、街中での生活よりも人里離れた場所での質素な自活を望んだ。この心は、光太郎が終戦の詔勅を聞いて作った詩「一億の号泣」に「・・・鋼鉄の武器を失へる時精神の威力おのづから大ならんとす。真と美と到らざるなき我等が未来の文化こそ必ずこの号泣を母胎としてその形相を孕まん。」の言葉に表されている。光太郎のこの意を受けて、太田村山口の地に、営林署の小屋（それ以前は鉱山の小屋）が地元の人々の手で解体移築された。それまで１か月間山口分教場の宿直室に間借りしていた光太郎は、現在「高村山荘」と呼ばれるこの小屋に、11 月 17 日移住した。

間口三間、七坪半の小屋は、杉皮葺き・荒壁・障子一枚の粗末なもので、前の空き地を耕して質素な自炊生活が始まった。人々は世に聞こえた高村先生があのようなと危惧したが、光太郎自身は意に介さず、この生活こそ今までの人生の清算であり、今後の芸術を考える最高の環境としていた。

後にこの小屋は、二重の套屋(とうおく)(うわや)で保護され、当時のままの状態で保存され見学に供されている。

小屋には当初便所がなかったが、訪問者の用に供するため、のちに設置された。光太郎が彫刻刀を使った唯一の機会がこの便所の明り取りのくり抜き「光」の文字となった。

小屋は天井が低く、採光も十分でないため、彫刻の制作には全く不適当で、光太郎はここを離れる 1952（昭和 27）年 10 月までもっぱら詩作と書に専心し、書のいくつかは高村記念館に展示され

ている。

花巻に移住後も光太郎の智恵子夫人への思慕やみがたく、彼女に捧げた詩群は「智恵子抄その後」として出版されたが、この小屋での生活を夫人に報告する詩「案内」が著名。夫人を偲んで小屋の裏山を散歩した道は現在智恵子展望台として整備されている。

小屋と高村記念館の中間には、光太郎の弟であり人間国宝の鋳金家高村豊周の手になる「雪白く積めり」の原稿用紙をそのまま写した詩碑があり、その下には光太郎の遺髪が納められている。

昭和２７年青森県の委嘱による十和田湖畔記念像制作のため 10 月東京に帰られた光太郎は、翌 28 年完成、除幕、のち、体調を崩し、1956（昭和 31）年４月２日肺結核で逝去された。

○高村光太郎　年表

西　暦	年齢	生い立ちと主な業績
1883 年 (明治 16 年)	0	３月 13 日、東京市下谷区に木彫師高村光雲の長男として誕生。母は金谷氏わか。
1888 年 (明治 21 年)	5	４月、練塀小学校入学。彫刻をやることは自然に決まっていた。
1897 年 (明治 30 年)	14	９月、東京美術学校予科に入学。
1902 年 (明治 35 年)	19	７月、東京美術学校彫刻科を卒業。研究科に残る。卒業制作「獅子吼」。この頃ロダンの彫刻を初めて知る。
1906 年 (明治 39 年)	23	２月、渡米。ニューヨークでは彫刻ボーグラムの通勤助手。美術学校の夜学生。
1907 年 (明治 40 年)	24	美術学校の特待生に選ばれ、特別賞受賞。農商務省海外実業練習生の資格を得、６月ロンドンに渡りバーナード・リーチを知る。
1908 年 (明治 41 年)	25	６月、パリに渡る。
1909 年 (明治 42 年)	26	３月帰国を決意、イタリアを旅し７月東京に帰る。以後、『スバル』等にさかんに新芸術を紹介、短歌・詩・評論を書く。
1914 年 (大正３年)	31	10 月、詩集『道程』刊行。12 月、結婚披露。智恵子と２人の生活がはじまる。
1926 年 (大正 15 年)	42	宮沢賢治がアトリエを訪問したと伝えられる。
1934 年 (昭和９年)	51	智恵子の精神分裂症悪化。父光雲没す。
1936 年 (昭和 11 年)	53	宮沢賢治碑のために「野原ノ松ノ林ノ……」詩揮毫。
1938 年 (昭和 13 年)	55	智恵子がゼームス坂病院で没す。
1945 年 (昭和 20 年)	62	４月 13 日夜、空襲によりアトリエ炎上。５月に花巻町の宮沢清六方に疎開。肺炎臥床。８月宮沢家戦災、終戦。10 月、太田村山口の小屋に移り、農耕自炊の生活に入る。

1952 年 (昭和 27 年)	69	十和田国立公園功労者記念碑の彫像制作を決意、帰京。中野区のアトリエで制作。
1953 年 (昭和 28 年)	70	6 月、裸婦像原型完成。10 月湖畔休屋で除幕される。11 月来花。小屋に行き志戸平などに滞在。
1955 年 (昭和 30 年	72	4 月、山王病院に入院。
1956 年 (昭和 31 年)	73	4 月 2 日早暁、その生涯を終る。

キラリと輝く先人達

新渡戸氏と新渡戸稲造

○五千円札に登場した新渡戸稲造

昭和 59 年 11 月 1 日に新渡戸稲造を肖像画に入れた五千円札が登場。平成 16 年、樋口一葉に替るまで 20 年間発行された。この肖像は養女ことの結婚式の時のもので、稲造 56 歳の写真である。新札の札番号 A000001A は大蔵省に残り、A000002A が稲造の出身地盛岡市に、A000001B が十和田市立新渡戸記念館に贈られた。当時は稲造と花巻の関係が知られておらず、花巻新渡戸記念館もなかったため、花巻市ではあまり話題にならなかった。

○新渡戸氏の歴史と花巻

新渡戸氏の祖先は、桓武天皇までさかのぼる。桓武天皇第五皇子葛原親王に始まり、千葉城主、栃木の新渡戸城主、仙台周辺の高原城主などもしている。

胆沢の西根城主であった 31 代目に当たる頼長の時代に西根城が落城、母子は和賀仙人に逃れて窮地を脱した。子の胤重（32 代）が成人して和賀氏に仕え、江釣子に 7 千刈※を賜った後、浪人して花巻に入る。(※刈＝田の面積の単位。稲束 1 つが収穫できる面積。)

花巻での始まりは胤重の子、33 代春治が安野に落ち着き、時の盛岡藩主南部信直公の招きにより南部の家臣として仕えた時である。33 代春治から 40 代維民（稲造の曽祖父）まで、8 代 228 年間に渡りこの安野に居住し、新田開発などに貢献する。

維民（春治の子常綱から数えて 7 代目）が花巻城縮小に反対したため、花巻系新渡戸本家は北郡川内村（下北半島、現在のむつ市川内町）に流されることとなる。新渡戸家の人々はこの地でも開拓を行い、新田で稲が取れたちょうどそのころ生まれたことから「稲」の字を与えられたのが幼名稲之助、後の稲造である。稲造は 11 代目に当たる。

稲造の人格形成に大きな影響を与えたと言われるのは祖父・傳、父・十次郎、母・せき（勢喜）、そして叔父で養父でもあった太田時敏（十次郎の弟）の 4 人と言われている。

○新渡戸一族の地域開発

新渡戸氏の地域開発の歴史は 1677 年花巻新渡戸本家 3 代義紹の高松村の開田に始まり、1800 年代には本家分家の別なく取り組み、和賀郡藤根村、同江釣子村、盛岡方面や花巻の宮野目村、湯本村などを開田している。

現在の花巻新渡戸記念館周辺も当時は小さなため池が散在していた地域で、現在ここにある田地の多くは花巻新渡戸第 3 分家、第 4 分家が開田したものである。

また、和賀郡沢内村に至る中山街道の開設（1779）には、花巻第 4 分家新渡戸要作が関係し、そ

の後の改修にも太田時敏（当時稗貫和賀郡長）や第４分家で初代花巻町長の新渡戸米八が関わっている。

維民が下北半島の川内村に流されると、これを機に８代傳によって三本木原開拓が行われる。十和田湖から稲生川（いなおいがわ）が通り、９代十次郎の設計によって人口６万３千に及ぶ現在の十和田市の基が作られた。

○新渡戸稲造

文久 2 年（1862）、十次郎の三男として盛岡に生まれた稲造（幼名稲之助）は、５歳で父を亡くし、母せきのもとで育てられる。祖父傳は稲造を可愛がり、「稲造は正しく育てれば将来国の役に立つ人物となるが、間違えば悪党になる」と稲造の人物を見抜いていたという。

稲造９歳の時上京、叔父である太田時敏の養子となる。時敏は祖父傳の四男で、花巻の太田家の養子として入籍していた。時敏は稲造に英語を習わせるなど外国へ目を向けるきっかけを作った人物で、後に稲造は著書「武士道」を時敏に捧げている。

翌年私立英学校で英語を学ぶ。上級には同郷の佐藤昌介（しょうすけ）（別項参照）がいた。昌介とはこの後生涯を通じて親交を交わし、多大な援助を受けることになる。

その後 13 歳で東京英語学校に入学、15 歳で開拓使札幌農学校の第二期生として入学。ここでも第一期生に佐藤昌介がいて何かと教えを受ける。

明治 16 年、21 歳で東京大学入学。面接に当たって「願はくは我太平洋の橋とならん」との言葉を残す。しかし授業が物足りず、翌年アメリカに留学。時敏や兄の七郎から金銭的支援を受けての私費留学であった。

アメリカではアレゲニー大学に入学したが、同じくアメリカに留学していた佐藤昌介の指導でジョンズ・ホプキンス大学に転校。経済学、史学、文学などを学んだ。

明治 20 年、在米中に昌介の特別なはからいで札幌農学校(現在の北海道大学)助教となり、3 年のドイツ留学を命じられる。官費で留学できることになり、金銭的な心配がなくなる。

このドイツ留学で、「日本には道徳を教える宗教教育がないのか」と尋ねられたことが、後の名著「武士道」執筆のきっかけとなる。

明治 22 年、ドイツ留学中に長兄七郎が死去。新渡戸姓に復帰する。

明治 24 年、メリー・エルキントンと結婚、帰国し札幌農学校教授となる。

メリーは稲造より 5 歳年上で、日本では通称新渡戸萬里子（戸籍は萬里）。地元の名家の出身で、敬虔なクエーカー教徒であった。稲造がジョンズ・ホプキンス大学の学生だった頃に稲造の演説を聞いてその考えに傾倒し、エルキントン家の反対を押し切って結婚した。「武士道」の執筆はメリーが質問し稲造が答える形で執筆されたと言われる。また、稲造が第一高等学校校長になると学生のために自宅を開放したり、自分への遺産で貧しい人たちのために札幌の遠友夜学校を創設、稲造の没後は自ら校長となるなど、生涯を通じて稲造を支えた。

明治 30 年、病気のため札幌農学校を退職。伊香保での静養のかたわら、「農業本論」「農業発達史」を執筆、出版する。「武士道」が書き始められたのもこの頃で、明治 33 年（1900）にアメリカで出版され、ベストセラーとなった。

明治 34 年、水沢出身で当時台湾総督府の民生局長をしていた後藤新平に技師として招かれ、のちに台湾総督府糖務局長となっている。稲造が台湾にいたのは 3 年であったが、稲造が提出した「糖業改良意見書」により精糖の生産量は急速に増加。明治 34 年に 5800斤（きん）（斤＝600g）だった生産量が、稲造晩年の昭和 7 年には 16 億 5000 万斤となり、台湾の重要な生産品の首位になる基を作っ

た。

これ以後も第一高等学校校長、東京帝国大学法科大学教授、東京女子大初代学長などを歴任。また第一回日米交換教授として渡米し、1 年間で 164 回もの英語による講演を行っている。

そして大正 9 年、58 歳で国際連盟初代事務次長（5 人のうちの 1 人）となる。次長の国際的地位は日本の総理より上だったと言われるが、この時稲造の担ぎ出しに最も熱心だったのは後藤新平だった。事務総長のドラモンドは演説が苦手で、講演があると 10 回に 7 回は稲造を派遣したという。稲造は演説がうまいだけでなく、深い感動を与えたからだといわれる。就任期間 7 年間の中で難しい国際紛争も処理し、そのめざましい活躍から「ジュネーブの星」と呼ばれた。

ジュネーブでの最大の功績の 1 つに、稲造が提案して作られた国際知的協力委員会（のちのユネスコ）がある。稲造は幹事長として活躍したが、議長は 20 世紀最大の哲学者といわれたベルグソン、委員会にはアインシュタインやキュリー夫人もいた。

この頃アメリカに日本人移民の排斥運動が起こり、大正 13 年には「排日移民法」が作られている。日本とアメリカの間が険悪になる中で昭和 4 年、67 歳で太平洋問題調査会理事長になり、京都で行われた太平洋問題調査会世界会議の議長を務めた。

日本とアメリカの和平を願い奔走する稲造の思いもむなしく、稲造は軍部や右翼から監視されるようになり、ついには国賊・非国民と見なされるようになる。さらに昭和８年には日本が国際連盟を脱退。

昭和 7 年、松山市で軍閥批判をしたため命を狙われ、昭和天皇の命を受けて日本を去りアメリカに向かう。

翌昭和 8 年に帰国し昭和天皇に拝謁。その後再び太平洋会議出席のため渡米する。しかし会議終了後、体調を崩し入院。10 月 16 日(日本時間)、カナダのビクトリア市ジュビリー病院で亡くなった。71 歳であった。

11 月 18 日、東京青山での葬儀では、佐藤昌介が葬儀委員長を務めた。

妻メリーは、昭和 13 年、軽井沢で亡くなっている。

○著書「武士道」（原題「BUSHIDO：The soul of Japan(日本の魂)」）

日本では道徳を教える宗教教育はないのか、と聞かれ答えに窮した稲造が、のちに日本の道徳が武士道の中に生きていることに思い至る。これを示すため英文で書かれたのが「武士道」で、明治 33 年（1900）にアメリカで出版され、同年日本でも出版された。のちにドイツ語、ポーランド語、ノルウェー語、フランス語、ロシア語、中国語などにも訳されて広く海外で読まれ、稲造自身「BUSHIDO のニトベ」と呼ばれるようになった。当時日露戦争の最中で、この本を読んだアメリカ大統領ルーズベルトは深い感銘を受け、日本側に立って講和の仲介者となることを決断し尽力した。

この本に書かれた「武士道」は、序文から伺われるように花巻新渡戸本家の祖父傳と、稲造の養父であった叔父太田時敏などから学んだものである。

「過去を敬うことならびに　武士の徳行を慕うことを私に教えたる　我が愛する叔父太田時敏にこの小著を捧ぐ」(献辞部分より)

○花巻新渡戸記念館

花巻市安野にある花巻新渡戸記念館は、新渡戸家の屋敷があった場所に平成 3 年に建設されたもので、新渡戸氏の功績やゆかりのあった花巻の先人を紹介している。

この場所は、新渡戸氏 33 代春治が 1598 年に南部氏の招きで安野(やすの)村（現在の花巻市高松）に住むことになった時に居を定めた場所で、春治の妻の父・小原藤四郎の屋敷であった。この場所を「藤四

郎屋敷」と言ったり、記念館付近を「旦那の前」（藤四郎屋敷の前）というのはそのためである。今もこの敷地の西側に春治の墓といわれる石がある。東側には稲造と深い親交があった佐藤昌介を称える碑がある。また藤四郎屋敷の居久根林には氏神の安野稲荷神社があり、これは花巻新渡戸家２代貞紹が、夢枕に現れた志和稲荷大明神の霊を迎えたものと言われる。

記念館では、盛岡藩士としての新渡戸家の活躍の足跡を、武将・兵学者としての側面や、新田開発に情熱を傾けた業績などを幅広く展示すると共に、新渡戸稲造の才能と人格形成に大きく寄与した花巻時代の新渡戸氏について分かりやすく展示している。

展示物は先祖から信仰してきた観音堂や稲荷神社、開田用具などのほか、稲造と関わりの深い佐藤昌介、島善鄰なども紹介されている。

○新渡戸稲造　年表

西　暦	年齢	稲　造　の　生　い　立　ち　と　主　な　業　績
1862 年 (文久２年)	0	９月１日、盛岡藩勘定奉行　新渡戸十次郎の三男として盛岡に生まれる。 幼名稲之助。
1867 年 (慶応３年)	5	父の死にあい、母せきのもとで育つ。
1871 年 (明治４年)	9	上京して叔父太田時敏の養子となり、太田稲造と改める。
1872 年 (明治５年)	10	私立英学校、その後藩校共慣義塾で英語を学ぶ。上級に同郷の佐藤昌介。
1875 年 (明治８年)	13	東京英語学校に入学。
1877 年 (明治 10 年)	15	開拓使札幌農学校第二期生として入学。第一期に佐藤昌介。
1880 年 (明治 13 年)	18	母せき死去。
1883 年 (明治 16 年)	21	東京大学入学。面接で「願はくは我太平洋の橋とならん」のことばを残す。
1884 年 (明治 17 年)	22	アメリカへ私費留学。アレゲニー大学入学後、佐藤昌介の指導があってジョンズ・ホプキンス大学に転校。
1887 年 (明治 20 年)	25	在学中に昌介の援助で札幌農学校助教となり、ドイツ留学を命ぜられる。
1889 年 (明治 22 年)	27	長兄七郎の死去により新渡戸姓に戻る。
1891 年 (明治 24 年)	29	メリー・エルキントンと結婚。 帰国し、札幌農学校教授となる。
1897 年 (明治 30 年)	35	病気のため札幌農学校退職。
1898 年 (明治 31 年)	36	伊香保で静養中に「農業本論」「農業発達史」を執筆、出版。 渡米し、療養生活のかたわら「武士道」の執筆を始める。

1899 年 (明治 32 年)	37	佐藤昌介らと共に日本最初の農学博士となる。
1900 年 (明治 33 年)	38	アメリカで「武士道」出版。
1901 年 (明治 34 年)	39	後藤新平に台湾総督府技師として招かれる。翌年台湾総督府糖務局長となる。 新設の京都帝国大学法科大学教授を兼任。
1906 年 (明治 39 年)	44	法学博士となる。 京都帝国大学を辞め、第一高等学校校長となる。
1909 年 (明治 42 年)	47	東京帝国大学法科大学教授を兼任。
1911 年 (明治 44 年)	49	第一回日米交換教授として渡米。
1913 年 (大正 2 年)	51	第一高等学校退任。
1918 年 (大正 7 年)	56	東京女子大初代学長となる。
1920 年 (大正 9 年)	58	国際連盟事務次長となる。
1926 年 (大正 15 年)	64	国際知的協力委員会を創設、国連事務次長を退任。 貴族院議員に勅選※される。
1929 年 (昭和 4 年)	67	太平洋問題調査会理事長、太平洋会議議長となる。
1932 年 (昭和 7 年)	70	松山市で軍閥批判。命を狙われ、昭和天皇の命を受けて渡米。
1933 年 (昭和 8 年)	71	帰国し昭和天皇に拝謁。 太平洋会議出席のため再び渡米。会議後体調を崩して入院し、日本時間 10 月 16 日、カナダのビクトリア市ジュビリー病院で死去。 11 月 18 日東京青山で葬儀。葬儀委員長は佐藤昌介。

※勅選議員：旧憲法下の貴族院の構成議員。満 30 歳以上の男子で、国家に勲功があり学識のある人物で特に勅任されたもの。任期は終身。

キラリと輝く先人達

萬(よろずて) 鉄五郎(つごろう)

〇少年時代

1885(明治 18)年 11 月 17 日、花巻市東和町土沢に生まれる。
萬家は屋号「八丁」といい土沢で回送問屋を営む大地主であった。
幼少の鉄五郎は絵を好み、武者絵などに見入り、めったに戸外では

遊ばない内気なおとなしい子供であったと伝えられる。

萬本家「八丁」の中庭。自転車を持つのは従弟の昌一郎（明治 34 年頃）

○水彩画との出会い

水彩画家・大下藤次郎（おおしたとうじろう）による水彩画の指導書『水彩画の栞（しおり）』が当時大ベストセラーとなり、水彩画ブームを巻き起こした。巻末に、大下のもとに自作を送れば、指導、助言の労をとることが記述されており、全国の絵画少年から作品が送られた。鉄五郎もその中の一人であった。

大下藤次郎著「水彩画之栞」
＜新声社 1901(明治 34)年 6 月初版＞

《はっきりは覚えてないが十七位の時と思う。或る日新聞に『水彩画の栞』という本の広告があったので早速買って読んでみた。何んだかその時非常に清新とでもいう様なそそられる様な感じを受けた。そして自分にも直ぐ水彩画が描ける様な気持ちになってその時までやって居た日本画が急につまらなく思われる様になったと思う。指定された道具を買って幾枚かの静物を作った。風景も一二枚かいた筈（はず）だ。自分では非常によく出来た様な感じがした。》（『水彩画と自分』「みずゑ」大正 12 年 10 月号）

○東京美術学校時代

1907(明治 40)年、東京美術学校西洋画科に入学。試験合格者 28 人中、首位の成績であった。在学中、級長を務める真面目な反面、奇行も多く伝えられる。当時の美術学校では、教授を勤めていた黒田清輝（くろだせいき）に代表される、外光派表現が主流であったが、萬は徐々にヨーロッパからもたらされた新しい表現へと傾倒をみせる。

東京美術学校の同級生たちと
（萬は前列左から3人目）

《さかのぼって考えるのに面白かったのは、美術学校の五年間であった。この五年間だけがぽっかり陽があたっているという様な感じである。》（『私の履歴書』「中央美術」大正 14 年 11 月号）

『裸体美人』〔重要文化財〕

東京美術学校卒業制作。卒業制作の評点は 72 点で、本科卒業生 19 名中 16 番だった。

《かなり長くかかって描いた百号の卒業制作……これはゴッホやマチスの感化のあるもので半裸の女が赤い布を巻いて鮮緑の草原に寝ころんでヘイゲイしている図》（『私の履歴書』「中央美術」大正 14 年 11 月号）

○美術学校卒業後

1912(明治 45･大正元)年、美術学校を卒業した萬は、フォーヴィスム（野獣派）や表現主義など新しい表現を積極的に試みる。また、同年 9 月に結成されたフュウザン会に参加。同会は、斎藤与里（さいとうより）、岸田劉生（きしだりゅうせい）、高村光太郎らが発起人となり作られた美術家集団。2 回の展覧会を開いたのみで翌年 5 月解散した。活動期間は短いが、日本で初めての表現主義的な美術運動として、先駆的な意義を持つ。参加者は他に萬鉄五郎、木村荘八（きむらしょうはち）、バーナード・リーチなど。若い芸術家 30 人余が参加し、ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ、マチスなど、後期印象派やフォービズムの影響が強くみられる。

第1回フュウザン会
展目録

〇土沢時代

1914(大正 3)年９月、生活と制作上の理由から、家族と共に郷里土沢に帰る。一年半の土沢での滞在の間、萬は本家「八丁」と街道を挟んで筋向いにあった。倉庫を改造し、父の家族とは別に住む。ここに隣接したモダンな木造西洋館にアトリエを構える一方、電灯会社の代理店も営むが、店はほとんどよ志夫人にまかせ制作に専念する。

萬の土沢のアトリエ
（写真は後に郵便局としていた頃のもの）

《この時は随分勉強した。何も見も聞きもしない。二科会など始まった様であったがそんなものも見たいとも思わなかった。秋から冬、春から夏という風にどんどん描いたものである。》（萬鉄五郎『私の履歴書』「中央美術」大正 14 年 11 月号）

この頃の作品は、モノクロ調の抑えた色彩、形態の単純化が進む郷里の風土を盛り込んだ独特なキュビスム（立体派）的傾向が表れる。

〇東京時代

当初から、郷里での制作期間を１年間としていた萬は、1916(大正 5)年１月家族を伴い再び上京。土沢で描きためた作品を次々と発表する。

『もたれて立つ人』

女性像が立体的に表現される。日本におけるキュビスムの先駆的作品。

《一体吾々がモデルを見る時に興味を曳く点は多々ある。その中で（人が）体をささえて居ると言うことに対して特別にその感じた興味を強く専(もっぱ)らに描出しようと思った。そしてそう云う場合にそれを全く客観を離れて表現するのが良いと思った。そして色彩も画面を整頓する上に便宜として自分の趣味から選んだ色を塗った》（「作品につきて」『新美術』１巻第７号　大正６年 10 月）

睡眠不足と過労が重なり、夏頃から体調を崩す。次第に神経衰弱気味となり、作品の制作ができなくなる。また、肺結核に罹患していることも判明する。

〇茅ヶ崎時代

1919(大正 8)年春、神経衰弱と結核に冒された萬は、病気療養のため神奈川県茅ヶ崎へ移り住む。

約一年間の療養生活で健康を取り戻すと、洋画に東洋の伝統的絵画である文人画（南画）を取り入れた新しい表現を模索していく。また、しばらく制作を止めていた水彩画・木版画の作品も積極的に手がける。

また美術団体「春陽会(しゅんようかい)」や「円鳥会(えんちょうかい)」の結成にも関わるなどの活動も行う。

《人間の生命が爆発してすきまのない表現を要求する時必ずしも材料を考える要はない。手近にあるどんな材料でもよい筈だ。水絵具でも木炭でも又は万年筆でも墨でもなんでもよいと思う。只何を持ってでも爆発させさえすればよい。

生命が涸渇(こかつ)して爆発しなくなると材料論や技巧論の方法問題にとらわれやすくなる。これは危険な事だ。永久に爆発する人間にとっては方法問題や材料論などは無価値になってくる。この頃よく絵具の研究や技術問題に没頭する人を見るがつまらない事だと思う。芸術は刹那的に爆発する時に尊いのだ。》（萬鉄五郎『水彩画と自分』「みずゑ」大正十二年十月号）

1926(大正 15)年 12 月、前年暮れから病床にあった長女・登美(とみ)が結核のため他界する(享年 16)。萬は非常に落胆し、このころから精神的にもかなり疲労していったようである。翌 1927(昭和 2)年２月には風邪から肺炎を病み、床につく。４月末には結核性気管支カタルから肺炎を併発し５月１日、午前 10 時 30 分、茅ヶ崎の自室で死去する。享年 41。

アトリエには描きかけの『宝珠をもつ人』が残されていた。生前、萬は「僕の絵はきっと死んだ後で理解されるであろう」と語っていたという。

○萬鉄五郎作品

『裸体美人』
油彩･画布
1912（明治 45）年
162.0×97.0cm
東京国立近代美術館蔵
〔重要文化財〕

『太陽と道』
油彩･板　1912 年頃
24.0×33.0cm
萬鉄五郎記念美術館蔵

『軽業師』
油彩･板　1912 年頃
24.0×33.0cm
萬鉄五郎記念美術館蔵

左／ 像
油 正
45.8×33.5cm　岩手県立美術館蔵

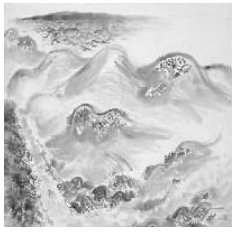
右／**『自画像』**
油彩･画布　1915(大正 4)年
45.6×33.5cm　岩手県立美術館蔵

自画像と故郷の風景が、郷里土沢での制作テーマ。特にも自画像は一作ごとに形態の解体がすすみ、この作品に至っては内面に潜む形、内なる「顔」を描き出したと見ることもできる。

『丘のみち』
油彩･画布　1917(大正 6）年頃　162.5×112.5cm
萬鉄五郎記念美術館蔵

美術館の建つ「舘山」がモデルとされる。赤い道と緑の土手が幾何学的に単純化され、光による明暗も極力排除されている。ぐねぐねと動いているかのような画面は「内臓模型のよう」と評された。

『もたれて立つ人』
油彩･画布
1917(大正 6）年頃
162.5×112.5cm
東京国立近代美術館蔵



『砂丘』
紙本墨画
1925(大正　14)年頃
66.5×68.0cm
萬鉄五郎記念美術館蔵

『秋景農夫図』
紙本墨画
1922(大正　11)年頃
76.0×63.7cm
萬鉄五郎記念美術館蔵

『宝珠をもつ人』
油彩・画布
1927（昭和 2)年
岩手県立美術館蔵

○萬鉄五郎　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　業　績
1885 年 (明治 18 年)	0	11 月 17 日、花巻市東和町土沢(当時、東和賀郡十二箇村)に父八十次郎(のち勝衛と改名)、母ナカの長男として生まれる。九人兄弟の長男だった。
1892 年 (明治 25 年)	7	土沢尋常小学校に入学。このころから絵に関心を持ち始め、食事中も箸で卓上に動物などを描いては、祖父や父にしかられていた。
1896 年 (明治 29 年)	11	土沢尋常小学校を卒業。土沢高等学校に入学する。「和賀郡小学校連合学芸展覧会」に山水画を出品、郡役所買い上げとなる。
1900 年 (明治 33 年)	15	土沢高等小学校を首席で卒業。祖父長次郎の意志により中学校への進学を断念する。
1901 年 (明治 34 年)	16	このころ、大下藤次郎著『水彩画之栞』を購読し水彩画を始める。大下のもとに作品を送り指導を受ける。
1902 年 (明治 35 年)	17	祖父長次郎(享年 62)死去。鉄五郎は、いとこの昌一郎とともに再び進学への志をもちはじめる。
1903 年 (明治 36 年)	18	3 月末、鉄五郎が上京し、4 月に昌一郎も上京。神田中学校、私立中学郁文館、私立早稲田中学校 3 年に編入学。校内の絵画同好会に加入し、写生会や展示会をおこなっていた。
1904 年 (明治 37 年)	19	伯母タダの勧めで、両忘会の禅道場両忘庵に昌一郎とともに参禅し、鉄五郎は『雲樵居士』の道号を授けられる。
1905 年 (明治 38 年)	20	このころから白馬会第二洋画研究所(通称菊坂研究所)に通いはじめ、長原孝太郎、小林鍾吉らの指導でデッサンを勉強する。
1906 年 (明治 39 年)	21	私立早稲田中学校を卒業。5 月、宗活禅師に従って両忘庵の人たちとともに渡米する。鉄五郎の目的はアメリカでの美術学校入学にあったようであるが、学費のあてがなく滞米留学をあきらめ、この年の暮れ、昌一郎より先に帰国する。
1907 年 (明治 40 年)	22	東京美術学校西洋画科に入学する。
1909 年 (明治 42 年)	24	浜田よ志と結婚する。浜田家は、根津にあって琴の桐材などの取扱いを家業としていた。
1910 年 (明治 43 年)	25	長女フミ(後に登美と改名)生まれる。5 月、白馬会第 13 回展に出品。

1912 年 (明治 45 年)	27	東京美術学校西洋画科を卒業する。卒業制作は『裸体美人』。 ５月、フュウザン会の結成に参加する。10 月、第１回フュウザン会展に７点出品。このころ生活費を得るため、郷里から木炭を取り寄せて販売したり、浅草の活動写真の看板を描く。
1913 年 (大正２年)	28	３月、第２回フュウザン会展に５点出品。
1914 年 (大正３年)	29	長男博輔(ひろすけ)、生まれる。９月、家族をともない郷里土沢に帰り、萬家本家の向かいに電灯会社の代理店を営む。
1916 年 (大正５年)	31	家族とともに再び上京する。
1917 年 (大正６年)	32	第４回二科展に上京後に描いた『もたれて立つ人』など２点を出品。次女馨子生まれる。
1919 年 (大正８年)	34	不規則な生活や睡眠不足から神経衰弱症にかかり、神奈川県茅ヶ崎市に居住していた弟冨次郎、泰一のもとに転地療養。９月、家族とともに茅ヶ崎に居住する。同月第６回二科展に４点出品。
1920 年 (大正９年)	35	このころから、文人画(南画)に再び興味を持つ。
1921 年 (大正 10 年)	36	第 3 回帝展に『水浴する三人の女』を搬入するが落選。この作品は、その後萬自身によって切り刻まれた。構図中の三人の裸婦のうち、一つは後の作品『宙腰の人』、他の一つは『雲と裸婦』のモチーフとなっている。
1922 年 (大正 11 年)	37	春陽会が設立され、客員として参加。この年、南画についての研究を発表。このころ、文人画を多く制作する。
1923 年 (大正 12 年)	38	円鳥会を組織する。三女多津子(たつこ)生まれる。５月、第 1 回春陽会展に出品。円鳥会を結成。この頃から水彩画を多く描く。
1926 年 (大正 15 年)	41	長女登美が死去する(享年 16)。
1927 年 (昭和２年)		１月末より健康がすぐれず、２月に風邪から肺炎を病み、床につく。４月、第５回春陽会展に出品。生前最後の発表となる。５月１日、午前 10 時 30 分、茅ヶ崎の自室で死去する。享年 42 歳。

多田等観(ただとうかん)

○多田等観の生涯（明治～昭和時代）

多田等観（1890～1967）は、秋田市土崎の西船寺(さいせんじ)に生まれた。秋田中学校卒業後、京都西本願寺に入り、そこでダライ・ラマ 13 世の使者として来日していたチベット僧達の世話役になった。彼らの帰国に際しインドまで同行し、その後単独でチベット入りした。

チベットでは、ダライ・ラマ 13 世の庇護のもと約 10 年にわたってチベット仏教の修行をし、外国人としては初めて大僧正の位に任ぜられた。そして、彼の帰国にあたり、ダライ・ラマ 13 世からチベット仏教に関する秘宝・秘仏・経典等を贈られた。

帰国後には、東北大学、東京大学、慶応義塾大学等の講師を歴任し、チベット学や仏教学の講義をしている。

1945(昭和 20)年、チベット関係資料を戦禍から守るため、実弟(光徳寺住職の鎌倉義蔵)の住む花巻に疎開し、円万寺観音山で独居をしている。

○釈迦牟尼世尊絵伝

多田等観が帰国に際してダライ・ラマ 13 世に下賜を願い出て叶わなかったものである。しかし、ダライ・ラマ 13 世の遺言により、13 世の死後多田等観に贈られた。

ポタラ宮殿に描かれた壁画の原画と伝えられているものである。釈尊の生涯のエピソードを、チベット仏教史上最も著名な学僧であるターラナータの著作に忠実に依って、125 話を通して描かれている。

○多田等観　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　業　績
1890 年 (明治 23 年)	0	7月1日、秋田県土崎港旭町琴平の西船寺 14 世義観の三男として誕生。
1910 年 (明治 43 年)	20	秋田中学校卒業、本山の西本願寺に入山。 門主大谷光瑞の命を受け、チベットのダライ・ラマ 13 世の使者ツァワ・ティトゥル師の世話役となり、チベット語を会得。
1912 年 (明治 45 年)	22	ツァワ・ティトゥル師一行の帰国に同行してインドに渡る。 インドに逗留中のダライ・ラマ 13 世に謁見、トゥプテン･ゲンツェンの法号を賜り、入国の許可を受ける。
1913 年 (大正 2 年)	23	ヒマラヤを越えて単身チベットに入る。 ダライ・ラマ 13 世の特命でセラ学僧院に入る。帰国まで 10 年間あらゆる修行とチベット仏教の研究を行うとともに、文化面の事業に参画する。
1922 年 (大正 11 年)	32	ラマ教の最高学位「ゲシェ(大僧正)」に任ぜられる。
1923 年 (大正 12 年)	33	3月帰国。24,279部の経典・典籍を請来。
1924 年 (大正 13 年)	34	東京帝国大学文学部嘱託としてチベット文献を整理。
1925 年 (大正 14 年)	35	東北帝国大学講師として講義のかたわらチベット仏典の目録作成。
1933 年 (昭和 8 年)	43	外務省後援の夏期大学の講師として旧満州、蒙古に出張。
1934 年 (昭和 9 年)	44	西蔵大蔵経総目録を刊行。
1941 年 (昭和 16 年)	51	蒙古の徳王李守信の訪問をうける。
1942 年 (昭和 17 年)	52	東京大学、慶応義塾大学の講師。 慶応義塾大学外語研究所、アジア文化研究所の創設に参画。

1945 年 (昭和 20 年)	55	花巻町の光徳寺に疎開。
1947 年 (昭和 22 年)	57	円万寺観音堂本尊として、ダライ・ラマ 13 世恩賜の塑像の「千手千眼十一面観音像」を寄贈奉安。 境内に一燈庵が建てられ、光徳寺から移り住む。 太田村山口に疎開していた彫刻家の高村光太郎と親交を持つ。
1951 年 (昭和 26 年)	61	アメリカ合衆国のスタンフォード大学アジア文化研究所の招きにより観音山を去る。 光徳寺境内に蔵脩館(ぞうしゅうかん)が完成。観音山の経蔵から、チベット請来の仏典・仏具を移し保存する。
1953 年 (昭和 28 年)	63	西蔵撰述仏典目録(ちべっとせんじゅつぶってん)を刊行。アメリカ合衆国から帰国。
1955 年 (昭和 30 年)	65	日本学士院賞受賞。
1956 年 (昭和 31 年)	66	ロックフェラー財団の援助で東洋文庫にチベット学研究センターが設けられ同センターの主任研究員として後進の育成にあたる。
1966 年 (昭和 41 年)	76	勲三等旭日中綬章を叙勲される。
1967 年 (昭和 42 年)		２月 18 日逝去、西本願寺門主より智蔵院の院号の染筆(せんぴつ)下附される。法名、智蔵院釈等観法師。享年 78 歳。

谷村貞治(やむらていじ)

〇貞治子供のころ

貞治は、1896（明治 29）年、父定紀（のちに定衛）母たけの四男として、岩手県稗貫郡新堀村（現花巻市石鳥谷町）に生まれた。

明治 35 年６歳、新堀尋常小学校に入学し、３年生のころ石鳥谷の叔父隣次郎の養子となり、石鳥谷尋常高等小学校に転校した。　〔関栄一（宮沢賢治と盛岡中学校同年）らと友人となる〕

明治 43 年 14 歳高等科卒業後、医師を志し盛岡の李村医院に奉公。大正２年９月医術開業試験規則が廃止され、医師の道を絶たれたため、翌大正３年に初志を変更し逓信省職員を志願した。

しかし、大正４年 19 歳の春、逓信講習所入所試験を２年連続して失敗した貞治は、家出し夜汽車で上京。安宿で２泊し職を探したが、得られずに帰郷して出直すこととした。

晩秋に再度上京し逓信局見習い後、本採用となりました。

この後は、『岩手県版小学校道徳資料集「自分の生き方を見つめて」』より紹介する。

〇青年時代から晩年へ　〔みちのくの電信王〕

モールス信号は、文章を、「ピッ」という短い音と、「ピー」という長い音の組み合わせで表した信号で送り、受け手が、それを耳で聞き取り文章に直すという電気通信（電信）の方法である。

７、８０年ほど前まで使われていた方法であるが、使いこなせる人の数は、とても少ないものでした。今の「メール」などのように、誰でも簡単に文章を作ったり送ったりすることなど、夢のような

時代でした。しかし、岩手には、そんな「夢」を現実のものにしようと、新しい機械の開発に力をそそぎ、後に「みちのくの電信王」と呼ばれるようになった人物がいました。岩手県新堀村で生まれ育った谷村貞治その人である。

18 才の頃、東京に出た貞治は、「電信」を扱う役所で働き始めました。それから 1 年ほどたったある日のことである。貞治は、電信柱のてっぺんで、電線の修理をしていました。頭上には真っ青な空が広がっていた。そこにプロペラとエンジンの音をとどろかせながら 1 機の飛行機が飛んできました。

このころ飛行機は、まだまだめずらしいものでした。「すごいものが発明されたもんだ。」飛行機をながめながら、貞治は、自分でもおどろくほどの胸の高鳴りを感じ始めていました。

「よし。俺もこの電信の仕事で、人を驚かすようなものを必ず作ってやるぞ。」電線の修理もすっかり忘れ、小さくなっていく飛行機を見つめる貞治の胸の中には、いつの間にかそんな決心が固まってきました。その後、貞治は、役所の仕事を続けながら、電気学校に入学し、電信開発に必要な知識をどんどん身に着け、開発への夢を膨らませていきました。

そんなおり、貞治の運命を左右する大変な出来事が起こりました。死者・行方不明者およそ 10 万人とも言われる関東大震災（1923 年・大正 12 年）である。東京一帯は、だれもが明日への希望を失ってしまうような有様でした。貞治も、地震が原因で発生した火災によって、住んでいた家など何もかも失ってしまいました。

ところが、貞治は、希望を失うどころか、この大震災をきっかけに新しい会社に移り、ずっと思い続けていた電信開発の夢に向かって新たな一歩を踏み出したのであった。

そこから、貞治の研究の日々が始まりました。そして、10 年近くに及ぶ研究の末、日本で初めてとなる「仮名文字電信機」を作ることに成功したのであった。

それまでは、たった一つの言葉を送るために、何種類ものモールス符号を打たなければならなかったが、この機械は、仮名文字のついたキーを押すだけで、自動的にモールス符号が送受信されるという、とても便利なものでした。

貞治は、東京蒲田というところに自分の工場を建て、その後も順調に仕事を進めていました。

しかし、更に大きな苦労が貞治を待ち受けていました。太平洋戦争である。東京も大空襲にあい、百万人以上の人が被害を受けました。大震災の苦労にも負けず、長い年月をかけて大きくしてきた貞治の工場も一瞬にして灰になってしまいました。残されたのは、たった一枚の看板と門の柱だけでした。

「あんなに頑張ってきたのにー。今回ばかりは、もう何もかもおしまいだ。」

大事に守ってきた工場を失い、これからの夢さえも見失った貞治は、仕事をやめる決心をしてふるさとの花巻に戻りました。

それからどの位経ったでしょう。ある日、貞治のもとに、国から意外な知らせが届きました。それは、「戦争で壊された全国の電信施設の機械を新しくして欲しい」という内容でした。これまでたくさんの苦労を乗り越え、努力を積み重ねて作り上げきた貞治の技術が国にも認められたのでした。

新たな決意を固めた貞治は、花巻に工場をかまえ、以前にもまして意欲的に仕事に取り組んでいきました。そして、施設の機械を新しくしただけではなく、世界初となる日本語も英語も打てる「テレタイプ電信機」や、「漢字テレプリンター」など、世の中の人々を驚かせるような機械も次々と開発していきました。

こうして貞治は、その一生を電信にささげました。

いくつもの困難を乗り越えてきた貞治。そんな貞治の心を支え続けてきたものは、ずっと昔、電信柱の上で見た真っ青な空を飛ぶ飛行機の姿と、その時に思い描いた大きな「夢」だったに違いない。

○新興製作所の技術遺産

新興製作所は、卓越した技術力により機械式通信機器分野において、国内のトップメーカーとして戦後復興期の情報通信を支えた。それらの機械が産業遺産として認定されている。

「機械遺産」（2008 年　認定機関／日本機械学会）＝機械式通信機械群（3 種類の機器）

「情報処理技術遺産」（2009 年　認定機関／情報処理学会）＝漢字テレプリンター

○花巻への貢献度

谷村貞治は、実業家でテレプリンターの開発、新聞報道の機械化の実現などにより、技術立国の礎を築き『みちのくの電信王』と呼ばれた。また、地元の産業振興の発展や谷村学院高等学校（現・花巻東高等学校）を創立し教育分野でも貢献しました。

○谷村貞治　年表

西　暦	年齢	生い立ちと主な業績
1896 年 (明治 29 年)	0	3 月 19 日、岩手県稗貫郡新堀村（現花巻市石鳥谷町）に生まれる。
1902 年 (明治 35 年)	6	新堀尋常小学校入学。 3 年生のころ石鳥谷尋常高等小学校に転校。
1910 年 (明治 43 年)	14	石鳥谷尋常高等小学校卒業。 医師を志し盛岡の李村医院に奉公
1915 年 (大正 4 年)	19	逓信講習所入所試験を 2 年連続失敗し家出、上京。職を探したが、見つからず 5 日で帰郷。晩秋に再度上京し逓信局見習となり、後に本採用となる。
1916 年 (大正 5 年)	20	夜間部医学学校に入学するが、付いていけず断念し、神田電機学校（現・東京電機大学）入学。
1917 年 (大正 6 年)	21	神田電機学校も力不足で断念。神田正則英学校入学。
1918 年 (大正 7 年)	22	中央逓信局電気工夫から逓信局技手に昇進
1924 年 (大正 13 年)	28	英国サミエル商会電気機器部に引き抜かれる。
1926 年 (大正 15 年)	30	サミエル商会が逓信省と契約トラブルがあり、商会は目端貿易会社へ譲渡。 貞治も目端貿易会社に残る。
1937 年 (昭和 12 年)	41	退職独立。東京都蒲田区（現・東京都大田区蒲田）に旧陸海軍指定管理工場である新興製作所を設立。所長として電信機の開発・製造に携わり、逓信省からの要請を受け公衆電報用テープ式印刷電信機の研究に着手。
1945 年 (昭和 20 年)	49	本社工場を岩手県花巻に移転して GHQ から操業再開の許しを得て公衆用テープ式印刷電信機及び関連機器の開発、仮名文字印刷電信機の製造開始。
1950 年 (昭和 25 年)	54	世界初の和欧文三段シフト頁式印刷電信機を開発、テレプリンターの専門オペレーター養成のため工場隣接地に谷村学院を設立。

1954 年 (昭和 29 年)	58	功績を評価され第７回岩手日報文化賞（産業部門）を受賞。
1955 年 (昭和 30 年)	59	日本初の漢字テレプリンターを朝日新聞社と共同開発し新聞報道の機械化を実現。 発明考案の指導育成に尽力により発明協会の功労賞受賞
1957 年 (昭和 32 年)	61	電子計算機連動用のさん孔タイプライターを完成。 普通科女子高等学校の谷村学院高等学校を開校。 廃屋同然の状態だった盛岡劇場を谷村文化センターとして再建。
1958 年 (昭和 33 年)	62	印刷電信技術の貢献により紫綬褒章受章
1959 年 (昭和 34 年)	63	第５回参議院議員通常選挙に自由民主党（岩手選挙区）から立候補して初当選。
1961 年 (昭和 36 年)	65	通信事業功労に対し第 10 回河北文化賞を受賞
1962 年 (昭和 37 年)	66	北斗飲料株式会社を設立（国内 11 番目のコカコーラボトラーとして誕生）
1965 年 (昭和 40 年)	69	第７回参議院議員通常選挙でも当選し参議院議員を２期務め，政調通信部副部長、東北地方開発審議会委員、裁判官訴追委員会委員などを歴任。
1966 年 (昭和 41 年)	70	勲二等瑞宝章を受章 北斗飲料株式会社をみちのくコカ・コーラボトリング株式会社に商号変更
1967 年 (昭和 42 年)	71	谷村電気精機株式会社を設立。
1968 年 (昭和 43 年)	72	４月 20 日　療養中の東北大学附属病院で亡くなる。正四位叙勲 「技術に国境はない」という名言を残している。

参考資料／　「石鳥谷町史」、「顕彰　谷村貞治」谷村貞治先生遺徳顕彰会発行、その他

佐藤昌介（さとうしょうすけ）

1856 年、花巻城下に生まれる。札幌農学校（北海道大学の前身）の１期生としてクラークの薫陶（くんとう）を受け、農業経済学者として生涯を北海道大学と北海道の発展に尽くしたことから、「北海道の父」「北大の父」、「日本農業の父」と呼ばれる。

○佐藤昌介　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　主　な　業　績
1856 年 (安政３年)	0	11 月 14 日、盛岡藩士昌蔵、キンの長男として花巻城下の川口町に生まれる。
1863 年 (文久３年)	7	母キン死去（文久 2 年との説もあり）、昌介は 13 歳まで母の実家で暮らす。
1868 年	12	戊辰戦争。昌介御田屋小路の家に戻る。

(明治元年) 1869 年 (明治 2 年)	13	父、目時隆之進自害の責めで免官となり、昌介が家督を継ぐ。
1870 年 (明治 3 年)	14	一家で盛岡へ移住。藩校「作人館」で学び、原敬や田中館愛橘らを友とする。
1871 年 (明治 4 年)	15	上京、大学南校（のちの東京大学）に入学。（翌年家事により花巻に帰る。）
1874 年 (明治 7 年)	18	東京外国語学校（旧大学南校）に入学し、田中館愛橘、新渡戸稲造らと学ぶ。
1876 年 (明治 9 年)	20	クラークの誘いで、新設された札幌農学校に一期生として入学。
1877 年 (明治 10 年)	21	クラークの「イエスを信ずる者の誓約」に署名する。
1880 年 (明治 13 年)	24	札幌農学校卒業。 翌年、淡路島洲本の城主・稲田邦植の妹ヤウと結婚。
1882 年 (明治 15 年)	26	自費で渡米、牧場で無給見習い生として農牧業の実務を学ぶ。 翌年ジョンズ・ホプキンス大学に入学。
1885 年 (明治 18 年)	29	学術調査のためイギリス・ドイツに赴く。
1886 年 (明治 19 年)	30	ジョンズ・ホプキンス大学卒業。ドクトル・オブ・フィロソフィーの学位を得て帰郷。同年、札幌農学校教授となる。
1887 年 (明治 20 年)	33	アメリカで苦学中の新渡戸稲造らが、昌介の推薦により札幌農学校助教に任じられ、ドイツ留学を命じられる。
1894 年 (明治 27 年)	38	札幌農学校校長となる。（教授を兼務）
1899 年 (明治 32 年)	43	巌鷲協会（札幌岩手県人会）設立、初代会長となる。 新渡戸稲造らとともに日本初の農学博士となる。
1907 年 (明治 40 年)	51	東北帝国大学農科大学学長となる。（教授を兼務）
1913 年 (大正 2 年)	57	カーネギー財団の招きにより、第２回日米交換教授として渡米。（第 1 回は新渡戸稲造）
1918 年 (大正 7 年)	62	北海道帝国大学創設。初代総長となる。（同大農科大学長を兼任）
1924 年 (大正 13 年)	68	宮沢賢治が花巻農学校生徒を引率して北大を訪問。同郷のよしみもあって激励する。
1928 年 (昭和 3 年)	72	男爵の称号を受ける。
1930 年 (昭和 5 年)	74	北海道帝国大学総長を退任。
1933 年	77	新渡戸稲造死去、葬儀委員長となり葬儀を執り行う。

(昭和８年) 1939 年 (昭和 14 年)		病床の中で妹婿の菊池捍(まもる)に漢詩を贈る。在京の旧友に「我将に世を去らんとする感慨深し」と電文をしたためる。６月５日、札幌で永眠。享年 84 歳。

島善鄰(しまよしちか)

1889 年に花巻の武士の家系に生まれ、北海道大学で花巻出身の学長佐藤昌介の薫陶を受ける。のちに、荒廃し危機的状況にあった青森のリンゴを救うため研究を重ね、「リンゴ博士」「リンゴの神様」と呼ばれた。北海道大学第６代学長も務めている。

○島善鄰　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　主　な　業　績
1889 年 (明治 22 年)	0	８月 27 日、花巻城に勤める武士であった島家に、父時中、母きちの五男として生まれる（生地は広島）
1896 年 (明治 29 年)	7	東京府立赤坂尋常小学校入学（２年終了の修業証書現存）。
1897 年 (明治 30 年)	8	父時中死去。
1899 年 (明治 32 年)	10	高木尋常小学校（矢沢尋常小学校の前身）通学。
1903 年 (明治 36 年)	14	矢沢高等小学校４年卒業。
1904 年 (明治 37 年)	15	盛岡農学校入学。
1907 年 (明治 40 年)	18	宮城県立仙台第一中学校５年入学。
1908 年 (明治 41 年)	19	東北帝国大学農科大学予科入学。
1911 年 (明治 44 年)	22	東北帝国大学農科大学農学科（のちの北海道帝国大学）第１部入学。学長の佐藤昌介や新渡戸稲造の薫陶を受ける。
1914 年 (大正３年)	25	東北帝国大学農科大学農学科第１部卒業。東北帝国大学農科大学助手。
1916 年 (大正５年)	27	青森県農事試験場からの強い要請で、主任技師として赴任。 病害虫、土壌、品種など多岐に渡るリンゴ研究の始まりとなる。
1918 年 (大正７年)	29	花巻町の豪商で貴族院議員の瀬川弥右衛門氏次女浦子と結婚。
1922 年 (大正 11 年)	33	欧米６ヶ国へ出張。
1923 年	34	帰国。アメリカからゴールデン・デリシャスを持ち帰る。

(大正 12 年)		（のちに改良されてふじやつがるとなり、全国に普及する。）
1926 年	37	満州上海方面へ出張。
(大正 15 年)		
1927 年	38	帰国。北海道帝国大学助教授。
(昭和 2 年)		
1936 年	47	論文「リンゴモニリア病に関する研究」で農学博士となる。陸軍特別大演習で北海道巡幸の昭和天皇にリンゴモニリア病についてご説明する。
(昭和 11 年)		
1939 年	50	北海道帝国大学教授となる。
(昭和 14 年)		
1945 年	56	北海道帝国大学農学部長となる。
(昭和 20 年)		
1948 年	59	北海道農業試験場長となる。
(昭和 23 年)		
1950 年	61	弘前大学文理学部教授兼任。北海道大学学長となる。
(昭和 25 年)		昭和９年に退任するまで、各種の委員会委員を務める。また岩鷲協会第２代会長として佐藤昌介の跡を継ぎ、学生から「島おやじ」と親しまれた。
1954 年	65	北海道大学学長退任。弘前大学教授。
(昭和 29 年)		
1956 年	67	北海道公安委員長となる。
(昭和 31 年)		紫綬褒章受章。
1958 年	69	弘前大学教授退任。
(昭和 33 年)		
1960 年	71	国際農友会会長として訪米。
(昭和 35 年)		
1964 年		８月９日札幌市の自宅で心筋梗塞のため逝去。享年 75 歳。正三位勲一等瑞宝章を受章。墓所は花巻市坂本町の瑞興寺。
(昭和 39 年)		「自彊不息」（自ら勉め励んで、一刻も休まないこと）を座右の銘とした。

淵澤能恵（ふちざわ の え）

1850 年、現在の石鳥谷町で南部北家家臣の家に生まれ、アメリカ留学を経て女学校の教師を歴任。56 歳(数え年)で韓国を視察した時に女性の実情に触れ、その後亡くなるまでの 30 年間を韓国の女子教育に捧げた。

〇淵澤能恵　年表

西　暦	年齢	生　い　立　ち　と　主　な　業　績
1850 年	0	５月８日、花巻市石鳥谷町関口、南部北家家臣淵沢武市（ふいち）・ツヤの次女として生まれる。
(嘉永 3 年)		
1851 年	1	２月、東和町旧土澤の武家濱田新次郎・カルの養女となる。後に養父死亡。
(嘉永 4 年)		

1873 年 (明治 6 年)	23	兄を頼り釜石に行き、パーセル家のメイドとなる。
1879 年 (明治 12 年)	29	パーセル家帰国に従い渡米。ロサンゼルス市に滞在。のち、サンフランシスコに移住。キリスト教の洗礼を受ける。
1882 年 (明治 15 年)	32	帰国、京都同志社女学校に入学。生徒仲間では母親のような存在として評判が高く、徳望家と評されていた。
1885 年 (明治 18 年)	35	同校中途退学。 同年 9 月、東京東洋英和女学校で教鞭をとる。のち、一橋高等女学校学監。下関洗心女学校・福岡英和女学校等で教育にあたる。
1904 年 (明治 37 年)	54	この頃　養母死亡により復籍。
1905 年 (明治 38 年)	55	5 月、貴族院議員の岡部長職(おかべながもと)夫人の誘いに従い、韓国視察に参加。韓国女性の実態を目の当たりにする。
1906 年 (明治 39 年)	56	日朝婦人会を組織、総務となる。 同年 5 月、明新淑明女学校創立。校長に名門の李貞淑を迎え、自ら学監となる。「身を以て子弟に及ぼす感化」を教育方針とした。
1912 年 (明治 45 年)	62	1 月 13 日、第２代理事長に就任。この時女学校は財団法人淑明学院となっており、能恵は昭和 11 年没するまで勤める。
1915 年 (大正 4 年)	65	9 月、勲六等宝冠章を賜る。従七位に叙される。
1927 年 (昭和 2 年)	77	東亜日報社教育功労賞受賞、その他種々受賞する。
1936 年 (昭和 11 年)		2 月 8 日、永眠。学校葬が営まれ、京城府弘済墓地に埋葬。享年 87 歳。 その後、紫波町本誓寺、東京多磨墓地、土沢の濱田家の浄光寺や生家の菩提寺などにも分骨埋葬されているという。なお、淑明女学校は現在淑明女子大学となり現存している。 また、文献は大正十年石鳥谷町旧八重畑村誌に初めて紹介され、その後多くの著書に掲載されている。

にぎわいイベント

ＳＬ銀河

○ＳＬ銀河の出発

C58 形蒸気機関車（愛称/シゴハチ）は、地方線区の輸送力増強を目的として旅客・貨物列車をけん引する客貨両用機として造られた中型の SL で、少し小振りながらも貨物機の力強さと旅客機の軽快さを共存させた車体である。

今回復元している 239 号機は 1940 年(昭和 15 年)6 月に川崎車両で製造され、名古屋・奈良で活躍し、1972 年(昭和 47 年)に用途廃止となるまで、32 年間のうち 27 年間、宮古機関区を中心として岩手県内で活躍していた。

引退後、盛岡市青山４丁目の県営運動公園の交通公園に 1973 年(昭和 48 年)５月１日から展示されました。約 40 年間市民や SL 等保存会、鉄道マンらの手によって良好な状態で保存されていた。それが「SL 銀河」として釜石線を中心とした東北エリアで復活活躍につながった。

2014 年(平成 26 年)４月、JR 東日本では、東北地方に旅行されるお客さまに SL の旅を体験していただくことで、観光面からの復興支援及び地域の活性化を目的として C58　239 を復元した。

○SL 銀河の仕様

SL 車両は、機関車Ｃ５８　２３９号機、旅客車キハ 141 系を使用し、名称を SL 銀河とした。座席数は、４両編成で定員 176 名である。

列車の外観や内部は、釜石線を舞台に描かれた宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を代表的なテーマとしてプロデュースし、宮沢賢治の世界観や空気感、生きた時代を共有する事で東北の「文化・自然・風景」を感じていただく空間となっている。

○機関車Ｃ５８　２３９号機ナンバープレートの記号

「Ｃ」＝動輪の数(Ｂ＝２対、Ｃ＝３対、Ｄ＝４対、Ｅ＝５対)

〔 動輪とは、機関車で動力を受けて回転し、列車を動かす車輪をいう。 〕

「５８」＝機関車のタイプ(石炭・水を積む場所)

１０～４９・・タンク機関車〔機関車本体に石炭と水を積んだ機関車。主に短距離運転〕

５０～９９・・テンダー機関車〔機関車本体とは別に炭水車(テンダー)を連結する機関車。主に長距離運転〕

「２３９」＝製造番号(Ｃ５８形で２３９番目の製造)

○SL 銀河が停車する駅名とエスペラント語の愛称

1995 年(平成７年)に JR 東日本釜石線は、地域密着型の鉄道路線として作っていくために、「銀河ドリームライン釜石線」という愛称をつけた。この愛称は、釜石線の前身である岩手軽便鉄道が宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のモデルになっていることからきている。

この時に、全駅にエスペラント語の愛称がつけられた

駅 名	エスペラント語愛称	意　味	駅 名	エスペラント語愛称	意　味
花巻	チエルアルコ	虹	遠野	フォルクローロ	民話
新花巻	ステラーロ	星座	上有住	カベェルノ	洞窟
土沢	ブリラ リベーロ	光る川	陸中大橋	ミナージョ	鉱石
宮守	ガラクスィア カーヨ	銀河のﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ	釜石	ラ オツェアーノ	大洋

参考資料　　ＪＲ東日本ＳＬ銀河情報、その他パンフレット

にぎわいイベント

スポーツ

○花巻温泉野球場、陸上競技場

花巻の現運動施設、日居城野運動公園の前身は、同所にあった花巻温泉野球場と陸上競技場であり、昭和９年（1934）６月に完成したものである。

昭和初期、国内では野球・陸上競技を中心に年々スポーツ熱が高まっていたが、岩手県はスポーツ施設がほとんどなく、選手が育たないことから、岩手県勢の成績は振るわなかった。

そんなとき、花巻温泉と花巻電鉄がスポーツ施設造りの用地として日居城野（現松園町）

用地を提供したことから、７千人を収容できる「県下一の野球場」が造られた。花巻のこの施設は、県中央部に位置し交通の便が良いこと、花巻電鉄が「花巻グラウンド駅」を設けたため、大勢の観客が押し寄せるところとなった。

この施設を活用することにより、野球の県予選やプロ野球の試合、陸上の東北大会など大きな大会が多数開催され、東北有数の競技場として栄えた。

○いわて国体・いわて大会

２０１６年に岩手県で第７１回国民体育大会「希望郷いわて国体」が開催される。花巻市では正式競技６競技、特別競技１競技、公開競技２競技、デモンストレーションスポーツ１競技、冬季開催競技１競技の計 11 競技が行われる。また、第１６回全国障がい者スポーツ大会「希望郷いわて大会」も開催され、花巻市では３競技行われる。

・国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにすることを目的としている。

・障がい者スポーツ大会は、障がいのある方が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がいのある方の社会参加の推進に寄与することを目的としている。

いわて国体（花巻市開催競技）

＜正式競技＞サッカー・ボート・バレーボール・ハンドボール・ソフトボール・クレー射撃

＜特別競技＞高等学校硬式野球

＜公開競技＞綱引・ゲートボール

＜デモンストレーションスポーツ＞リレーション３（３人で行うゲートボール）

＜冬季開催競技＞アイスホッケー

いわて大会（花巻市開催競技）

＜正式競技＞ソフトボール・フットベース・バレーボール

○長靴アイスホッケー

長靴アイスホッケーなる競技が、花巻で行われていることを御存じだろうか？

長靴アイスホッケーとは、冬期間積極的に戸外で体力づくりに取り組んでいただけるよう、アイスホッケー競技のルールを簡易化し、気軽に親しみ楽しめるゲームとして北海道釧路で生まれたスポーツ。

あまり知られていないが、花巻でも石鳥谷地区を中心に冬期間行われており、毎年２～３月に石鳥谷アイスアリーナで大会が開催されている。現在、石鳥谷・大迫・花巻の各地区や盛岡などから多数のチームが参加している。

アイスホッケーと大きく違う点は、

・スケート靴ではなく長靴（ゴム底のもの）を履いてプレーする。

・ボールは、パックではなくノーパンクボールを使用。（当たっても痛くない）

など、気軽に楽しめる競技となっている。

参考資料　　「花巻市　いわて国体パンフレット」「長靴アイスホッケールールブック」

イベント

ここでは主に毎年定期的に開催されている祭りやイベントを簡単に紹介する。（都合により変更される場合あり。）

１月

２日　胡四王蘇民祭（胡四王神社、市指定無形民俗文化財）

２日　大償神楽　舞初め

３日　岳神楽　舞初め

旧暦正月７日　五大尊蘇民祭（光勝寺、市指定無形民俗文化財）

２月

11 日　わんこそば全日本大会(花巻市文化会館)

毎年２月 11 日に開催。わんこそばを制限時間内に何杯食べられるか競う。

11 日　たろし滝測定会(葛丸川渓流)

沢水が凍りついてできる大氷柱の太さで、その年の作柄を占う。

２月中旬～３月上旬　八日市ひなまつり(八日市いきいき交流館)

手づくりのつるし雛が所狭しと会場を埋め尽くす。手芸作品なども展示される。

２月下旬～３月上旬　おおはさま宿場の雛まつり(大迫町内)

町内の商店や民家を巡りながら、代々受け継がれている豪華な雛人形が見られる。

３月

17 日　早池峰神社蘇民祭(早池峰神社)

４月

29 日　大沢温泉金勢まつり(大沢温泉)

金勢様をみこし型にかつぎ、露天風呂で１年のほこりを洗うユーモラスな祭り。

５月

ゴールデンウィーク　全国泣き相撲大会(成島三熊野神社)

数え年２歳の子供による泣いたら負けの勝負。参加豆力士は毎年 1,000 名を超える。

１５日　高村祭(高村山荘)

高村光太郎が花巻に向けて疎開した日に、山荘詩碑前で詩の朗読等が開催される。

６月

第２日曜日　早池峰山山開き(早池峰山)

山開きの神事。山頂の早池峰神社の奥宮では早池峰神楽権現舞が奉納される。

６月中旬　南部杜氏の里まつり(石鳥谷生涯学習会館)

「南部杜氏」発祥の地を会場に、花巻ならではのお酒を心ゆくまで楽しむ。

６月中旬～７月上旬　バラまつり(花巻温泉バラ園)

約 450 種、6000 株あまりのバラが咲き誇り、様々なイベントが開催される。

７月

最終土日　田瀬湖湖水まつり(田瀬湖)

湖面に映える水中花火、ウォータースポーツフェスティバルも開催される。

８月

１日　早池峰神社例大祭

８月上旬　イーハトーブ音楽祭(なはんプラザ)

花巻の風土やロケーションに調和する“音楽パフォーマンス”による音楽祭。

６日～７日　土沢七夕まつり(土沢商店街)

大正時代からの祭。鼓笛隊パレードや出店、「絵とうろうまつり」も同時開催。

13 日　石鳥谷夢まつり(大正橋公園石鳥谷水辺プラザ)

未来へ夢を託す花火大会をメインに、アトラクションなども開催される。

14 日・16 日　あんどんまつり(大迫町内)

武者絵や仏画を施した高さ５mを超える迫力満点のあんどん山車が練り歩く。

８月下旬　イーハトーブフォーラム(北上川河川敷ほか)

光と音のページェント(花火)やツーデーマーチ(ウォーキングイベント)が行われる。

９月

８日～10 日　石鳥谷まつり(石鳥谷町内)

南部風流山車が目抜き通りを練り歩き、手踊りや民俗芸能、樽神輿が繰り出す。

第２土曜を中日とする３日間　花巻まつり(花巻市内)

風流山車、神輿、鹿踊・神楽権現舞、花巻ばやし踊りなど、花巻を代表する祭り。

９月中旬　土沢まつり(土沢商店街)

鏑八幡(かぶらはちまん)神社の例祭。豪華な山車や小学生の奉納相撲大会、伝統芸能も開催される。

９月中旬　大償神社例大祭

第３日曜日　おおはさまワインまつり(大迫町内ぶどうの丘)

早池峰神楽やワイン娘のぶどう踏み、ステージイベントなどが繰り広げられる。

21 日　賢治祭(けんじさい)(桜町雨ニモマケズ詩碑)

宮沢賢治の命日。賢治作品の朗読や演劇などさまざまなイベントが行われる。

10 月

初旬　賢治葛丸祭(葛丸ダム)

葛丸湖畔の賢治歌碑前にて、宮沢賢治作品の朗読、野外劇、合唱などを開催。

11 月

23 日　倉沢人形歌舞伎(くらさわにんぎょうかぶき)(倉沢人形歌舞伎伝承館)

100 年以上の歴史を持つ人形芝居、歌舞伎や浄瑠璃の演目を上演する。

12月

第３日曜日　大償神楽　舞納め

17 日　　岳神楽　舞納め

方言（ほうげん）

○なぜ今、方言なの？

「未来へ語り継ごうよ、花巻の言葉」

地域には、それぞれ、そこではぐくまれた固有の言葉がある。あったかくて、優しくて、懐かしい・・もちろん花巻も例外ではない。テレビ等のメディアの発達で、最近は若い世代はあまり使わなくなってきたようだ。でも、標準語では伝えきれない、微妙なニュアンスを含む方言ってたくさんあるよな？そんな素晴らしい花巻の言葉を大切にし、「おらほの言葉」に誇りをもって語り継いでいくべ？

○意外？これも方言？

「標準語だと信じている人も多数いるのでは？」

まげる（まがす）＝こぼす、なげる＝捨てる、髪をけずる＝髪をとかす

かます＝（砂糖を）かきまぜる、わらしゃんど＝こども、かっちゃ・とっちゃ＝母・父、

じさま・ばさま＝祖父・祖母、まま＝ごはん、でご＝だいこん、べご＝うし、たまな＝キャベツ

きみ＝とうもろこし、びっき＝かえる

○話してみよう！～基本編～

「ありがどござんちゃ」（花巻の人はどうしていつもお礼をいっているの？）

他所からきた人が最初に不思議に思うほど、花巻の人は人と会ったらまず「ありがどござん（あん）ちゃ」と挨拶をする。これは「いつもお世話になり、ありがとうございます」という意味を含んでいる。最初に日ごろの感謝の気持ちを表現するなんて素敵だと思う。

○「Ｎｏ」の使い方　（微妙にニュアンスが違うところに注意！）

・単純に違うとき「んだね」＝「佐藤耕作さんだっか？」「んだね！（ちぐ！）わしゃ宗助・・」

・嫌だという感情がはいるとき「やんか」＝「飲みさ行くべ！」「やんか（やんた）」

・許可しないとき「わがね」＝「こづかい値上げして・・」「わがね！（わね！）」

○「Ｙｅｓ」の使い方　（短い言葉にいろんな感情をのせていってみよう！）

・んだ。＝普通に同意。　　・んだ！＝積極的に同意。

・んだんだ！＝かなり積極的に同意。　　・んだんだんだ！＝我が意を得たり！

○話してみよう！～応用編～

「じゃはオールマイティ」（いろんな場面に応用が効くこの上なく便利な言葉）

※「驚いたらとりあえず・・」

犬の糞を踏んだときにも　「じゃ！」　　子供の通信簿をみたときにも　「じゃ！」

※「話すきっかけをつくるときにも・・」

「じゃ、鈴木さん　ちょっと・・」　　「じゃ、この間の件だども・・」

会話の中に、適宜取り入れてみよう！

○一歩進んだ応用編（これが自然に使いこなせれば大したもの！）

連発したり、「さいさい」をつけてもグッド。「さいさい」の時、頭の後ろに持っていくとＯＫ。

「じゃじゃじゃじゃ、さいさい！」

○ぬくもり伝わるおもてなしの言葉（どんどん話しかけてみよう！）

※来訪を感謝し、ねぎらう。　「まずまず、よぐおでったごと」

※滞在を歓迎する表現。　「ゆっくりしてってこねや」

※誰かにあったらこう挨拶を

「まずまず、ありがどござんちゃ」　「じゃじゃじゃ、ありぁどあんちゃ」

※おいとまするときの挨拶は

送る人「まだ来てこねや、んで、まんつ」　帰る人「まだ来らんちゃ！んで、まんつ」

ばさまから一言　「まま残すとまなぐつぶれるぞ！」

昔は、お茶碗に一粒でもごはん粒が残っていると、こんな風にスゴイ勢いでしかられた。ばさまの世代は食べ物が貴重でしたから、主食のごはんもあわやひえなどの雑穀で量を増やし、大事に大事に食べました。そんなばさまには、食べ物を粗末にするなんて目がつぶれるくらい罰あたりなのだった。飽食の時代と言われる今、あえてばさまの一言に耳を傾けてみねっか？

じぇんごって何？

田舎を意味する「在郷」という言葉が訛ったもの。主に北東北で使われた方言で、地域によって「じゃんご」「じゃいご」などと、微妙に発音が変わる。

田舎の言葉、風土、文化を総称しており、「じぇんごたろ」は、「田舎者」を意味する。

賢治作品にある方言の意味

方　言	共通語	作　品
あげろじゃ	さし上げなさい	なめとこ山の熊
あめゆじゃとてちてけんじゃ	みぞれをとってきてくりませんか	永訣の朝
ありっきり	有るだけ全部	狼森と笊森、盗人森
あんこ	若い男　おにいさん	十六日　祭の晩
生ぎもんだべが	生きものだろうか	鹿踊りのはじまり
うずのしゅげ	オキナグサのこと	おきなぐさ
海だべがど	海だろうかと	高原
おあだりゃんせ	（火に）あたってください	小岩井農場
お通しゃてくなんせや	通してくださいネ	山地の稜
がおらぬぃで	力を落とさないように	植物医師
げろ呑み	噛まないで飲み込む	十六日
こたに	こんなに	永訣の朝　十月の末
こっちだべすか	こちらでしょうか	植物医師
さきた	さっき	種山ケ原の夜
鹿踊りだじゃい	鹿踊りだよ	高原
シャッポ（プ）	帽子	風の又三郎
助け（すけろ）	手伝ってくれ	虔十公園林
そでござんすか	そうでございますか	山地の稜
たまげた	驚いた　驚くほど	十月の末
どごだべぁんす	どこなのでしょうか	葡萄水
びっき	蛙	十六日
もっきり	コップ酒	泉ある家

参考資料　観光課パンフレット「じぇんごＢＯＯＫ第一巻」

宮沢賢治学会・音声による宮沢賢治方言作品「うずのしゅげ」

南万丁目方言集「なはん」より　７２の方言

方言	共通語（意味）	方言	共通語（意味）
あがってじぇ	召し上がってください	つづこまる	うずくまる
あのなっす	あのですね	てあます	持て余す
いぎなり	急に。だしぬけに	てびらっこ	蛾
いっときま	ちょっとの間	てまどり	日雇い
うるがす	浸す	とっこす	追い越す
えらすぐねぇ	憎たらしい	とのげる	片づける
おがすねぇ	変な	ながど	仲人
おっけぇる	倒れる	なったけぇすて	生意気
おしょす	恥ずかしい	なはん	ですね
かがさらねぇ	書けない	なんじょする	どうする
かまる	嗅ぐ	にやげる	ゆでる
きたんちゃ	こんにちは	ねぇ	無い
きなぐる	切る	ねまる	座る
くぐつ	理屈っぽい	のんぺこたれ	酒飲み。飲んだくれ
くっちゃべる	良くしゃべる	はがえぐ	仕事がはかどる
けっちゃ	裏返し	ばっけぇ	ふきのとう
ごしゃっぱらげる	ものすごく腹が立つ	はっぱど	少しも
こびり	三食の間にたべるもの	ひからびた	乾いた
さきた	先刻	ひっこさん	曾祖父母
さっぱどわがね	全然わからない	ひっつみ	すいとん
しくりげった	ひっくり返った	びっき	カエル
じゃんごたれ	田舎者	ひまだれ	時間を無駄にする
しょんべ	小便	ふたづける	殴りつける
すおべき	塩鮭	へら	姉さん女房
すぐれなぇ	気分が晴れない	ほげぇ	お盆の墓参り
すすおどり	鹿踊り	まなぐ	目
すっぱね	泥のはね	まめす	健康なこと
ずるける	怠ける	みだぐなす	きれいでない
せぇずねぇ	うるさい	むじぇ	かわいそう
そこっと	音のしないように	めっかす	正装する
そんま	すぐに	めぐせ	みっともない
たなぐ	物を持つ	やだら	たくさん
たまげた	驚いた	やんべぇにせぇ	適当にしろ
ぢぇー	呼びかけの言葉	よえる	用意する
ぢゃぢゃぢゃ	久しぶりのあいさつ	れぇさま	かみなり
ちゃんとしぇ	きちんとしなさい	わげぇすたず	若い人たち

盛岡藩御焼物師　古舘家

もりおかはんごやきものし　ふるだてけ

○古舘家

江戸時代後期の江戸・文政時代、江戸の文化は活発な往来により各地方へともたらされ、盛岡藩においても庶民の生活に浸透していった。この時代以降、やきものの製作についても肥前や東北地方各地の窯などに習い、藩の御用窯や民間の窯が各地に築かれた。花巻では陶磁器の原料となる良質な原土を産出し、盛岡藩の御用窯に供給していた。

「御焼物師　古舘家」は、言い伝えによると、代々花巻人形の製作を生業とした家柄で、職人として歴史は少なくとも天明年間（1781～1789）まで遡る。

「御焼物師」とは藩の御用を勤める陶工を指し、藩御用職としての古舘家は、伊織を初めとして以降、喜子松（織部）、喜助（伊之助）、忠兵衛（喜左ェ門）と４代にわたり、御小納戸支配下にあって扶持（ふち）を受け仕えました。

古舘家は、食卓用の日用雑器をはじめ、建材である瓦や煉瓦、そして花巻人形などの工芸品にいたるまで様々な製品を世に送り出した。そこからは原土の採掘にはじまり、塑形（そけい）を経て、高度な焼成技術によって窯を巧みに操る職人たちの姿が浮かび上がってくる。

古舘家は明治維新をむかえ、その後、廃藩により藩の庇護（ひご）を失うが、激動の時代を分業体制による固い結束のもと乗り越えていった。

【古舘家の窯があった「瀬戸山」は、花巻消防署南側付近】

○古舘家と日本の近代製鉄（釜石の橋野鉄鉱山高炉）

釜石市の橋野鉄鉱山・高炉跡が、「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業」としてユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界文化遺産に登録されている。

江戸時代末期、橋野高炉を含む周辺地域には、開国による西欧列強への備えとして、大橋高炉を始めとする西洋式高炉が、盛岡藩士・大島高任の指導のもと建設された。

これらの洋式高炉の建設で、基幹部品にあたる耐火煉瓦を製造していたのが、鍛冶丁焼や花巻人形の製作で知られる古舘家である。古舘家は伊織を初代とする盛岡藩の御焼物師をつとめた家柄で、近くで豊富に産出する良質な陶土と、窯をあやつる高度な技術を持ち、高炉群の建設に大きな役割を果たしていた。

耐火煉瓦は高炉の炉底から頂部にかけて円筒状に積まれ、高炉の部位に応じて、大きさや形、耐熱温度の違いにより、煉瓦の種類を使い分けて作られた。

◆　**「手入瓦注文」**という書面が残っているが、この文書は、釜石の栗林鉱山から古舘家に宛てた手入瓦（耐火煉瓦）の注文書で、大小合わせて１２５０枚もの煉瓦を至急送るよう記されている。

◆　橋野高炉は日本の近代製鉄を語るうえで欠かせないものだが、盛岡藩士・大島高任ひとりによるものではない。古くから製鉄に携わり生業としてきた人々や、高炉に重要な耐火煉瓦を製造した花巻の製陶業者などの協力があって初めて建設が可能になったと言える。

（資料／花巻市博物館だより、収蔵資料紹介ほか）

いわて花巻空港（はなまきくうこう）

〇いわて花巻空港のあゆみ

花巻空港は、昭和３９年2月１５日に当初１２００m の滑走路で共用開始（第３種空港＝岩手県設置管理）した。そこから、人、もの、情報の交流拠点として岩手の空を広げ続けるあゆみが始まった。（同空港は昭和３６年１２月総工費４億５千万円で着工し、延長１２００m の滑走路、コントロールタワーのある鉄筋コンクリート平屋建てのターミナルビル）

３月２８日に開港式が行われ、花巻空港と東京国際空港（羽田）を結ぶ東京線に４月１日北日本航空の定期便が就航した。空港には、一番機を見ようと約１０００人の見物客が詰めかけ、ターミナルビル屋上の送迎デッキや正面玄関わきは人で埋まった。着陸したコンベア２４０型機（４０人乗り）からは乗客９人と機長と副操縦士、エアホステスが降り立ち、ミス花巻から歓迎の花束が贈られた。当時の運賃は、大人片道５８００円、往復１０４００円で、１日１往復運航された。

昭和５８年には２０００m、平成１７年には２５００m に滑走路が延伸され現在に至る。現在の国内定期便は、日本航空が、新千歳・大阪／伊丹・福岡線の３路線、フジドリームエアラインズが名古屋／小牧１路線をそれぞれ運航している。

平成２６年、花巻空港は、開港５０周年を迎えた。この半世紀、多様化する機材の受入れや増加する需要への対応、安全性の向上を図ってきた。また、より快適に空港を利用できるよう、平成２１年にターミナルビルを空港東側に新築移転、平成２３年には国際線チェックインカウンターを増築するなど需要の高まる国際チャーター便の受入機能の向上に努めた。平成２６年４月にチャイナエアラインによる国際定期チャーター便（花巻-台北）が就航、平成３０年８月には、タイガーエア台湾による国際定期便(花巻-台北)が就航した。その後、平成３１年１月、中国東方航空による国際定期便(花巻-上海浦東)が就航している。

また、東日本大震災津波の際には、人々の往来、物資輸送や広域医療の拠点として、その機能を発揮し空港の存在意義が再認識された。

翼は人や物に止まらず、文化や情報を運び、交流の輪を広げている。本格的な国際化の到来や地域間交流の活発化など、内外の諸事情が大きく変化する中、空港の果たす役割はますます重要になっている。

●空港のできごと

年	月	主なできごと
昭和３６年	１２月	空港整備事業工事着手
昭和３８年	１０月	滑走路１２００m 竣工
昭和３９年	３月	開港式
	４月	１日　開港
		花巻～東京線開設（コンベア２４０型機就航）
昭和４１年	１０月	YS-１１型機対応空港として供用開始
		東京～花巻～八戸線開設（YS-１１型機就航）
昭和４５年	５月	花巻～東京便１日２往復に増便

昭和５２年	６月	花巻～大阪線開設（YS-１１型機）
昭和５３年	８月	花巻～大阪便１日２往復に増便
昭和５４年	５月	花巻～札幌線開設（YS-１１型機）
昭和５６年	４月	花巻～東京便１日３往復に増便。乗降客数１００万人達成
	６月	岩手県空港ターミナルビル株式会社設立
昭和５７年	２月	新ターミナルビル起工式
	３月	花巻～東京便１日２往復に減便
	６月	東北新幹線盛岡～大宮間開業
昭和５８年	３月	花巻空港ジェット化開港。２０００m 滑走路供用開始
		花巻～東京線ジェット機就航（DC-9-41 型機、１２８人）
		新空港ターミナルビル完成
	４月	花巻～札幌線ジェット機就航（DC-9-41 型機）
		初の国際チャーター便就航（花巻⇔シンガポール）
	１１月	花巻～大阪線の一部（週３便）ジェット機就航（DC-9-81 型機）
昭和６０年	３月	東北新幹線盛岡～上野間開業
	６月	花巻～名古屋線開設（DC-9-41 型機）
	７月	花巻～東京線休止
昭和６１年	７月	乗降客数２００万人達成
	７月	花巻～札幌間臨時便（YS-11 型機）就航（８月３１日まで）
昭和６２年	６月	花巻～札幌間臨時便（DC-９－８０型機）就航（１１月３０日まで）
		同上　１日２往復に増便
昭和６３年	３月	東北新幹線盛岡～東京間開業
	１１月	プログラムチャーター便運航（花巻⇔ソウル、大韓航空）11/15～18
平成　２年	８月	乗降客数３００万人達成
平成　４年	７月	花巻～名古屋線１日２往復に増便
平成　５年	４月	名古屋～花巻便（DC-9-41 型機）着陸失敗炎上事故
	６月	乗降客数４００万人達成
平成　６年	９月	花巻～関西国際空港線開設（MD-81 型機）
	９月	大阪便３便化
平成　７年	４月	花巻～大阪線に中型機エアバスＡ３００型機就航
	１０月	乗降客数５００万人達成
平成　８年	６月	花巻～福岡線開設（MD-81 型機）火・水・土曜日運行
	９月	花巻～関西国際空港線休止
平成　９年	９月	乗降客数６００万人達成
	１１月	花巻～沖縄線開設（MD-90 型機）冬期間運航
	１２月	花巻～新潟線開設（JS-31 型機）日～金曜日運航
平成１１年	８月	乗降者数７００万人達成
平成１３年	３月	花巻～新潟線廃止
	８月	乗降客数８００万人達成
平成１７年	３月	２５００m 滑走路供用開始

	７月	乗降客数１０００万人達成
平成２１年	４月	新ターミナルビルオープン（平成１９年１２月着工）
平成２３年	１月	国際チャーター便、乗降客数１０万人達成
	３～５月	花巻～羽田線、臨時運航
	５月	花巻～名古屋（小牧空港）線就航＝フジドリームエアラインズ（FDA）
平成２４年	３月	花巻～福岡線再開（日本航空）
平成２６年	４～６月	花巻～台湾初国際定期チャーター便就航、週２便
	９月	花巻空港開港５０周年記念式典
		スカイフェスタ２０１４・航空自衛隊ブルーインパルス展示飛行
平成３０年	８月	花巻～台北初国際定期便就航＝タイガーエア台湾
平成３１年	１月	花巻～上海浦東国際定期便就航＝中国東方航空

◆いわて花巻空港の概要

飛行場の位置	岩手県花巻市
運用時間	８：００～１９：００（１１時間３０分）
着陸帯	長さ：２，６２０m　幅：３００m
滑走路	長さ：２，５００m　幅：４５m
誘導路	長さ：２，９１０m　幅：３０，３４，２３，２８，５m
エプロン	面積：８１，０９３㎡ バース数（駐機地点）：２４バース　大型ジェット機用　１バース 中型ジェット機用　１バース 小型ジェット機用　２バース プロペラ機用　１バース 小型機用　１９バース
駐車場	面積：１７，２２５㎡　台数：１，１５０台（うち身障者用　１２台）

（資料／いわて花巻空港開港５０周年記念誌より）

◆いわて花巻空港イメージソング『緑の町に舞い降りて』

いわて花巻空港のイメージソングは、ユーミンこと松任谷由美さんが昭和５４年に発表した『緑の町に舞い降りて』という曲を使っている。この曲は、松任谷さんが昭和５０年に岩手を訪問したときの印象をモチーフに創られたといわれており、新ターミナルオープンの年、平成２１年３月より空港館内の BGM で流れており、この曲の歌詞レリーフは、ターミナルビル２階出発ロビーに設置されている。

●ユーミンのリンゴの木

平成２２年４月、いわて花巻空港新ターミナルビルが１周年を迎えたが、それを記念して空港では、岩手の果実を代表するりんごの樹を、４月１８日「ユーミンのりんこの樹」として空港敷地内多目的広場に植樹されている。

岩手軽便鉄道（いわてけいべんてつどう）

○岩手軽便鉄道のはじまり（資料／岩手県立博物館だより、２００５．３）

明治４４年（１９１１）岩手軽便鉄道株式会社として創立。岩手軽便鉄道は花巻から仙人峠まで（６５．４㌔）の軽便鉄道である。（後にこの区間は軽便鉄道を主体に改築し、国鉄釜石線になる）当時、東北線が開通し、岩手県の内陸部と沿岸部を結ぶ交通網の整備が必要であった。釜石側には釜石鉱山鉄道が走っていたものの、遠野側と釜石側とでは隣の駅で水平距離４㌔に対し、約３００㍍の高低差がある交通の難所仙人峠（海抜８８７㍍）が人々の行く手を阻んでいた。

そしてこの仙人峠を通る難工事に着手したのが実業家金田一勝定氏だった。しかし、この巨大な壁を越すことができず、あと数㌔と迫りながら断念せざるを得なかった。この後、事業は国鉄が完成させた。

岩手軽便鉄道株式会社＝資本金１００万円、初代社長・金田一勝定、本社・花巻町 軽便鉄道＝線路幅が７６２㍉と狭く、機関車と車両も小型の小規模な鉄道。国鉄標準幅１０６７㍉

○あゆみ

東側は、花巻・土沢駅間大正２年開通、西側は、遠野・仙人峠間大正３年開通と東西両方から順次延伸営業開通し、花巻から仙人峠まで開通したのは大正４年（１９１５）１１月だった。当時の軽便鉄道花巻駅は、現在のホテルグランシェール西側から、なはんプラザ辺りだった。

昭和１１年（１９３６）８月悲願がかなって、岩手軽便鉄道は国有化され「鉄道省釜石線」となり、この岩手軽便鉄道株式会社は創立後２５年間の幕を閉じた。

この後、軽便鉄道の線路幅を改めて、国鉄標準幅に改修し、軽便花巻駅は国鉄花巻駅へ乗り入れるよう改めるため、似内駅までの区間は、この時に大きく路線を付け替え、鳥谷崎駅が廃止された。この線路幅改修工事は、昭和１８年（１９４３）９月に完了し、花巻・似内駅間は現在の釜石線のルートになった。その後、釜石側の難所工事やら幾多の困難を乗り越え昭和２５年（１９５０）１０月１０日、現在の釜石線９０．２㌔が全線開通した。

○国有化に尽力した三鬼鑑太郎（資料／写真集「栄光の軌道・花巻電鉄」発行:花巻電鉄 OB 会）

慶応２年（１８６６）４月、福島県出生。鑑太郎は、明治法律学校（現明治大学・明治２１年卒）卒業後、岩手県庁に入ったが、大正３年３月岩手軽便鉄道会社常務に招かれ退職した。金田一勝定社長をよく補佐し、増資を図り岩手県からの補助金獲得に成功して岩手軽便鉄道は大正４年に全線開通した。昭和６年金融恐慌で盛岡、岩手、第九十の三銀行が崩壊、金田一コンツェルンの盟主で鉄道社長の国士氏は追われるように盛岡を去り、その後岩手軽便鉄道の社長には、常務の鑑太郎が就任した。

鑑太郎の大きな仕事は経営が悪化する岩手軽便鉄道の国有化だったが、昭和１１年８月、悲願がかなって国有化されることになった。鑑太郎は、この年２月衆議院議員総選挙が行われ、岩手二区から推されて立候補し、激戦だったが、日鉄釜石製鉄所の庶務部長をしていた二男の隆の懸命な応援もあり、岩手軽便鉄道の国による買収に心血を注ぐ鑑太郎の働きと隆の応援が評価され、４位に食い込み当選した。８月１日の鉄道省との引継式で、三鬼鑑太郎社長は、労苦をともにしてきた従業員に別れの挨拶を述べているが、その内容は感銘深いも

のがあった。・・・鑑太郎は、昭和１８年（１９４３）４月逝去した。子の三鬼隆氏は、後に八幡製鉄社長となり、日航機「もく星号」墜落事故に遭い殉職、孫には新日本製鉄会長の三鬼彰氏がいる。外曽孫にタレントの出川哲朗がいる。

知ってソンのない？　雑学

花巻電鉄（はなまきでんてつ）

〇花巻電鉄のあゆみ

花巻電鉄の発端は、大正元年１１月に花巻電気会社が開業したことである。（県内２番目の電気会社）この会社は、豊沢川から引いた新田堰を利用した出力５０kw の「松原発電所」を設け、電灯供給はもちろん、動力供給も始めた。

花巻電気では、電気需要戸数は７４３戸であり、営業成績は順調で配電線の架設が伸びるにしたがい、北西部に開けた温泉地に余剰電力を利用し、電車を通したらどうかという話が持ち上がった。

温泉の数が多く、人家もまとまっている豊沢川沿いの温泉郷に電車を走らせることを計画し、大正２年（１９１３）、花巻電気軌道会社発起人会を設けた。

同発起人は花巻―志戸平間の電車軌道敷設を出願し、大正３年８月に西公園―松原間（８．１㌔）が東北地方初の電気鉄道事業の許可になったが、１１月に権利を親会社の花巻電気に譲渡した。同社では、さっそく松原発電所の発電能力を増強するなどの建設工事に取り掛かったが、思わぬ手違いも生じた。大正３年（１９１４）、ドイツの会社に注文したレールを積んだ船が行方不明となってしまった。八方手を尽くし、ハワイに入港していることが分かったのち、手はずに苦労したが、大正４年（１９１５）４月に受け取りを完了後、突貫工事でレール敷設し、同年９月に西公園―松原間が開通、待望の“一番電車”が走った。

客車は、２４人乗り、貨車は３トン積み各１台購入。運行を行った９～１１月までの７５日間で４３３８人の乗客と４５１トンの荷物を運んだ。開通翌年の大正５年（１９１６）９月、松原―志戸平間が開通した。その後大正７年（１９１８）１月、岩花線西公園―西花巻―花巻間（８．１㌔）が開通。この区間は東北線をまたがなければ結べない難工事であった。

また、志戸平―西鉛間は、鶯沢鉱山の鉱石運搬用として馬車鉄道が通っていたが、鉱山は間もなく不況に見舞われ経営がうまく行かなかったので、花巻電気では馬車鉄道を買収した。そして人が乗れる設備を整えた馬車鉄道が志戸平でドッキングした。この馬車は数年後に電車軌道に切り替えられていった。（大正１２年志戸平―大沢間電車化。１４年大沢―西鉛間開通）

★花巻温泉線

大正７年（１９１８）西花巻―花巻温泉間の電車の原点は、「台鉄道建設計画」である。この時期、花巻温泉の開発がまだはっきりせず、台鉄道の建設は海のものとも山のものともわからなかった。地元のある豪商が、台温泉にはそれなりの湯治客があるが、花巻から遠く、交通も不便なため、近場に温泉を活用した保養地があればという“夢”を描いた。こうした動きが、半信半疑だった台の人々をその気にさせ、「台新温泉計画」はみんなを巻き込む計画に発展した。

この新温泉計画は、大正１２年８月、台温泉から湯を引いて開業することとなり、始めは

旅館、宴会場、貸別荘などであったが、後にレジャー施設を備えるまでに発展した。名称も台新温泉から花巻温泉と変更し現在に至っている。

大正８年に、台鉄道創立発起人会が建設始動したが、暗礁に乗り上げ大正１０年に盛岡電気工業が事業を引き継いだ。この盛岡電気工業は、後に花巻電気を吸収合併、温泉軌道会社を買収し、馬車鉄道を電車軌道に切り替える工事に着手した。台鉄道のたたき台を作った地元の有志の努力は並大抵のものではなかったが、これを引き継いではるか遠大な構想を加味した盛岡電気工業の金田一国士の実績は高く評価される。

金田一国士　＝　盛岡銀行・電気・交通・花巻温泉など各界の中心的な地位にいた実業家（明治１６年生）

大正１４年（１９２５）７月、レールの敷設を終わったが、変電所の完成が遅れ、架線に電気を流せないでいた。しかし、「電車がだめなら列車を走らせろ」という要望が日増しに高まった。盛岡電気工業では利用者の声に応えることとし、岩手軽便鉄道に蒸気機関車と客車の借り入れを依頼したところ、同鉄道は地方鉄道の使命から乗り入れを快諾した。

岩手軽便鉄道花巻駅を出発した列車は鉛線軌道に入り、南下して東北本線の跨線橋を渡り、西花巻駅に到着、ここで北西に向きを変えて花巻温泉線に乗り入れ、花巻温泉駅に到着した。電車が走るはずの路線に一番列車が汽笛と黒煙を上げて走る珍しい開通となり、利用客は大喜び。２ヵ月後の９月に変電所が完成し１０月１日から晴れの電車登場となり、花巻温泉・台温泉のにぎわいはさらに増した。

★花巻電鉄の鉛線と花巻温泉線は東北本線に接続する地方住民の足として大きな役割を果たしたが、なぜここに電車を走らせたかについては、やはり温泉群の存在があげられる。

大正末期、産業開発、観光開発といってもそれほど見るべきものがなく、花巻電鉄としても大金を投ずる軌道敷設のメリットはなかったはずだ。

それを敢えて行った鉛線については、花巻側から志戸平、大沢、鉛の温泉があり、また将来ボーリング可能なところが多く見受けられ、電車を通すことによって湯治客の入り込みに期待をかけたものだった。

花巻温泉線については、ずばり台温泉の開発及び台遊園地（花巻温泉）のリゾート計画実現の一体となすものだった。

★花巻電鉄は、明治末期に芽生え、大正・昭和と沿線住民の“足”となって走り続け、大きな利便をもたらしてきた。しかし、電車がいつまでも走ることを願ってはいたが、電車を利用する人がめっきり減ってきていることも知っており、バス路線への転換が打ち出されていくことも事実であった。

まさに交通体系が大きく変貌する時代の流れであり、走れば走るほど赤字となる路線の維持に限界が見え、花巻電鉄は昭和４４年８月、鉛線の全線と花巻温泉線の西花巻―花巻駅間を廃止した。

そして、昭和４７年２月１６日、“さよなら”“ごくろうさま”の横断幕などで華やかに飾った“花電車”が走り、半世紀以上にわたって数々のエピソード、ロマンを乗せた花巻温泉郷の電車はその姿を永遠に消したのである。

【参考資料／写真集「栄光の軌道・花巻電鉄」（発行：花巻電鉄 OB 会）花巻電鉄（上・中・下)】

●花巻電鉄のあゆみ

年　月		主なできごと
大正元年（1912）	１１月	花巻電鉄開業
大正２年（1913）	８月	花巻電気軌道会社発起人会設立し、電車軌道（西公園―松原間）建設出願、許可になったが、１１月花巻電鉄へ権利を譲渡
大正４年（1915）	９月	西公園―松原間開通、“一番電車”走る
大正５年（1916）	９月	松原―志戸平間開通
大正７年（1918）	１月	西公園―花巻間開通（西公園―西花巻―吹張―花巻）
	８月	温泉軌道会社が志戸平―西鉛間の馬車鉄道買収
大正８年（1919）	８月	台鉄道創立発起人会に西花巻―湯本間の建設免許
大正１０年（1921）	１２月	盛岡電気工業が花巻電気を吸収合併、社長金田一国士
大正１２年（1923）	５月	志戸平―大沢間開通
大正１４年（1925）	１０月	花巻温泉線開通（西花巻―花巻―花巻温泉）
	１１月	大沢―西鉛間開通、馬車鉄道が姿を消す
大正１５年（1926）	９月	盛岡電気工業が花巻温泉電気鉄道会社設立、花巻温泉線と鉛線の事業譲渡
昭和９年（1934）		日居城野に陸上競技場と野球場完成、グランド駅設置
昭和１３年（1938）	９月	西花巻―花巻間休止
昭和１８年（1943）		西花巻―花巻間休止中、貨物のみ運行していたが休止
昭和２３年（1948）	９月	西花巻―中央花巻（新規設置駅）間復活
昭和４０年（1965）	７月	西花巻―中央花巻間廃止【東北本線複線電化工事のため跨線橋かさ上げを要することから廃止決定】
昭和４４年（1969）	８月	鉛線、西花巻―花巻駅間廃止
昭和４７年（1972）	２月	花巻温泉線廃止　“さよなら電車”走る

協力(敬称略)

(一財)花巻高村光太郎記念会

㈱エーデルワイン

南部杜氏伝承館

花巻市観光課

花巻市文化財課

花巻市博物館

花巻新渡戸記念館

宮沢賢治記念館

萬鉄五郎記念美術館

花巻おもてなし観光ガイドの会

＝ あ　と　が　き ＝

どっどど　どどうど　どどうど　どどう

青いくるみも吹きとばせ　すっぱいかりんも吹きとばせ　『あいつは風の又三郎だぞ。』

「はなまき通検定」の参考書として編集したこの往来物（テキスト）は、皆さんの花巻の知識度を高めることと検定意欲の盛り上げに役立ったでしょうか？

既刊のテキストに新たに追加した内容もあるが、十分なものであるならば幸せである。

この往来物を基に検定問題作成班は新鮮な問題や難問（？）作成に向かっていく。

皆さんは、ジブンヲカンジョウニ入レズニ　ヨクミキキシワカリ

どっどど　どどうどと解答して欲しい。

・・・